洋艦厳島（艦長大佐成田勝郎）同日進、報知艦宮古（艦長中佐栃内曾次郎）は陸上に對し威嚇砲撃を行ひ、水雷第二艇隊、第六艇隊、第二十艇隊、第二十一艇隊は險を冒して、

掃海

十一日夜以來旅順口監視的封鎖の任務に當りつゝありし、第十二水雷艇隊は午前八時三十分を以て大窯口外に來り、灣内の測量に從事す。此時煤窯附近に於て敵の歩兵約一中隊、騎兵約五十名現れしかば直に砲撃を加へしに、敵は毫も應砲せずして退却せり。我艇隊は午後三時無事測量を終了せり。

第四十四號、第四十七號の兩水雷艇は、大窯口内の西岸に沿ふて、敵情を偵察しつゝ掃海を行ひしに、大沽山半島北西山麓を通過する電線を發見し、堀田（雄）少尉は下士卒四名と僧に艇用端舟にて上陸し、電柱五本を破壊し電線をも奪取して歸れり。當時敵兵は大沽山の山麓に九十五、徐家山の方面に一百、其他内方に當りて約一千あり、夫より煤窯の東方約二千五百メートルに進航し、陸岸を砲撃せしに果して徐家山の方面より、敵の歩兵約二百現はれ前進し來りしも、數百メートルの地に留まりて進まず。此時敵の騎兵十一煤窯の南西約二千メートルの地に現はれしかは直に之を撃退せり。宮古艦は深灣に進入し、ロビンソン角九〇〇呎の北西高地に方り、敵の哨所あるを發見し、直に之を砲撃破壊せり。敵は其後方に約十小隊伏在せしも、此砲撃に僻易して遁走せり。第四十八號、第四十九號の兩水雷艇は大窯口東岸に沿ふて掃海中、午前八時黒嘴子の南西約八鏈の地に於て敵の機械水雷を發見し、百方之れか爆沈

を努めしも効を奏せず、退艇の後ち正午過くる二十七分に至り、俄然猛烈なる爆發を爲し、第四十八號艇は兩斷せられ、約七分時にして沈沒せり。乘組員は友艇隊の爲に救助せられたるも、事急遽に出つ、悪々悲む可し、終に左の死傷者を出したり。

戰死者

海軍少尉　陰山英榮

海軍一等兵曹　樋口重作

海軍一等水兵　川勝柳吉

海軍一等機關兵　横田彦兵衛

負傷者

海軍三等兵曹　岡崎恆兵

海軍二等水兵　久利京二郎

海軍上等機關兵曹　田中善松

海軍一等機關兵　川瀬雅吉

同　小澤鐵次郎

第三艦隊の第五戰隊及ひ第二水雷艇隊（第四十五號を欠く）は、十四日早天より掃海を續行す。敵は口

ピンソン角高地の監視哨所を退却せしも、新に大沽山北東六三〇呎山の北、東側に仮設砲台と掩堡とを急設し、野砲六門歩兵一中隊を配置し、頑強なる妨害を加へしかは、我亦之に應砲しつゝ敵の機械水雷敷設而内に進入し、五箇の水雷を破壊撃沈せり。午後四時三十五分事業を中止して退却せむとする折しも、敵の機械水雷は轟然たる響と共に爆發し、宮古艦（艦長少佐片岡榮太郎）の左舷を激しく破り、二十三分時にして沈沒し左の死傷者を出せり。

戰死者

海軍一等機關兵曹　吉綺末松

負傷者

海軍二等機關兵　多田庄助
海軍上等機關兵曹　能勢源太郎
海軍一等兵曹　北野直四郎
海軍二等兵曹　島見又次郎
海軍一等水兵　川村良七
海軍一等機關兵　溝口甚
海軍二等水兵　林直熊
海軍三等機關兵曹　戸崎喜右衛門
海軍少機關士　佐藤達
海軍上等兵曹　石澤源左衛門
海軍一等機關兵曹　森清治
海軍一等水兵　濱田佐三
海軍一等機關兵　立石米吉
海軍一等主厨　川原八六
海軍二等水兵　池田良吉

同　新開龜藏
同　市川惣馬
海軍二等機關兵　信田岩吉
同　桂樹竹次郎
同　吉原芳太郎
海軍三等水兵　山口末太郎
海軍四等機關兵　林稍美

第三艦隊の第五戰隊及び第六水雷艇隊（五十六號艇を欠く）は十五日同じく大窪口に到り、掩護砲撃の下に掃海を續行せり、此時陸上に於ける敵の防備は野砲二門を增置し、野砲及び小銃の一齊射撃を以て屢々砲撃を爲し、我掃海に妨害を加へたりしも、我軍毫も屈せず掃海中、機械水雷八箇を發見し、内五箇を爆發撃沈せしめたり。斯る水雷沈設の位置より推究する時は、ロピンソン角と沙砲との結線上に於て、不規則なる三線の機械水雷を敷設したるものなる可し。

旅順口に於ける閉塞事業の困難にして悲慘を極めたること、人をして自ら戰慄たらしむ、非戰闘行動の危險は、戰闘行動の危險に比して、一層強大なることを知らしめたり。今や業に爲しつゝある所の掃海事業は、其困難なること閉塞事業と相對して讓らざる所の行動なり、而かも我軍徒らに死す可きものにあらず、背後に一層重大なるを任務あるを以て、我將士は易々として敢て之を遂行す、眞に驚嘆す可きの壯事なり。

大窪口並に深淺方面に於ける掃海の任に當りたる各艦長及び艇長左の如し、

艦長　大佐　成田勝郎　艦長　大佐　竹内平太郎
艦長　中佐　栃内曾太郎
艇長　少佐　江副武靖　艇長　少佐　山田亨
同　少佐　神宮司純清　同　少佐　内田良隆
同　少佐　荒川仲吾　同　大尉　成瀬美雄
同　大尉　權藤薫義　同　大尉　木原靜輔
同　大尉　玉岡吉郎　同　大尉　三宅大太郎
同　大尉　宮本松太郎　同　大尉　三田村誠造
同　大尉　中村正奇　同　大尉　田尻唯二
同　中尉　横地錠二　同　中尉　細木達技
同　中尉　武富成一　同　中尉　加口良乙比古
同　中尉　大寺量吉　同　中尉　牟田武正

十五日午前一時四十分、第三戰隊は旅順口封鎖の任務より歸航中、山東角の北方海面に於て闇憺たる濃霧に包まれ、巡洋艦春日は、巡洋艦吉野の左舷艦尾に衝突し、吉野は侵水甚しく不幸にも終に沈没せり、春日は直に救助艇を以て其乘組員の收容に努めたりしも、機關長以下約九十名を救助したるのみ、

幾多の生靈は海底に葬れり、悲慘の光景歷々として見るが如し。嗚々。

吉野艦乘組戰死者

艦長海軍大佐（叙功四級勲三等）佐伯開副長心得海軍少佐（叙功四級勲四等）廣渡顯一
砲術長大尉（叙功五級勲四等）末松兵市　航海長大尉（叙功五級勲五等）竹内兼藏
分隊長大尉（叙功五級勲五等）黒澤鴻藏　分隊長機關少監（叙功五級勲五等）竹内三千三
主計長大主計（叙功五級勲五等）弘瀬鶴馬　分隊長心得中尉（叙功五級勲五等）小林幾之助
分隊長心得中機關士（叙功五級勲五等）利府齊　分隊長心得中機關士（叙功五級勲五等）島村吉次郎

中軍醫　日下亮平　少尉　曾布川新平
少尉　市岡源三　少尉　久繼理一
少尉　松崎正明　少機關士　土井弘
少尉候補生　小島高彥　少尉候補生　近藤鎌吉
少尉候補生　宮城胖　少尉候補生　迎爲次郎
少尉候補生　村田熊猪　少機關士候補生　石田流芳
少機關士候補生　新貝岩吉　少機關士候補生　伊藤卓二
掌砲長上等兵曹　村尾保太郎　掌水雷長上等兵曹　井上武市

海軍船匠師　藤本光次郎
上等機關兵曹　下元庄馬
上等機關兵曹　飯田林太郎

（以下略之）

午前十一時初瀬、敵島、八島、笠置、龍田の諸艦は旅順口沖にて敵を監視中、初瀬は老鐵山の南東約十里の所に於て、敵の沈置せる機械水雷に罹り、先づ舵機を破られ續て約三十分の後ち第二の水雷に罹り終に沈沒せしかば敵島、八島、笠置、龍田は力を盡して其乘組員の救助收容中、敵の驅逐艦十六隻は此機逸す可からずと爲し旅順口内より出で來り、我艦に對し襲撃を試みしも、巡洋艦秋津洲（艦長中佐山屋池人、三千百二十六噸）同千代田、同高砂、宇治、砲艦大島（艦長中佐廣瀬武夫、六百十二噸）等（比古、六百卅噸）同赤城（艦長中佐關本秀四郎、二千七百六十五噸）同明石のありて力を協せ之を邀撃し、傍ら初瀬司令官梨羽（時起）少將、艦長中尾（雄）大佐以下三百余名を收容し得たり。

嗚呼實に何たるの不幸ぞや、敵の海上に九度戰ひ三度港口閉塞を爲し以て、敵艦の戰鬪力を殆んど殲滅せしむるに至るまで、偉効を奏し、未だ一艦一艇だも失はざりし我艦隊が、僅々三日にして二萬噸以上を失ひ、尠なからざる隊員を失ひしこと、悲悼の極みなり。夫れ斯の如く敵に死せずして我に死すもの多々。掃海の雜事豈に知る可きのみ。忠勇義烈なる英雄の心魂肘情するに餘りあり。

初瀬艦乘組戰死者

副長中佐（叙功四級勳四等）有　森　元　吉
軍醫長軍醫中監（叙功四級勳四等）開　文之助
分隊長少佐（子爵叙功四級勳四等）仁　禮　景　一
第一艦隊參謀少佐（叙功四級勳四等）塚　本　善五郎
分隊長機關少監（叙功四級勳四等）山　賀　代　三
分隊長心得中尉　秋　山　米　吉
分隊長心得大機關士（叙功五級勳五等）大　石　親　德
中軍醫　上　宮　繁　吉
少尉（叙功五級勳六等）小　林　貞　人
少尉（叙功五級勳六等）園　田　藤　一
少機關士　三　島　春　江
少尉　今　井　與　孝
少機關士　佐　藤　道　久
少機關士　山　下　重　幸
掌砲長兵曹長　佐　藤　捨　藏
掌水雷長兵曹長　岡　崎　喜代彦
海軍船匠長　田　中　治　三　郎
機關兵曹長　天　野　嘉　重　郎
少尉候補生　鈴　木　重　音
少尉候補生　小　林　精之介
少尉候補生　田　中　積
少尉候補生　內　山　義　一
少尉候補生　澁　江　良　次　郎
少尉候補生　原　田　隼　太　郎
少機關士候補生　永　原　和　衛
少機關士候補生　和　田　村　太

少機關士候補生　横田英太郎
上等兵曹　有川貞光
上等機關兵曹　田所竹藏
上等機關兵曹　河添幸作
第一艦隊附上等筆記　齋藤龜彦

（以下略之）

蓋平方面の砲撃

明石、秋津洲、千代田、須磨、大島、赤城、宇治及ひ第十四水雷艇隊は、東郷（正路）少將之を統率して十五日早天集合地点を出港し。正午旅順口に至り、先つ大島、宇治及ひ第十四水雷艇隊をして、敵島八島、筜崖等と力を協せ、敵驅逐艦の來襲を防禦し。初瀬危難員の收容を援護せしめ。夕刻に至り我艦隊一同渤海灣に侵入し十六日正午塔山附近に近つき、蓋州角附近一帶の沿岸を偵察し、陸上多少の敵兵あるを認めて之を擊破し敵は直に遁逃せり。十七日午後我戰隊は更に掃海を行ひ、金洲灣に進入し、砲艦をして澱頭に進み、鐵道架橋及ひ恰も此時通過せんとせる、運兵列車其他敵の建設物に對し砲撃を爲し、其結果敵に對し多少の損害を負はしめたり

旅順口強行偵察

斯く二萬噸以上の艦艇を失ひ、幾多戰友の生靈を海底に葬りたるも、我軍氣は益々堅忍にして、敵國併呑の慨あり、我艦隊の砲艦一隊及ひ驅逐艇隊水雷艇隊の數隊は、非常なる危險と多大なる困難とを排して、五月二十日午前一時旅順港口に接近し、敵の要塞砲壘より發つ驟雨の如き幾線猛烈なる十字砲火を冒かし、強行に偵察を試み其目的（他に顯著なる事由あるべし）を達し、天明に遽むで引揚けたり。斯る冒險的大事業たる敵灣の強行偵察に參與したる將校は、

中佐林三子雄
少佐福田岑雄
大尉遠矢勇之助
大尉尾中諦治
中尉中村良三
同　松嶋景龜
機關少監　河井義次郎
大機關士　井上盛記
中機關士　德永斌
大主計　金子宗市

少佐田中銳郎
少佐末次直次郎
大尉大角岑生
中尉齋藤國男
同　井出光輝
大機關士　富安良一
中機關士　藤井五郎
大軍醫　小池梅司

此強行偵察中雨注の如き敵彈は、唯り曉驅逐艇（三百六十三噸）のみに大破裂を被むり、左の死傷者を出したり、

戰死者

曉艦長少佐（叙功四級勳四等）末次直次郎
中尉（叙功五級勳六等）大曲眞二郎
大軍醫（叙功五級勳六等）小池梅司
機關兵曹長（叙功五級勳六等）秋山安太郎
二等機關兵曹　森武伊吉
二等機關兵　速見滿藏
一等水兵　野元貞助
一等機關兵　山本治平
一等機關兵　延喬滿雄
二等水兵　森水製鋳吉
二等機關兵　岩永與作
一等信號兵　定松長市

五月三十日午前一時砲艦四隻、驅逐隊二、水雷艇隊二を以て旅順口港外に達し、敵の要塞の砲火を冒して港口の偵察を強行せり、敵は老鉄山頂に新なる探海燈を擁へ、山腹に於ける新設の砲臺よりも熾に

大尉（叙功五級勳六等）尾中啼治
大機關士（叙功五級勳六等）井上盛記
大主計（叙功五級勳六等）金子宗市
二等兵曹　土橋象吉
機關兵曹　榊得藏
一等水兵　原初太郎
一等機關兵　淵上參藏
一等機關兵　今村圓喜
二等水兵　榮國七
二等機關兵　高柳忠一
二等兵曹　岩崎正熊

砲撃を爲し、我第三號砲艦は此偵察中に敵彈を被むり、砲一門を損し左の死傷者を出だし、他の艦艇毫も損傷なし

戰死者

一等兵曹　柳本彌六

負傷者

一等機關兵曹　奥村忠一
一等水兵　山下喜代治
一等兵曹　土井本倉吉

大連灣の掃海は六月三日以來、南方長濤の支障を排し、日夜間斷なく續行せられ、六日午後二時迄に發見し次で爆發沈せしめたる、敵の機械水雷の數實に四十一箇に逮び、尚は一方に於ては、曾て露軍の水路嚮導者たりし者を利用し、一の有望なる航路をも發見し、其既に吃水船を航通せしむるを得るに至れり。

大連灣掃海の續行七日に於て、十一箇を發見し、八日に於て十箇を發見し、孰れも爆沈せしめたり。第一回掃海事業に着手以來、種々の危難に遭遇し、艦艇を破り隊員を失ひ以て能く遂行したるもの空しからず、敵の沈設したる機械水雷を無効に歸せしめたるもの、其數實に六十二箇の多に達す。寔に之れ掃海隊員の勇敢以て克く一大冒險事業の成効を爲したるもの、多とするに足る可し。

六月六日午前零時より砲艦四隻を以て旅順口港外に逼り、強行偵察を行へり、敵は猛烈なる砲撃を以て我を邀へたり、此時第四號砲艦は敵彈八個を被りて損傷し、九十一名戰死し二名負傷し、其他は無事黎明に終り、續行七日夜より八日早天に亘り、八雲艦載水雷艇八隻を以て、旅順口強行偵察を爲す。敵は始終砲撃を爲すと雖も、毫も撓まず目的の如く遂行せり、此時隊員中左の二名敵彈の爲に戰死し其艦艇隊員共に損傷なし。

海軍三等兵曹　福永米松　　海軍一等水兵　渡邊熊太郎

六月七日第三艦隊の分遣隊は、旅順口背面沿岸の封鎖中、一部隊を北上せしめ、蓋州附近沿岸の威嚇砲撃を行へり。此時塔山附近を南下する輸送兵列車あり、我艦隊之を砲撃す、列車騒いで北方に退却せり蓋州角附近は敵の歩兵、騎兵漸次に增加し、我上陸軍の防禦に備へつゝあるも、赤城、宇治の兩艦吃水を利用して、猛激なる砲撃を爲せしかば、敵は多大の損害を被りたり。

第五章

遼東半島の上陸……普蘭店占領……赤十字旗の濫用……鐵道、電線の破壞……五十里堡の小衝突……
金州半島の激戰……大孤山上陸……高家屯……張家屯

五月四日午後我第三艦隊（司令官細谷資氏）は、第二軍第一梯團を掩護して、日午前五時三十分我第七戰隊、第二十水雷艇隊及ひ御用船香港丸、日本丸の二隻（四月廿七日佐世保を拔錨す）は遼東半島前進根據地の沿岸に着し、

遼東半島の上陸

海軍の驍將野元（爲明）大尉の率ゆる陸戰隊は、沿岸丘上に敵の哨兵數名の散在せるを發見し、之を擊退せしめたる後ち、直に上陸を爲さむとせしも時恰も干汐にして、端舟も着岸することを得ず、終に千メートルの長きに身を挺して徒涉を爲し。午前七時二十分上陸を了れり。敵は我軍の威風に戰慄し、早くも既に內陸深く遁走して一人もなく我軍一彈一撃をも試むることなく前遁して一帶の高地を占領し。八時五分日章旗高く其頂上に揭けられたり。此時第三艦隊の掩護せる陸軍輸送船隊加賀丸、秋津洲着港し。第一梯團は同しく海水を冐して徒步揚陸を始め、夜に入りて休止し、海岸一帶篝火を焚きて露營し、灣口には艦艇共に敵の夜襲に備へ翌六日曉天を待つて再ひ上陸したり。此地貔子窩の西方に當り、猴兎石と云へる寒村僻地、之れ敵の豫想外なる上陸地点にして、我軍の計劃周到なること以て知る可し。此日上陸前面には敵步約六十騎、普蘭店には約三百騎、貔子窩及ひ同街道には約四百騎あり。赤城、大島、鳥海の諸艦は、上陸兵援護の爲め陸岸に接近し、牽制行動を爲しつゝ敵兵を擊攘せり。此日上陸軍の掩護に與りたる將校は

司令官海軍少將　細谷資氏　　海軍大佐　井上敏夫

海軍大佐　梶川良吉
海軍中佐　但馬惟孝
海軍中佐　廣瀬勝比古
海軍中佐　久保田彦七
海軍中佐　淺羽金三郎
海軍中佐　山澄太郎三
（以上艦長）
海軍少佐　荒川仲吾
海軍大尉　中村正規
（以上艇長）

普蘭店占領（電信鐵道の破壞）

我上陸軍は一は電信破壞の目的を以て、黃海方面の雞子窩に。一は鐵道破壞の目的を以て、遼東灣方面の普蘭店に。各一枝隊を派遣したり。其雞子窩に向ひたる一枝隊は、何等の抵抗を受くることなく、黃海沿岸の電信を切斷することを得たり。敵は之より先き騎兵約二百騎此地に屯在したりしも、我軍の上陸を豫知し、五日早朝電信通信所の諸器械を携帶し、西方に向つて退却を爲せり。普蘭店に前進したる

海軍中佐　奧宮衞
同　西山保吉
同　藤本秀四郎
同　山屋池人
同　高橋守道
同　栃内曾次郎
海軍大尉　三宅大太郎
同　田尻唯二

我一枝隊は、翌六日午前八時頃南方の高地に於て、敵の騎兵七名、歩兵若干と會し直に之を擊退し。次て普蘭店（金州より日本里程十一里此間、三十里鐵、五十里鐵、前石河、長店孤各驛あり）に向ひしに、普蘭店には停車場を中心として、周圍の要地に敵の歩兵約三百、騎兵一箇中隊の守備兵あるを發見せしかは、古藤田（平安）上等兵外三名をして敵情を偵察せしめ、午前九時半頃戰鬪は開始せられたり、敵は我寡兵なるを侮り、多數を恃むて頑強に抵抗せしかは、奮鬪激戰と爲り、敵の死傷尤も多く、我兵亦た傷く者あり、彼我砲火を交ゆること、一時間余にして敵兵先つ列を乱たして潛走せり。此時旅順の方面より、三十餘輛を連結せる列車の進行し來るあり、即ち知る之れ敵の軍用列車なり、

赤十字旗の濫用

敵は我支部隊の前衛を見るや、直に砲口を開き車窓より一齊射擊を爲せり、茲に於て我軍隊を分ち之に應じて砲擊を加ふ。列車は忽ちにして停車し突如として赤十字旗を掲げたり。之れ例の露國が譎詐騙瞞策の出づる所、然れ共我支隊の公明なる國際法の示す所に準し、發砲を止め點檢を爲さむとして列車に近づく、此時列車（一說にはアレキシーフ總督乘車せしと傳ふ）は倉皇全速力を以て北方に急進逸竄せり。吁國際違反を云爲す敵るにして、身節に死する能はず、赤十字旗を濫用し、斯の如き陋劣の策に出で、一死以て遁れたり。我金州丸に於ける大阪軍に比して其士氣云何、天地霄壤も啻ならざるなり。

夫より支隊は工兵一部隊をして、普蘭店南方に於て鐵道橋（東清鐵道軌道なり）を破壞せしめ電線を切斷し以て其

効を奏したり。此日の小戰鬪に於て我損傷は左の如し

負傷者

一等卒　清水仙太郎
同　柳瀨小平
同　沖政藏
同　安間儀平
同　森平作
上等兵　古藤田安平
一等卒　塚本常平
同　橘詰儀助
同　西谷芳助
同・遠藤菊四郎
同　伊藤常次郎

三十里堡附近電信破壞の目的を以て一部隊は、八日午前零時集合地點を發進し、未明敵の斥候騎兵五六名に會し、直ちに之を擊退せしに、午前八時半頃三十里堡の東北方約一里半にある、龍口附近に於て敵は步兵二箇小隊、騎兵八十名を以て猛烈に逆襲し來り、我軍猶戰以て克く之を支へ、遂に敵兵を擊退したる後ち、附近の鐵道を破壞し、電線約二キロメートル宛二箇所を切斷せり。此日の戰鬪に於て、

戰死者

步兵中尉（叙功五級勳六等）桂勇喜

（以下三名戰死、九名負傷）

十二日敵情偵察と交通機關遮斷の爲め普蘭店、瓦房店（普蘭店の北方約六里半）方向に派遣したる支隊は、普蘭店附近

にある敵の步兵約三百、騎兵約五十騎にして、其他所々の東北に於て軌道を破壞し電線を切斷せり。

十四日夜金隊王家屯の畑地に集合す。時に傳令あり。第一師團は金州に向つて前進し、其北方及び東北方の高地點を占領す可し。

五十里堡の小衝突

十五日七名より成れる我騎兵（將校斥候）は、五十里堡（龍口の東北約半里）方面に敵情を偵察中、敵の騎兵十余名に會し、奮鬪二番敵の大尉下士卒數名を斃し、七名を捕獲して歸り。又我步兵及騎兵より成る一部隊は、譚家屯（三十里堡の東北約半里）に於て北行せむとする敵の軍用列車と戰鬪を爲し、之を南方に擊退せしめ、同時に龍口蘇家屯間に於て、鐵道電線の破壞を爲せり。

金州半島の激戰

十六日細雨霏々として濃霧濛々、天爲めに塞かう。午前八時より前進したる河西中隊は同十時關家屯北方の高地に達し、步兵の來着を待ちつゝあり、午後零時三十分我野戰砲兵は水谷（韓三）大尉を先頭として遙地に駈け來り、金州北方十三里臺附近に於て、戰鬪を開始し。此時敵は速射砲八門を有し、西比利亞狙擊步兵第十四聯隊の一部、第五、第十三聯隊の全部、及砲兵二箇中隊にして狙擊最も巧みにして頗る激戰なりし。又老虎山に向ひたる別動隊の中隊長高梨（慶三郎）大尉の率ゐる一隊は、敵の前哨を射擊せ

しに、敵は高地に本陣を擁へ、距離約七八十メートルに於て砲撃を爲し、頗る激戰を極めたり。此日敵は死傷者約八百余名に遺び、將校以下の死体三十餘名を遺棄して南方に退却す、此時敵の負傷大尉一名下士卒十六名を捕獲す。午後三時四十五分九里庄（金州の東一里半）北方の高地より、陳家屯（金州東方一里半）に亘る高地を占領せり。

天子骨肝、親ら軍國の事をみそなはされ。各宮殿下には金枝玉葉の御身におかせられて、軍務に御激勵あらせられ、殊に瘴癘の野に於て斯くあらせらるゝこと、申すも畏きことながら、第一師團長伏見宮（貞愛親王）殿下には、雞子窩街道より本隊を率ゐて御前進あらせられ、軍氣の旺盛なる以て知る可し。又金州半島に於ける敵の精力は、歩兵第一師團の大部及び歩兵第七師團の全部にして、ステツセル（Stasele）將軍之れが防禦司令官たり。

十九日我歩兵山田（雅信）大尉は部下一小隊を率ゐて、金州東方省金山（大和尚山四嶺）附近の敵情を偵察せしに、其北方に於て敵の歩兵二小隊と衝突し、激戰約三十分間にして敵を擊退せしめたり。此二回の戰鬪に於て左の將校以下百四十六名の死傷者あり。

戰死者

陸軍少佐（叙功四級）水谷喜三郎　歩兵大尉　山田雅信

歩兵少尉　小野寺福松　歩兵大尉　小木谷好之助

歩兵大尉　高梨慶三郎　砲兵中尉　板倉光夫

歩兵大尉　菊池勇熊　砲兵大尉　森下義央

砲兵中尉　島田太郎　砲兵少尉　飯野末吉

歩兵少尉　小林進

大孤山上陸

細谷第三艦隊の扶桑（艦長中佐奥宮衛）平遠（艦長中佐淺羽金三郎）二千百五十噸）築紫（艦長中佐西山保吉）千三百五十噸）濟遠（艦長中佐但馬惟孝）二千四百四十噸）磐城（六百五十噸）の諸艦は、第十師團の一部隊を掩護して、五月十九日午前六時新上陸地点、金州の東南大洋河口の大孤山沖に達す、磐城艦をして先つ陸岸の捜索砲撃を爲さしめ、次て武光海軍大尉の率ゐる海軍陸戰隊を上陸せしめ、一彈の對抗を受くることなくして午前八時大孤山丘上に日章旗を樹つ。我か陸軍是に於て上陸を爲す、此日天氣晴朗、附邊一帶敵兵を見ず。翌二十日午後を以て斥候兵を派遣し、大孤山東北方二里半なる王家屯附近に、敵の後貝加爾哥薩克騎兵獨立旅團の內、ウエルフネウジンスキー聯隊の第三中隊駐屯せるを偵知し。我軍敏捷迅速に之に向つて包圍攻擊を加へしかは、敵は周章狼狽、始め馬上に於て能く奮戰し後ち徒歩戰に於て苦鬪したるも、我軍の猛擊敵の中隊長を始め殆んと鏖殺せられたるの觀あり、殘兵纔かに一條の血路を開き鳳凰城、岫巖の中間なる沙里寨方面に向つて逃竄せり。此日我兵損する所兵卒一名のみ、敵の死傷者最も多く、其遺棄せし死体は大尉（中隊長）一名、下士卒九名

我軍に捕虜と爲りたるもの二等大尉一名、中隊二名、下士以下四名にして、戰利品は地圖二十五葉健馬九頭、死馬二十二頭なりき。

高家屯、張家屯小衝突

土城子、沙里寨の街道大石橋子方面に派遣したる、歩兵將校斥候は二十一日午後五時大石橋子の南方約二吉羅米突高家屯附近に於て、敗走中の敵兵十騎に遭遇して之を鏖殺せり。又一部の歩兵斥候隊は土城子の東南約四吉羅メートル、五道講の南方約二吉羅メートル張家屯に於て、敵の騎兵二名及び馬七頭を捕獲せり。

第六章

金州城……要衝、防備、砲門……攻撃軍、偵察……電電激迅……金州城占領……敵軍の輕氣球……大阪軍の甲合戰……東郷艦隊の應援……奮闘苦戰……南山の占領……第二軍の死傷……柳樹屯……勅語、奉答、祝電……南關嶺……曲家屯……千家屯

金州城は東に大連灣を得、西に金州灣を有し、南山南關嶺の險惡を控へ、遙かに旅順の要塞と相呼應して、遼東半島の地頸を扼し、其地頸廣き處一里に過きす、地の利に於て遼東第一の名城と稱せられ、徹底抜き難き要塞堡壘なりと雖とも、我皇赫怒して既に六軍を發つ、神出鬼沒の籌策は、參謀諸將の帷幕の內に運らすあり、寇に之を忠烈なる驍將、勇敢なる猛卒に對しては啻に一擧手一投足に價するに過きす。

敵陣の防備

敵は時々緩漫なる射撃を行ひ、我軍を誘致せむとするもの〻如し。五月二十一日偵察するに、金州南山の砲壘には、十五珊以上の榴彈砲四門、八珊五乃至十珊半舊式加農砲十門、七珊六乃至十二珊速射砲數門、機關砲八門、尚は大なる野戰砲數十門、其他敵の射撃と彈片とより判知する時は、十珊五及ひ八珊五の旋式あり。而して十珊五の彈丸は、能く八千五百メートルに達す可し。敵の砲臺及砲壘は、山上に多く掃へられ、其首線は北方及ひ東北方に向ひ、鐵條網及ひ地雷は北麓及ひ東麓に在り。

第二軍中攻撃軍は、五月二十三日を以て九里庄、陳家屯、寨子河の後方に集合し。參謀將校は此夜より翌二十四日に跨り、敵の陣地の偵察に着手し、次て我砲兵陣地及ひ進撃路を測偵せり。此時敵は金州城を前衛として南方の高山に據り右翼は大連灣の北方に突出せる和尚島に約八門の重砲、海に面して東北馬家屯方向を射撃するの狀あり。柳樹屯附邊には大なる倉庫あり。南關嶺の東方高地線には敵に散兵壕あり、又九里庄の南方後營と左營、及ひ洋砲營には探照燈ありて、時々我か軍隊を探照し、軍は總て大和尚山の中央に横はり、我軍をして自由に展開するを得ざらしむ、而して鐵條網は南山の東側、閻家屯附近より、山の北麓を經て西北に廻り、劉家店の東北約壹千メートルに達し、之より左翼に於ては防禦

工事あるを見す。

二十五日攻撃軍は第一線を龍王廟、三里庄、陳家屯に進め。午前五時半より金州攻撃を始め、併せて南山の敵軍砲兵と交戦し、同九時を以て一先つ休止し。茲に於て金州南山總攻撃の謀略決し、第二軍（第一師團第三師團第四師團）の第一師團（師團長伏見宮貞愛親王殿下）は中央軍に、第四師團（小川又次男）は右翼軍に、第三師團（大島義昌）は左翼軍に拜列し。二十五日夜より金州南山に向つて邁進す、然れと夜來風雨強烈、一天闇黒咫尺を辨せず加ふるに激迅雷電、殷々轟々砲聲と共に相和して天地を震撼し、戰前の光景實に凄慘を極む、敵は頻りに探照燈を使用するも、天候爲に光輝を奪ひ、我攻撃進軍に大に便せり。

二十六日午前二時頃、雷は漸次に東方に遷り、驟雨漸くに霽れたれとも、濃霧深く唯た殷々たる砲聲と疾風迅雷の如き吶喊の聲とを聞くのみ、此時中央軍は九里店、肖金山を經て金州北方の高地を占領し。我軍金州城外に斃るゝもの無數、茲に於て左翼軍の砲兵旅團と力を協せ金州城を攻む、此時我一聯隊（聯隊長小原大佐）第一大隊は、金州城の東門に肉薄す、城門堅く閉鎖して拔く可からす。我工兵は棉火藥を以て之を爆裂破壞し、大隊疾驅して城中に闖入し、次て聯隊皆闖入す、敵兵驚駭、壁上の銃眼より亂射して以て前進を防かんとすれとも我兵衆に此に臻る、届せす撓ます銃劍を揮つて敵を薙く、其勇猛鬼神の如く敵兵悲鳴を擧けて敗竄す、時に午前五時三十分萬歳の聲と共に金州城を占領せり。茲に於て全軍砲兵は少將内山（小二）砲兵第一旅團長の指揮に依り、南山に向つて砲撃を始む。此時敵は一箇の繋留

輕氣球 Ballon を利用し、悠然として我軍狀を偵察すること約六時間に亙りたるも、我軍の突撃に依り偵察の効なかりしなり。

右翼軍は午前二時龍王廟道を前進し、篠衝く雷雨に反し、特に意氣衝天の慨あるものは何ぞ、即ち此日を去る一ヶ月の前、韓海新浦沖に於て、露艦の爲に海底に葬られし時の運送船は實に金州丸と云ひたりし。今又之れか亡戰友の弔合戰は、金州城に於て開かる、嗚呼將卒百年の恨事骨髓に徹したるも、譬かに五七日の霊前に於て、讐敵の頭上に劍戟を加へ金州城を屠るに至る、噫々地下亡友の靈聊か以て慰すべし。

軍は進んで海岸より二千メートルの地點に達し、砲兵は先南山に向つて猛烈なる砲撃を加へ、歩兵の前進を掩護せり。

是より金州灣に碇泊せる東郷艦隊の赤城、鳥海の兩砲艦及び第一艇隊は金州灣海岸近きに有りて、此日午前六時より第二軍に力を協せ連續南山の敵壘を砲撃せり、敵は我陸海協應の砲撃に遭ひ、全備砲を以て應戰し激烈なる砲戰を爲すこと茲に三時間。此攻撃及援護の艦隊に參加したる艦長、艇長、及ひ司令は左の如し、

分遣隊長　筑紫艦長中佐　西山保吉

赤城艦長中佐　藤本秀四郎

平遠艦長中佐　淺羽金三郎

鳥海艦長中佐　林三子雄

司令兼艇長少佐　關　重　孝

大尉和田博愛　大尉森本義寛

中尉平眞雄

此砲戰の初期に於て敵彈我鳥海艦の前甲板を擦過し、分隊長河野大尉負傷し下士以下四名死傷す、第一艇隊の一部は、シャオヘ河附近の鐵道線を砲撃し、他の一部は漲潮に乘し航路を測深しつゝ築紫、平遠の兩砲艦と共に海岸に近き、陸軍右翼（第四師團）一部隊の砲火を冒して、海水を徒渉しつゝ前進せるを掩護せり。

南山敵の火力大に減衰せるに及び、各師團の歩兵は前進を爲し、或は進み或は止り、雨霰の如き彈丸、虹線の如き幾千無數の砲火を冒かし。敵の前線を距る近きは約三百メートル、遠きも五百五十メートルの地に達し、砲火を交へて激戰奮鬪、此時海軍分遣隊は全力を擧げて敵壘を砲撃す、夫れ斯の如く我軍海陸一致猛烈に敵壘に逼る、午前十一時敵の露天砲は、盛く沈默せり、然れど遂射野砲約二中隊は疾く退却し、南關嶺高地に據りて、終局に至るまで克く我軍を射撃せり。

此日午前十時頃より敵の砲艦一隻は小蒸滊艇を掩護して和尚島砲臺の東方に來り、午後二時頃まで我左翼軍（第三師團）の左側背を砲撃し、且つ紅土涯附近に陸軍の上陸を企たるも、我一部隊は激しく之を擊退せしめたり。我海陸兩軍の急撃猛烈にして支ふること能はず、蘇家屯の敵兵全く潰走し、我左翼軍之を占領す、時に午前十一時、

敵の陣地たる南山は、嶮峻なる高地線に半永久の城砦を築き、大小砲門約七十機關砲八門を備へ、連續圍繞せる數府の砲壘線には、二段若くは三段に銃眼を穿ちたる掩蔽部を作り、其前方には既に記せし如く數多の地雷及ひ鐵條網を設け、其間隙の箇所には機關砲を以て之を補へり。我歩兵は全力を擧げて之れが破壞に努め、屢々陣地を交換し、敵に接近して以て我歩兵前進の勢力を加へしも、敵の抵抗頗る頑強にして、午後五時に至るも容易に突進の進路を開くに至らず。此間赤城、鳥海の兩砲艦は、南關嶺附近にある敵の陣地を砲撃し、尠なからぬ損害を與へたりと雖ども亦我鳥海艦の砲側に敵彈爆發し、左の死傷者を出したり。

戰死者

鳥海艦長海軍大佐（叙功四級勳三等）林　三子雄

三等水兵　金丸金袈裟

負傷者

鳥海分隊長大尉　河野通雄　海軍少尉　佐藤己之吉　二等兵曹　内田常吉

二等水兵　杉山福太郎　二等水兵　市川作次郎　一等工兵　村木四平太

二等信號兵　木崎由藏

此時日將に夕陽に舂く、携行歩兵の彈藥は將に盡きんとし、永く戰鬪を繼續する能はさるの狀態に陷り

しかは、今は歩兵の損傷を顧みるに暇なく、總軍の強襲を行はしめ、砲兵は補充し得る限りの彈藥を盡して猛射せり。

中央軍の歩兵は意氣衝天の勇を鼓して突撃せしも、敵は左右の兩翼に掩蓋、鐵條網、狼窪等の副防禦あり、中央掩堡には溝道を通じ、一帶の高地に據りて我兵を瞰射す。其勢ひ猛烈、砲撃頗る功妙を極め、急撃乱射一發一彈、次第に照準正確となり。我兵進むる毎に一歩は一歩よりも死傷多く兵員次第に減し、頗る奮戰苦闘、此時金州灣の我艦隊は敵の左翼に向つて、猛烈なる砲撃を加へ、歩兵第四聯隊の行動を援く、此機に乘し我右翼軍は第八聯隊（聯隊長大佐中原淡）を先鋒として、全軍一致敵の左翼に肉薄し、鐵條網を破壊し、散兵壕に突撃す、我左翼軍は中央軍と力を協せ、勇猛敵陣に突進し、劒戟相觸れ格闘死戰、遂に敵陣を潰乱す。其狀態實に慘憺たるものあり、叫喚悲鳴、猛虎狂獅の咆哮するか如く、死屍相枕し累々として山を成し、醒風地を捲き、碧血枠を漂はし、撃ちて殪るゝもの、刺して傷くもの、頭蓋紛砕、鼻口塊裂、眼球挟出、肉は爛れ、骨は砕け、四肢所を異にし、實に凄慘の極みなりし。茲に於て敵兵悉く旅順方面に向つて敗竄し、遂に南山を攻略し、三軍皆な敵の砲壘を占領し、各其山上の地點に日章旗高く掲けられ、萬歳の歓聲天地を震撼し士氣大いに旺盛を極めたり、時に午後七時なりき。

此戰闘に於ける敵軍の精力は歩兵第三、第四、第五、第十二、第十三、第十六の諸聯隊關東要塞砲兵、鐵道掩護兵五中隊、及び海軍若干隊なりしもの、如く。死傷者四千を下らず其戰地に遺棄したる將校下士卒の死屍四百以上に及び、我軍に捕虜となりたるは、西比利亞狙撃歩兵第二旅團第五聯隊第四中隊長二等大尉イワン、ミハウイツチ、シャストキン同聯隊曹長イグナーチ、アダーモツエッチ、シピリオーノフ等外數百名に及び今算ふ可からず。我戰利品は大小砲門約五十、而して我軍の死傷者將校以下士卒實に四千二百〇四名の多きに達せり、以て如何に激戰なりしかを知るに足る可し。

中央軍　第壹師團

戰死者

歩兵大尉	叙功五級勳五等	進藤長重	
歩兵大尉	叙功五級勳五等	野本環	
歩兵中尉	叙功五級勳六等	岡村誠	
歩兵中尉	叙功五級勳六等	鈴木順平	
歩兵中尉	叙功五級勳六等	鹽澤登四郎	
歩兵中尉	叙功五級勳六等	乃木勝典	
歩兵少尉	叙功五級勳六等	奥村莫耶	
歩兵少尉	叙功五級勳六等	佐藤壯	
歩兵大尉	叙功五級勳四等	福田房五郎	
歩兵大尉	叙功五級勳五等	唐渡貞吉	
歩兵中尉	叙功五級勳六等	大木二三郎	
歩兵中尉	叙功五級勳六等	佐藤康太郎	
歩兵中尉	叙功五級勳六等	桑原矢六郎	
歩兵少尉	叙功五級勳六等	村岡猪久次	
歩兵少尉	叙功五級勳六等	長崎隆次	

下士卒　二百一名

負傷者

歩兵大尉	叙功五級勲五等	宮本秀一
歩兵大尉		生沼昭二
歩兵大尉		鵜坂七五郎
歩兵中尉		添田喜雄
歩兵中尉		松下秀夫
歩兵中尉		三原季吉
歩兵中尉		笠原民次郎
歩兵少尉		金子因之
歩兵少尉		今井與志雄
工兵少尉		武藤彬
歩兵中尉		弓削満二
歩兵少尉		清水喜重
歩兵少尉		野村素一
歩兵少尉		須加精一
歩兵大尉		松本直亮
歩兵大尉		浅野丈夫
歩兵大尉		寺崎由之助
歩兵中尉		三澤活水
歩兵中尉		菅谷三千三
歩兵中尉		山本盛一
歩兵少尉		横川良助
歩兵少尉		江澤辰美
歩兵少尉		林林之助
歩兵大佐		小原正恒
歩兵中尉		佐藤一也
歩兵少尉		岸孝二
歩兵少尉		長濱顯達
歩兵少尉		里見正彦

歩兵少尉		久米川浅二郎
歩兵少佐		寺田鐐雄
歩兵中尉		澤木外雄
歩兵少尉		山崎忠藏
歩兵少尉		小澤政一
歩兵特務曹長		三名
左翼軍		第三師團
戦死者		
歩兵少佐	叙功四級勲四等	淺田敢
歩兵大尉	叙功五級勲五等	弭田泰道
歩兵少尉	叙功五級勲六等	相原郁之助
歩兵特務曹長		十弐名
負傷者		
歩兵中尉	叙功五級勲六等	中澤一郷
歩兵中尉		田村彌七
歩兵少尉		新納豊二
歩兵中尉		大熊仲二郎
歩兵中尉		眞々田彰義
砲兵少尉		伊藤康三
歩兵下士卒		千百〇一名
歩兵大尉	叙功五級勲四等	堀内久次郎
歩兵少尉	叙功五級勲六等	玉田經康
歩兵下士卒		百二十七名
歩兵大尉		鈴木義雄
歩兵大尉		田村勝市

歩兵大尉	加藤忠雄
歩兵大尉	羽入三郎
歩兵中尉	今枝内藏之助
歩兵中尉	土川省三
歩兵中尉	佐々木菊松
工兵中尉	渡瀬俊
歩兵少尉	安藤成
歩兵少尉	青木源治郎
歩兵少尉	村井清規
歩兵少尉	猪飼要
歩兵少尉	松原幸七
歩兵少尉	仙波久修
歩兵特務曹長	四名

右翼軍第四師團

戰死者

歩兵大尉	佐藤鶴松
歩兵大尉	野田文吉
歩兵中尉	前澤尙正
歩兵中尉	石黒豊明
工兵中尉	佐藤轍
歩兵少尉	野原賓輔
歩兵少尉	金田守道
歩兵少尉	山田政一
歩兵少尉	竹内元三郎
歩兵少尉	栁木伸
砲兵少尉	水原源治

歩兵下士卒　千百四十八名

歩兵中佐（叙功四級勳四等）	藤岡銑次郎
歩兵大尉（叙功五級勳五等）	北村他喜藏
歩兵中尉（叙功五級勳六等）	廣谷儀一郎
歩兵中尉（叙功五級勳六等）	福永作十郎
歩兵少尉（叙功五級勳六等）	柴田作
歩兵中尉（叙功六級勳六等）	麻生賢幸
歩兵少尉	芝川又三郎

下士卒　三百六十五名

負傷者

歩兵大尉	岩永德太郎
歩兵大尉	河田惠長治
歩兵大尉	山久潮乙五郎
歩兵中尉	田中嘉一
歩兵少尉	大塚元國
歩兵少尉	梅本署
歩兵少尉	井上清
歩兵大尉	長谷川直敏
歩兵大尉	岡村捨吉
歩兵中尉	大村有隣
歩兵中尉	奥野光雄
歩兵少尉	北村健藏
歩兵少尉	井上
歩兵少佐（叙功四級勳四等）	高田宗城
歩兵中尉（叙功五級勳六等）	松岡包久
歩兵中尉（叙功五級勳六等）	石津完造
歩兵中尉（叙功五級勳六等）	佐藤幸次郎
歩兵少尉（叙功五級勳七等）	恒川安太郎
歩兵少尉	宮津隆成
歩兵少尉	藤井辰造

歩兵少尉	慶松恒次郎	歩兵少尉	松江章
工兵中尉	若山善太郎	砲兵中尉	水戸常太郎
工兵少尉	能勢恒三郎	歩兵大尉	安井勝弘
歩兵大尉	水郡富三郎	歩兵大尉	戸非英太郎
歩兵中尉	江藤源九郎	歩兵中尉	山崎留次郎
歩兵少尉	麻野孝一	歩兵少尉	村治昭
歩兵少尉	上田卿	歩兵少尉	狛鐵之助
歩兵大尉	堤加雄	歩兵大尉	田門謙一
歩兵中尉	土肥敏吉	歩兵中尉	金田参郎
歩兵中尉	新徳太郎	歩兵少尉	藤田謙二
歩兵少尉	多川陸之允	歩兵少尉	岸七俊
歩兵少尉	大迫三次	砲兵特務曹長	野口男
特務曹長隊號未詳	三名	下士卒	千〇四十四名
其他之部隊、戰死者			
工兵大尉	丹羽篤男	下士卒	二十名

負傷者

砲兵大尉	窪田稔	砲兵大尉	小室靜
砲兵中尉	梅津亭	砲兵特務曹長	二名
下士卒	五十名		

第二軍の主力軍は大激戰後、戰地の掃清に多忙しく、南山附近の諸部落に宿營し、我負傷者の療養、戰死者の調査、捕虜兵の收容、戰利品の始末等殆んど想像し能はざるの劇務あり。其綴密周到盡さゞるなき中に就て、

南關嶺、柳樹屯占領

翌二十七日午前十時三十分、歩兵砲兵及工兵より成れる混成一枝隊を派遣し、南關嶺を攻撃せしむ。敵兵支ふること能はずして旅順方面に退却、我軍此に於て南關嶺を占領す。又敵の一部は青泥窪の西北方に當れる三十里堡停車場を守備せしも、南關嶺の敵兵退却と共に、同停車場を燒きて同じく旅順方面に退却せり。

此日中村枝隊に屬する一部隊は柳樹屯を占領し。敵の火砲四門、彈藥多數、鐵道貨車有蓋のもの五、無蓋のもの四十一輛を鹵獲せり。

金州南山の戰捷御璽聞に達し、天皇陛下には深く御嘉尚あらせられ五月二十九日を以て第二軍司令官奥陸軍大將に優渥なる勅語を賜はり大山參謀總長之に左の如く添書して傳達せり

勅語

第二軍ハ海軍支隊ト協力シ、敵ノ死守シタル金州城及南方要害ノ地ヲ力攻シ、遂ニ之ヲ陷レ、以テ、旅順口ノ咽喉ヲ扼シ、且我野戰軍將來行動ノ地歩ヲ堅固ナラシム、朕深ク爾等ノ忠勇ヲ嘉シ。尙益々奮勵シテ終局ノ勝利ヲ收メムコトヲ望ム。

只今御前會議に於て閣下の戰鬪詳報を伏奏せしに、天恩優渥貴軍に別紙の勅語を賜はりたり。巖茲に之を、閣下に傳ふるの光榮を有す、

夫南山一帶の地の敵軍、數月の日子を費し、堅壘を築き、大小砲を排列して死守せし所、而して其地形狹隘我兵力多しと雖も、之を攻むるに策の施すべきなき所たり。然るに貴軍將卒の忠勇なる、屢々肉薄して屢々苦戰し、百餝撓まず奮鬪數日、遂に之を攻陷せられたる報告に接しては、讀む者をして毛髮を竪たしむ、且之に依り關東半島の咽喉を扼し、野戰軍將來作戰の地歩を安全鞏固ならしめられたる偉功に對し重ねて茲に深厚なる敬意を表し、忠烈なる死傷將校諸君下士卒に向て、滿腔の熱誠を捧げ同情を表す。

五月二十九日

第二軍司令官陸軍大將男爵　奥　保　鞏　殿

奉答

陸軍大將參謀總長侯爵　大　山　巖

金州及南山附近の要地に據り堅國に防禦工事を施し、巨砲を備へたる敵を擊攘し得たるは一に陛下の御稜威の致す處のみ、然るに今や優渥なる聖勅を下し賜ふ、臣等恐惶感激の至に堪へず、益々奮勵して終局の効果を收めんことを期す、

右謹で奉答す

明治三十七年六月一日　第二軍司令官陸軍大將男爵　奥　保　鞏

同日　皇后陛下より御感賞の詞を賜はり皇宮太夫より左の如く傳達せらる

我ガ第二軍ハ海軍支隊ト協力シ、金州城ヲ陷レ、奮闘猛進遂ニ其南方險要ノ地ヲ略取シタル趣き、皇后陛下ノ御諮問ニ達シ、我將校下士卒ノ忠勇ナルヲ深ク御感賞アラセラル。

明治三十七年五月二十九日　皇后宮太夫　子爵　香　川　敬　三

第二軍司令官陸軍大將男爵　奥　保　鞏　殿

奉答

軍の金州附近に敵ける敵の陣地を略取したる趣、聞召され優渥なる令旨を賜ふ、臣等感激の至に堪へず益々奮勵して最終の成効を期せんとす、

明治三十七年六月一日　第二軍司令官大將　男爵　奥　保　鞏

寺內陸相の祝電

陸戦十六時間に亘り最も壮烈なる数回の突撃を敢行し、終ひに敵の死守せる金州城及び其南方陣地を陥落せられたる貴軍将卒の偉大なる成功を祝し。倘ほ貴軍将卒の健康を祈る。

明治三十七年五月二十七日　陸軍大臣　寺内正毅

第二軍司令官陸軍大将男爵奥保鞏殿

寺内陸相艦隊に祝電

南山附近の戦闘に於て、貴艦隊の協力し、終ひに敵の死守せる陣地を陥落せられたる成功を祝す。

明治三十七年五月二十七日　陸軍大臣　寺内正毅

聯合艦隊司令長官東郷平八郎殿

[illegible]

[illegible]得利寺附近の小戦[illegible]

五月三十日正午、我騎兵隊は曲家屯に於て、敵の騎兵、復州街道得利寺附近に在るを発見し直に之を撃退せしめ、歩兵騎兵より成れる一部隊をして田家屯を攻め、敵の騎兵約三個中隊と接戦し、敵兵退却するや我騎兵一部隊は、電雷激迅の勢を以て猛進地に追撃し張家屯に到り、敵は新たなる騎兵二個中隊加はりたるも我兵頗る強烈、以て大に之を排せ敗る。夫より龍王廟に出たる時、復た敵の歩兵五六中隊

騎兵一中隊の陣地を占むるに會し、我追撃騎兵隊は茲に再ひ猛烈なる攻撃を加へ、午後三時に至り竟に敵兵をして得利寺方面に退却せしめたり、此日我軍の死傷者は、左の將校の外下士以下戦死二十五名、負傷下士卒三十三名ありき、

戦死者

騎兵少尉叙功五級勲六等　野村盛茂

負傷者

騎兵中尉　楠木平助

騎兵大尉　平塚小太郎

騎兵少尉　今仁一匡

騎兵少尉　佐藤鐵一

曲家屯の衝突

我騎兵隊は曲家屯附近に駐屯し敵情偵察中、六月三日午後零時三十分頃より、敵の歩兵約二千名、騎兵若干、砲兵一中隊を次て我軍に迫らんとす、我隊急を各隊に報して陣地に就く、激戦して拒止すること數時に亙り、漸くにして午後五時半敵を得利寺方面に撃退せしめたり。

六月五日朝、大孤山の西北約十吉羅メートルに當る千家屯に於て、西比利亞哥薩克第五聯隊の第二中隊に屬する騎兵約三十を攻撃し、之を西北方に潰乱せしめ、敵兵二名、馬匹十三頭を捕獲せり。

陸海軍大將親任

維年六月五日午前十一時宮中に於て左の通り親任式を行せられたり

陸軍中將 正三位勳一等 男爵 岡澤精

同 從三位勳一等功三級男爵 長谷川好道

同 從三位勳一等功三級男爵 西寛二郎

同 正三位勳一等功三級男爵 兒玉源太郎

同 從三位勳一等功三級男爵 乃木希典

任陸軍大將

海軍中將從三位勳一等功四級 東郷平八郎

同 從二位勳一等功四級男爵 山本權兵衛

任海軍大將

同日海軍將官左の通り任命ありたり

海軍少將正五位勳三等功四級 出羽重遠

同 從四位勳二等功四級 齋藤實

同 從四位勳二等功四級 瓜生外吉

任海軍中將

海軍大佐正五位勳三等功四級 小倉鋹一郎

同 正五位勳四等功四級 山田彦八

同 從五位勳三等功四級 島村速雄

任海軍少將

日露交戰記 終

（以下略之）

日露交戰記附錄

第壹篇

第壹章

露國軍備の充實……艦隊砲臺の增築……敵軍の配置……露國列國に泣き事を回脈す……哮吠綫々千百……

……日韓議定書……保護國僞約の必要……クロニクルの評論

露國は我日本帝國が誠心誠意なる交涉に對し、裏心平和を愛するの念なく、毫も妥協の精神を以て待たず、頑日彌久七ヶ月の久しきに亘りて確的の回答を爲さゞりしものは、實に左の事實あるを以てなり。

露國は日本の提議に對する交涉の背面に於て、大砲を構へ長劒を提さげつゝ、當時在泊軍艦の外絕東に於ける軍備充實に汲々たり、

（珊遣軍艦）　（隻數）

戰鬪艦	三	
裝甲巡洋艦	一	
巡洋艦	五	
	三八、四八八噸	（噸數）
	七、七二六	
	二六、四二七	

驅逐艦　七
砲艦　一
水雷敷設船　二
合計　一九
二、四五〇
一、三三四
六、〇〇〇
八二、四一五

右の如く増大したるに外、旅順に於て驅逐艦の建造に、孜々として日も倘はたらさるもの〳〵如く、既に竣工せるもの亦七隻に及ひ、又義勇艦として武裝せる滊船二隻浦塩斯徳港に在り、加ふるに旅順浦塩兩軍港に於ける城砦砲壘の増築は晝夜兼行急つ〳〵あり、其既に成りたる旅順の砲臺は左の如し、

老鐵山砲臺　（計）砲臺四座
第一臺　十一寸徑砲八門
第二臺　六寸徑砲四門
第三臺　六寸徑砲八門
第四臺　六寸徑砲五門
白頭山砲臺　（計）砲臺三座
第一臺　六寸徑砲五門
第三臺　六寸徑砲三門
第二臺　六寸徑砲五門
饅頭山砲臺　六寸徑砲九門
黄金山砲臺　（計）砲徑二座

東部砲臺　六寸徑砲八門
金鷄山砲臺　六寸徑砲八門
老虎尾砲臺　機械砲四門

中部砲臺　十一寸徑砲八門

又昨年六月二十九日西伯利亞鐵道輸送試驗と云へる口實の下に於て、多數の兵器彈藥と歩兵、騎兵、砲兵、輜重兵等陸續として絕東に輸送し、本年二月の初に至り實に左の如き兵數に達せり、（二月五日調）

旅順口（二萬零六百五十人）

内譯

歩兵
- 第三旅團
  - 同
  - 同
  - 同
  - 東部西伯利亞狙撃歩兵第九聯隊（二千人）
- 第七旅團
  - 同　第十一同（同）
  - 同　第十二同（同）
  - 同　第十五同（同）
  - 同　第十六同（同）
  - 同　第十七同（海城）
  - 同　第十八同（遼陽）

但し第三旅團は一箇聯隊（第十一聯隊）を留守聯隊に殘して他の三箇聯隊は全部遼東半島沿海岸及鴨綠江岸に向ひ出發せり

騎兵　ザバイカル、カサツクのベルフネフチンスキイ騎兵聯隊一箇中隊（一百五十人）

砲兵　東部西伯利亞砲兵大隊の中二箇中隊（六百人）
旅順口要塞砲兵一箇聯隊（二千四百人）

工兵●（東部西伯利亞工兵大隊の第二大隊（一千人）
關東省工兵中隊一箇中隊（三百人）
水雷隊●水雷敷設中隊一箇中隊（二百人）

青泥窪（二千人）

步兵●東部西伯利亞狙撃歩兵第十四聯隊（二千人）

大連（四千四百人）

內譯

步兵●第四旅團（東部西伯利亞狙撃歩兵第十三聯隊（二千人）
同第十五聯隊の四箇中隊（一千人）
此旅團に屬す可き他の二箇聯隊は第五、第十四なり）
騎兵●ザバイカル、コサツクのベルフネフチンスキー騎兵聯隊の四箇中隊（六百人）
砲兵●（東部西伯利亞砲兵大隊の中一箇中隊（三百人）
ザバイカル騎砲兵一箇中隊（三百人）
水雷●水雷敷設中隊一箇中隊（二百人）

貔子窩（四百人）

內譯

步兵●東部西伯利亞狙撃歩兵第十二聯隊の一箇中隊（二百五十人）
騎兵●ザバイカル、コサツクのベルフネフチンスキー騎兵聯隊の二箇中隊（百五十人）

安東縣（五百五十人）

內譯

步兵●東部西伯利亞狙撃歩兵第十五聯隊の一箇中隊（二百五十人）
砲兵●東部西伯利亞砲兵大隊の半箇中隊砲四門（百五十人）
騎兵●ザバイカル、コサツクのチンスキー騎兵聯隊一箇中隊（百五十人）

鳳凰城（七百五十人）

內譯

騎兵●ザバイカル、コサツクのチンスキー騎兵聯隊三箇中隊（四百五十人）
砲兵●ザバイカル騎砲兵一箇中隊砲八門（三百人）

金州（七百五十人）

步兵●東部西伯利亞狙撃歩兵第五聯隊三箇中隊（七百五十人）
此地に第五聯隊本部ありて他の三箇聯隊は營口に二箇中隊は山海關天津に駐屯し居たるが山海關、天津の二箇中隊は營口に引揚げたり

營口牛莊（一千二百人）

內譯

步兵●東部西伯利亞狙撃歩兵第五聯隊五箇中隊（一千五十人）

砲● 兵● 東部西伯利亞砲兵大隊の半箇中隊砲四門(百五十人)

海　城　(一千百五十人)

内　譯

歩● 兵● 東部西伯利亞狙撃歩兵第二十八聯隊四箇中隊(一千人)

砲● 兵● 東部西伯利亞砲兵半箇中隊砲四門(百五十人)

遼　陽　(一千九百人)

内　譯

歩● 兵● 東部西伯利亞狙撃歩兵第十五聯隊三箇中隊(七百五十人)

同　第廿八聯隊四箇中隊(一千人)

砲● 兵● ザバイカル騎砲兵半箇中隊砲四門(百五十人)

奉　天　(五百五十人)

内　譯

歩● 兵● 東部西伯利亞狙撃歩兵第十五聯隊の一箇中隊(二百五十人)

砲● 兵● ザバイカル騎砲兵半箇中隊(百五十人)

騎● 兵● ザバイカル、コツサクのチヽンスキー騎兵一箇中隊(百五十人)

吉　林　(二千七百五十人)

内　譯

歩● 兵● 東部西伯利亞狙撃歩兵第十六聯隊(二千人)

砲● 兵● 東部西伯利亞砲兵第一旅團第七中隊砲八門(三百人)

騎● 兵● ザバイカル騎砲兵第二中隊砲十二門(三百人)

アムールスキー、コサックのアングンスキー騎兵一箇中隊(百五十人)

寧古塔　(一千二百五十人)

内　譯

歩● 兵● 東部西伯利亞狙撃歩兵第十八聯隊二箇中隊(五百人)

騎● 兵● アムールスキー、コサックのアルグンスキー騎兵三箇中隊(四百五十人)

砲● 兵● 東部西伯利亞砲兵大隊一箇中隊(三百人)

哈爾賓　(四千五百五十人)

内　譯

歩● 兵● 第三旅團(東部西伯利亞狙撃歩兵第十七聯隊(二千人)
同　第十八聯隊六箇中隊(一千五百人)
此旅團に屬する他の二箇聯隊は吉林の第十六と齊齊哈爾の第二十なり)

騎● 兵● アムールスキー、コサックのアルグンスキー騎兵一箇中隊(百五十人)

砲● 兵● 東部西伯利亞砲兵一箇大隊砲二十四門(九百人)

齊々哈爾（一千九百五十人）

內譯

歩兵（東部西伯利亞狙擊歩兵第二十聯隊の六箇中隊（一千五百人）此聯隊に屬す可き他の二箇中隊は旅順に入れり）

砲兵（東部西伯利亞砲兵第二旅團第二中隊砲八門（三百人）

騎兵（アムールスキー、コサックのアルグンスキー騎兵一箇中隊（百五十人）

海拉爾（一千人）

歩兵（ネルチンスク第三豫備大隊（一千人）

種別類計、

歩兵　三萬四千八百人

砲兵　六千七百五十人

騎兵　二千五百五十人

工兵　一千三百人

水雷兵　四百人

合計　四萬五千八百人

右の外哈爾賓、横道河子、公都林、遼陽、大石橋塘の鐵道線路の沿道に駐屯せる

東清鐵道守備隊　二萬四千人

又哈爾賓、横道河子、公都林、遼陽の四箇所に駐屯する

鐵道隊（四箇大隊）　四千人

以上滿洲に於ける露國の軍隊兵員の總計は、實に七萬三千八百人なり。又浦鹽斯德には歩兵第二十九聯隊、同第三十聯隊、同第三十一聯隊同第三十二聯隊等八千人の守備あり。

夫れ斯くの如く露國の軍事的活動は、時々刻々に急調に赴き、既に如上の準備を爲し、萬一に於ては武力を以て我帝國を屈從せしめむと疑せり。

事態既に斯の如く切迫す、若し我に一日を弛ふせは、彼又一日に增大と爲り、遂に救治す可からさるの悲境に沈淪するやも測られす、茲に於て我帝國は國家自衛即ち國家生存上の利權を擁護する爲め、勢い自由行動を執ることに決し、外交を斷絶したるは、我に過ちあるにあらす、責は渠れ露國に存するや疑なし。而かも露國は數度の敗戰の後に於て女々敗も列國に回牒を爲して實に左の如く言へり、

日露兩國間談判破裂以來、日本政府の態度は文明諸國間相互の關係を律する各習慣の公々然たる違犯を構成す。今我露國政府は違犯を一々名狀することを爲さずと雖も、日本政府の敢てしたる韓國に關する暴戻の行爲に至つては、之に關して各國に最も愼重なる注意を促すの必要ありと考量す。抑々韓國獨立及び其保全は各國の承認せし所にして、此原議の犯すべからざるは千八百九十五年下關條約

千九百二年日英協約及び、千九百二年三月十六日露佛宣言の確認する所に係る、韓國皇帝は日露兩國衝突の危險を豫想し、本年一月嚴正中立主持の決心を宣言せる文書を各國に發送し、各國は滿足を表して之を授受し露國も亦之を承認せり、而して在韓我公使の報告に據れば、英國政府は在韓同國公使に令し、韓國皇帝に右宣言書に對し、謝意を表しもる公書を奉呈せしめたりと云ふ、然るに日本政府は右の事實を悉く藐視し各條約及び其義務を蔑如し、且國際法の原則に反戻して左記の行爲を敢てしたる事、今や明確にして十分に確認を經たる事實の之を歷證するあり

一　抗敵開始に先ち日本の軍隊は中立を宣言せる韓國に上陸せり。

二　日本艦隊は二月八日即ち宣戰公布の三日前に於て、中立港濟物浦に碇泊中にして而かも其艦長は日本人が惡意を以て、丁抹海底線經由我電報の配達を遮止し、且韓國政府の電信交通を破毀せしが爲、國交破綻の通知を受くるに由なき境遇にありたる我軍艦二隻に對し、突然攻擊を加へたり。

三　日本國政府は現行國際法に拘らず、抗敵開始に至らんとする刹那に於て、我商船數隻を韓國中立港內に於て戰時捕獲船として捕收せり。

四　日本國政府は京城駐紮同國公使を經て韓國皇帝に向ひ、韓國は爾後日本國行政の下に置かるべしと宣言し、且之に從はざる時は日本國軍隊は皇城を占領すべき旨同皇帝に警告せり。

五　日本國政府は在韓佛國公使を經て在韓我公使に宛て我公使館員及び領事館員を率ゐて韓國より撤去すべき旨を促したる書面を送付せり。

我露國政府は前記各事實の甚しき國際法違犯の罪を構成すことを認定し、日本國政府の行動に對し、各國に抗議を提出するを其義務なりと思料し、國交を保證する所の原則を重視する、各國の我態度に同意すべきを確信して疑はず、又之と同時に我政府は日本國が韓國に於て、不法權力を擅斷せしが爲、韓國政府より出すことあるべき各命令及び宣言を悉く效力無きものと、宣言する旨を此に豫告することを必要なりと考量す。

夫れ既に斯の如く泣くが如く、訴ふるが如く、哮へるが如く、怨むが如く、又悲むが如く、又嘆くが如く縷々千言何の價もなく、單に無意味と言はむよりは寧ろ、嘲笑するの具に供するに足る可し。露國は又數度の敗戰の爲め、自國國民の士氣の銷沈せざらんことを思ひ、突然交涉を斷絕し奸譎なる砲擊を以て其宿昔の志たる戰爭に於て、些少の利を收めんとしたる敵國に對し、我露國は公衆を欺發してより茲に八日を經たり。我國民今や神速の報復を希望し、東洋の信報を竣つこと頗る切なるものあり是れ當然の情なり。我國民の合致强大を以て之に向へば、日本が其奸詐と又我皇が平和を望ませらるゝの間に、挑發的行爲あるとに對して、膺懲せらるべきは疑ひを容れざる所なり。我軍奏効の戰報は忍んで之を他日に期せざる可からず、是れ抗敵狀況の自ら然らしむる所にして、我陸軍が斷然たる行動に出るの日を俟たざるを得ざるを以てなり。攻擊地域の遠隔

にして且我皇平和の維持を念とし玉ひたるに拠り、豫め戰備の充實を得ざりしなり、日本に喫はすに敗衂を以てするには、尚幾多の時日を要せざる可からず。況んや我國は傲然として戰を挑みたる國民に、相當の懲罰を加ふるに臨み、徒に我露國男子の血を流さゝるを欲するに於てをや、然れども隠忍以て時局の發展を竢たば、我軍隊は敵襲に對して百倍の酬復を爲すべきや必然なり。陸上の交戰は尚遠く他日に屬す、戰地の來報之が速達を期し難し、徒に血を流すは露國の強大雄偉と其容れざる所なり。我子民は好く相和衷して欣然國事に殉せんと欲するの誠意を表彰せり、故に戰地より來る確報は是を直に全國民に表示すべし。

而かも其日本政府が韓國に致したる暴戻の行爲云々。日本國が韓國に於て不法權力を壟斷せしが爲め、韓國政府より出す可き各命令及宣言を悉く効力なきものと宣言す云々と結論するに至りては、實に噴飯に堪へざるなり。

露國政府今や勞頭の海戰に於て、仁川に敗れ、旅順に敗れ、眼は昧み、腦は腐れて、遂に、狂々如たり、痴々如たり。

露國何を以て斯の如く、狂々如たり、痴々如たる、或は日韓議定書を見て以て周章の餘り爾か云ふにはあらざるか、若し果して然りとせば、露國は常に文明を誇言すること雖も、其實治國の明を具する人なきを証するものなり。

我帝國の大國にして、強國にして、且つ文明國たるに拠て、韓廷の信賴する得て知る可きのみ。

日韓議定書

大日本帝國　皇帝陛下の特命全權公使林權助及び大韓帝國皇帝陛下の外部大臣臨時署理陸軍參將李址鎔は各相當の委任を受け左の條款を協定す

第一條　日韓兩帝國間に恒久不易の親交を保持し東洋の平和を確立する爲大韓帝國政府は大日本帝國政府を確信し施政の改善に關し其忠告を容るゝ事

第二條　大日本帝國政府は大韓帝國の皇室を確實なる信誼を以て安全康寧ならしむる事

第三條　大日本帝國政府は大韓帝國の獨立及び領土保全を確實に保障する事

第四條　第三國の侵害に依り若くは內亂の爲大韓帝國の皇室の安寧或は領土の保全に危險ある場合は大日本帝國政府速に臨機必要の處置を執るべし而して大韓國政府は右大日本帝國政府の行動を容易ならしむる爲十分便宜を與ふる事

第五條　兩國政府は雙互の承認を經ずして後來本協約の趣意に違反すべき協約を第三國との間に訂立することを得ざる事

第六條　本協約に關聯する未悉の細條は、大日本帝國代表者と大韓帝國外務大臣との間に、臨時協定

する事

明治三十七年二月二十三日

大日本帝國特命全權公使　林　權　助

外務大臣臨時署理陸軍參將　李　址　鎔

光武八年二月二十三日

右議定書は韓國をして我帝國の保護國たらしめたる、一の公約書則ち帝國は明約を以て韓國の保護に任し、韓廷の安全を確保するものなり。是に因て以て生する所の利益は、獰惡奸譎なる政策を弄する暴國の迫害を杜絶し、極東禍亂の根脈を斷絶し、列國の通商貿易をして是より一層の光彩を增さしむるの觀あり。

夫れ國の小なるものは多くは微力にして、獨立維持の困難竟に列強と伍する能はず。玆に於て世界平和の手段として保護國協約の必要起る。宜なり、凡そ保護國には二種の別あり、甲は共同保護國として彼の一千八百三十九年に於ける、英、佛、墺、普、露五ヶ國の共同保護國たりし、白耳義、和蘭の如き。乙は單獨保護國として彼の一千八百十五年に於ける、英國の保護國たりし、イオニー諸島國の如き、又一千八百八十四年に於るけ佛國の保護國たりし、安南王國の如き即ち是なり。而して今や韓國は乙例の如く我帝國の保護國なり、實に我帝國の單獨保護國たること一日の故にあらず。曩きには東洋平和維持の基として朝鮮貿易の發達を助け、我帝國は他邦に率先して韓國を扶掖啓誘し、以て列國の伍伴に就かしめたる獨立の國なり。然り而して日韓條約より、天津條約、馬關條約、日英同盟條約等悉く以て韓の獨立を扶くる所の間接の恩惠なり。今復征露陸軍の半面を視來らば、韓國扶掖の爲たることを知るに難からず。

夫れ斯の如く我國の既往現在二十餘年來外交の煩累は、半は韓國保護を以て我帝國の天職とせり。今や韓國は斯る庇蔭に頼て、內憂外患共に掃攘するの堵に就けり。

外字新聞クロニクルは日韓議定書を以て、日本は既に韓國をして其保護國たらしめたるものなりとの觀奏を下し左の如く評せり、

人は此議定書により日韓同盟を成就したりといへども、事の眞相は決して然らず、日本は韓國に於ける、地位を適法にし、且つ其疆土をして外邦の侵略を受くる事なからしむる目的を以て、韓國を自己の保護權下に置きたるものなり。されば新議定書の公布は日露紛議に第一段落を附したるの故を以て、之を重要視せざるべからず

と說き更に論調を轉じて左の如く言へり

日本現時の對韓地位は日淸戰爭中及び其終結後に占めたる地位と同一なり、不幸にして其後遼東半島の還附內務大臣朴永孝の放逐等の事件起り、又須臾にして王妃殺害事件なるもの發生し來り、此有勢なる地位をして頓に挫折せしむるに至れり、そは此事件たる縱令三浦公使單獨の意見を以て企てたるものなりしと雖も、日本政府は決して無責任の地にあるものに非ず、此に於て韓國に於け

る其勢力は、殆んど回復すべからざる程に銷沈せり。

然れども今や日本は宿昔改革の企圖を實行するの時期に際せり、吾人はその遂に改革に成功すべきを疑はず。而して之に就て久しく稅關事務の主宰たり、且つ度支大臣の實を有するマクリーヴィラオン氏の有効なる贊助を受くるや必せり、就れにしても日本は其抱負を行ふに奏功せば韓國の人民は少くとも官人の壓制より救濟せらるべきなり。

第二章

日本政府の辯妄……列國の觀察什麼……英米獨國の評論……露國の國際法違反……商船の押留。擊沈……戰爭と戰鬪との意味……戰爭開始の時期……宣戰公布の目的

帝國政府は露國が列國に致したる回牒の、誣罔を辨して列國政府に左の回牒を致せり、

聞くが如くんば露國政府は此頃一の公文を各國に致し、日本政府を責むるに國際法違反に屬する或種の行爲を韓國に於て行ひたることを以てし、且つ將來韓國政府の命令並に宣言は皆效を有せざるべき旨を聲明したりといふ。

帝國政府は此機に於て露國政府の意見若くは聲明に對し、敢て顧慮するの必要を見ず、然れども事實の誣妄を看過するに於ては或は恐る、中立國之が爲めに誤解を生ずるに至らんことを。故に之に對して其妄を辯するは、帝國政府の權利にして又義務なりと信ずるを以て、茲に露國が其公文に於て充分の證左あり、且つ確實なる事實と聲言したる五點に關し左の言明をなさんとす。

一　日本軍隊が宣戰に先ち韓國に上陸したることは帝國政府も亦之を認む、然れども交戰の狀態は既に現實に成立し居たるなり、且夫韓國の獨立及び領土保全の維持は今回戰爭の一目的なり。從て露國が侵迫せる地方に軍隊を派遣するは我權利と必要に屬す、矧んや此事たる韓國政府の明確なる同意を得たる所なるに於てをや、日本軍隊が韓國に上陸したるは平和なる商議の進行中、露國の大軍が清國の同意を經ずして滿洲に派遣せられたるが如きと大に趣を異にし、曲直のある所極めて明瞭と云ふべし。

二　帝國政府は露國公文第二點を以て全然無根の虛說なりと聲明するものなり。帝國政府は丁抹海底電線に由れる、露國電信の交付を停止したることなし、若し夫れ二月八日我艦隊が仁川港に於て二隻の露國軍艦に突然攻擊を加へたりとの非難に對しては、交戰狀態當時已に成立したりしこと、及び韓國は已に日本軍隊を仁川に上陸せしむるに同意したるが故に、同港は少くも日露兩交戰國間の關係に於ては、業に已に中立國たるの性質を有せざりしことを一言するを以て足れりとす。

三　帝國政府は捕獲審檢所を設立し、之に授くるに商船捕獲の適法なるや否に關し最終の決定を下す

の全權を以てせり。此故に露國公文第三點に關しては玆に何等の言明を爲すべき場合にあらずとす。

四　帝國政府は露國公文第四點の所說は、全然事實の根據なきものなることを聲明す。

五　帝國政府は露國公文第五點所說の不精確なることを斷言す。帝國政府は露國公使に對し韓國より退去せんことを直接にも亦間接にも要求したることなし。二月十日駐韓佛國代理公使は我公使を來訪して、告ぐるに露國公使が韓國退去を希望し居るを以てし、之に關して我公使の意見を尋ねたるに附我公使は露國公使にして其隨員幷に公使館護衛兵を從へ、平和に撤退するに於ては日本軍隊を以て十分之を保護すべき旨を答へたり。此趣きは其後日佛兩代表者の間に背馳を往復して更に確められたり斯くして露公使は二月十二日を以て任意に京城を撤退し、而して我は仁川迄は日本兵士の護衛を附したり。

尙ほ玆に附記すべきものあり釜山駐在露國領事は二月二十八日に至る迄、尙は其任地に止りたり、同官の殘留此の如く久しきに亘りたるは何等訓令に接せざる爲め、不得已に出でたるものなりといふ。惟ふに露公使は其出發に先ち必要の訓令を、領事に與ふることに念ひ到らざりしなるべし。而して撤退の訓令遂に露領事に達し、領事に於ても亦可成速かに釜山を去らんことを希望せること明かなるに及び、釜山駐在帝國領事は露領事の出發に關し有ゆる便宜を與へ、終局露領事の一行は我領事の斡旋により、日本を經て上海に赴くことゝなれるものなり。

露國の回牒日本の行動に於ける列國の觀察什麼

獨逸伯林に於ける有力なる經濟新聞ブールス、クーリーエは露國の回牒に對し左の如く評論せり。

日露兩國は今や一大擾亂を爲すの準備中なると同時に、一面外交上の爭鬪を事とし、日本政府は新聞紙に旨を授けて、交涉の終結及び外交關係破綻に關する同國の辯明を公にし。露國は國際法違犯を以て痛く日本を叱責し居れり。露國回牒に關しては之を公平なる見地より觀察するに、露國は日本が同國に對し外交關係の斷絕せし瞬間後の事に付き、何等の愁訴を爲日本政府に對して提起する事を得ざるものと云ふべし。然れども玆に尙未解決に屬する問題あり。其は日本が僅に二十四時間を寬恕せば卽ち到來すべく、且之が爲時間の上に何等の變更をも來すこともなかるべき露國の回答を東京に於て接受するを待たずして、外交關係を斷絕するに至りたる理由如何と云ふの問題是れなり。兎に角今日に至りては就れを正とし就れを不正とするかを論辯するの要なし。只戰規に從ひ單に砲碩の力を以て之を決するにあるべきのみ。

獨逸新聞ローカル、アンツアイゲルは左の如く評論せり。

露國外務大臣ラムスドルフ伯の、列國に回牒したるところの、日本軍の韓國上陸を否認すと云へる事由を嚴格なる意義に於て之を云へば、既に獨立を承認せられ且自ら中立を聲明したる一國の版圖內に、

日本が其兵を上陸せしめ、若くは其主權を行ふの權利を有せざる事勿論なり。然れども實際に就て之を云へば武備不完全にして自ら其中立を防衛する事能はざるの韓國に對しては、此問題は全然に別種の解釋を與ふる事を妨げず、故に若日本兵が露國兵に先ちて此地に來る事なかりせば、韓國は日本に對すると同じく露國に對しても亦公開せられありしものなり。戰場の地形よりすれば韓國が日本軍隊の根據地となるべきは、當然の事なりと云はざる可からず。縱ひ列國が條約に依り韓國の獨立を承認したりとするも、是を以て戰時に於ける韓國の不可侵權を保留するものと爲す能はざること、尙白耳義の位置に於けると同一なり。露國の回牒に於て一顧の値すべき唯一の件は、露國が最早韓國の中立を認めず、又韓國政府の發する法令の効力を認めざるの一事實あるのみ。

倫敦タイムス新聞は露國の回牒に關し左の如く一針を加へたり。

露國の陳疏的回牒は日本に對する問罪の證據を叙する所薄弱にして、且終結的ならずと說きたる後日本が韓國の獨立及び保全を侵害したりとの怨言は、之を戰爭の直接にして且重なる原因となりたる滿洲撤退の拒絕を飽く迄主張したる、露國の唇より吐露するは稍異とするに足ると、ラムスドルフ伯は思惟せられざるかと問ひ。尙同伯は滿洲か滿國の一部にして而して淸國の獨立及び保全は各國（露國を含む）の十分に承認せし所なるを遺忘せられしかと質問したり。

蘭國前陸軍大臣ヨンド、チエー、デンベール、ポルチゲール陸軍中將はニウウエ、ロテルダムシユ、ホーランド新聞か「今や吾人は豫め最終通牒を與へす又た宣戰を爲すことなくして破裂したる大戰爭の中間に立てり、日本人は不得已事情の爲めに開戰するに至りたるものにして、其不意に敵軍に對して攻擊を加へたるは、國際慣習を破りたるを論議するの必要なし、然れども吾人は戰爭の必然的に國交斷絕に伴生せざるを得ざるものなりや否やに就き今尙ほ遲疑なき能はず」と論じたるに就て更に所感を新聞紙に投じて左の如く論評せり。

然り吾人は久しく之を遲疑せり、豈啻に吾人のみならんや、滔々たる人士の心裏此の遲疑ありて存す然るに「少時の熟慮、敏速なる行動」を要する戰爭に於て適材の軍人鮮き所以なり、然も今回の擧には遲疑を挾むべき餘地更らに無し、艦隊は準備を整へて日本海に集合し、日本に於ては四十萬、露國に於て其れ以上の兵員動員せられ、日々軍需品を滿載せる列車は極東の海岸に向て走り、巨額の石炭は購求輸入せられ、日本は其の要求を滿足せしめんとして動かす、日淸事件の戰勝後、下ノ關條約締結に際し、露佛獨三國の脅迫を受けたるによりて喪失したる所のものを回復せんことを希望したるは、疑ふ可からざる事なりしに拘らず。吾人は猶ほ戰爭の避くべからざる兆候を看破する事能はざりしなり、日本は既往八ヶ年の久しき一に宏大なる戰備を修むるに專らにして、今や其戰備殆んど完成せり。苟ぐも日本にして猶ほ沮滯の爲め失敗全滅せざらんと欲せば、迅速に行動するの得策なる事明了にして、之れに加ふるに日本人民の戰意頗る旺盛なる事を知らば、戰爭の有無を疑ふが如きは寧ろ

愚の極といふべかりしなり。二月七日駐露日本公使は露國政府に向て日本は最早交渉を止めたる旨を告げ、公使館員一同召還せらるゝに至り、從て露國公使館員も東京より召還せらるゝことゝなれり然も猶は悟らず各新聞紙は長文の論説を掲げて、今や何事の起るべきやを問へり。而して其返答は翌八日より九日に亘る日本の水雷夜襲なりき。此夜堂々たる露國戰闘艦及び巡洋艦は旅順口外に碇泊し、眼中日本なきが如く、波浪靜なる海上に月夜の光景を娯み、當然の注意をだに怠りつゝ、乘組員一同晩歌を謳ふて後は昏々として惰眠を貪れり。然るに日本人は其の機に乘じて三水雷艇を放ち三隻の露艦に肉薄せしめ、眠むれる露兵の驚き醒めたる頃は早くも其姿を隱せり。此夜襲は陰險奸詐なりと評せられ、ジューナル、デ、デバーは之を卑劣なりと稱す。攻撃が夜襲なるの故を以て斯の如き非難を加へんとするか、吾人は其可なる所以を見ず。抑も水雷攻撃は概ね夜間の仕事なり、特別の事情なくんば夜襲を以て水雷攻撃の原則となす。是れ探海燈の必要なる所以なり。加ふるに不意撃は戰闘に於ける一要件たり一義務たり、露國人は日本艦隊司令官が豫め刺を露國提督に通じ、其夜水雷攻撃をなすべき旨謹告すべきことを期待したるものなりや、果して然らば、不覺も亦太甚しといふべし、露國若し好箇に軍務を處せんとせば、須らく日本公使が外交斷絶の通牒を交付したる後直ちに、旅順及浦塩を始めとし各地に打電して、公使の召還せられたる旨及攻戰は政府の意にあらざるも、各司令官は戰時と同じく直ちに凡百の防禦的裝置を取るべき旨を電達すべ

かりしなり是れ決して行ひ得べからざる事にあらず。若し此用意を缺きたりしとせば、そは明かに露國の懈怠と云はざる可らず。何れにせよ八日の夜襲は露國の怠慢及び遲延に起因するものなるを以て日本を目して宛然國際法規慣習に違反したるものとなし、苛酷の非難を加ふるは不條理の極にして毫も日本に當る所にあらず、予は此非難を以て所謂國際法の智識不充分なるに起因すと爲すものなり。蓋し國際法を實地に施行すと稱せらるゝの政治家も、時ありて之を熟知せざることあり。日本を非難する人士は曰はく、豫め宣戰せずして交戰行爲をなす、何等の妄狀ぞやと、其口吻恰も宣戰なるものを以て常に必用欠くべからざるものとなすに似たり、往時宣戰を以て必要なりとなしたる時代ありき、然れども當時さへも學者皆同一意見に非ざりしなり（中略）

千八百七十年ローラン、ジアクマンは述べて曰く佛國は戰闘行爲の開始を標識する爲め已に委棄せられたる宣戰の慣習を復興したりと、余は千九百年著述したる「戰爭及中立國の權利」に於て左の如く述べたり、

人民の交通機關大に發達したる事、及び情報の新聞郵便及電信により、全世界に流布するの迅速なるに至りし事との二事由により、公式の宣戰は日々其の必要を減じつゝあり。國際法の見地より見れば戰闘行爲の發生すべき事を知るに足るに、十分なる諸般の綜合事情あれば足れり。從て奸譎なる、不意撃云々の如きは全然問題となすに足らざるなり。英國著述家モークズ氏は千七百年以降千

八百七年に至るの間に於て、明白なる宣戰なくして開戰せられたる百七回の戰爭を列擧せり。氏曰く「公使召還により政治的交涉を斷絕するは、往々一國が干戈に訴ふべき事を隱然宣言するの意味を爲す」（九一乃至九二頁）

現下の戰爭に際し余の所謂諸般の綜合したる事情の存立せしは余の已に明示したる處なり。此の故に吾人は日本に對して苛酷の非難を加ふべき論據何處にあるやを知らず、畢竟其非難たる粗笨極妄の極と謂ふの外なし。

米國コロンビヤ大學政治學部長ジョン、ダブリユー、バージス敎授は國際法の大家なるか、氏は日本が宣戰を爲すに先達ち旅順を攻擊したること、毫も國際法に違反せすとて、紐育發行サン新聞に左の說を寄せたり。

露國が譎詐を云々することに關し先例を案ずるに、露國の唱道の非なること明晰なり。米墨戰爭に於ては宣戰に先ち交戰行爲を開始し、且繼續せられたり。米墨戰爭及米西戰爭に於ては宣戰に先ち交戰行爲を開始し、且繼續せられたり。米墨戰爭及米役及びレサカ、デ、ラ、バルコの役は、米國議會が戰爭成立を認むる以前に於て已に之ありしなり。既にせよ今回の戰爭に先ち露人をして開戰を期待せしむるに足るべき豫告ありしは事實なり。東京駐劄露公使は日露兩國間の國交斷絕したるを證する所以の旅行券を受了し、聖彼得堡駐劄日本公使も亦旅行券を請求し、露國外務省に向て引揚げの意を通せり。此事たる甲國が乙國と交誼的關係を斷絕じ

たることを指示して餘あり。露國にして之を悟る能はざれば聊か遲鈍なりと謂ふべき歟。

余の研究したる所によれば、國際法上公式の宣戰を必要なりとする確定不易の原則なく、從て此形式の必要なし。又近時の前例就中露國が交戰國たりし時の事例も、亦宣戰を以て必要なる措置と認めず千八百七十七年露國軍が宣戰に先つこと數時間前、已に土耳古に入りたるは世人の熟知する所にあらずや、戰爭は現實術突の初期に於て開始せられたりと見做され、其時より交戰國及中立國の行動の律せらるべきは、宛然宣戰の布告ありたる場合と同一なり。されば日本の旅順攻擊に關し何等譎詐不當と認むべき者なき也。

米國エール大學敎授セオドルルエス、ウルシー氏は國際法の大家なり氏は日本政府か二月六日露國政府に對し外交關係斷絕の通牒を爲したるは、戰鬪開始近きにある可き事を完全に且つ公平に警告したる適法の所置なりとして左の如く公表せり

一　現今に於ては戰爭の宣言は不必要也

一　戰爭は交戰國相互に於ける第一回衝突の瞬間より開始せらるべきものとす

一　局外中立は他國の政府に戰爭を開始せる旨の公然の宣言ありしより始まるものとす

一　日本の水雷艇が旅順に露艦を攻擊せる行爲に關しては毫も不法又は不適當と認むべきものなし

獨文周報は宣戰以前に於ける戰鬪の實例を擧げ以て左の如く批判せり

今若し豫め開戰の宣言を爲さずして戰爭を開始したりとの非難を日本に加ふる者あらば、日本人は平然之に對して唯最近二世紀間に於ける、歐洲諸國の先例に倣ひたるものなりとの答辨を爲すを以て足れりとなす。

佛國軍事新報の記者シャール、マロは今より二十年前英國政府の命を受け、モーリス陸軍大佐の公にしたる開戰の布告なき戰爭と題する一英文の論文を吾人に紹介せり、該論文中には最近二世紀間に於ける戰史上開戰の宣言なくして、開始せられたる戰爭に就て許多の先例を摘示し。即ち千七百年より千八百七十年に至る百七十一年間に於ける戰爭中、其の百七回は、豫め宣戰なくして開始せられ、僅に他の十回が戰爭に先つて開戰の宣言ありたるものなることを說逸せり。

モーリス大佐は便覽の爲に前記百七回の戰爭を數種に分類し、其內百十一回は文明諸國が不意の攻擊に因て、生ずる所の利益を占めんがためには、國際法上極めて普通なる條規をも、無視することを躊躇せざりしものとして、千七百四十年シュレージエンに於けるフリードリヒ大王の軍、千八百六年土耳古に對する英露同盟軍、千八百六十六年ザックセン、ホルスタイン、ハンノーバー及グルーヘッセンに闖入したる普墺軍の行動を以て此の分類に入るべきものとなせり。又十二回の戰爭は交戰國の双方が敵國をして先づ開戰の宣言をなさしめ、依て以て出來得べくんば開戰の責任を敵國に負はしめんと欲したるが爲め、互に其公布を躊躇したるものにして、一七九八年佛國に對する伊墺兩軍の攻擊及

一八二八年土耳古に對する露軍の攻擊等此分類に屬す。

又十回は敵國の機先を制せんがため、迅速なる戰鬪行爲を開始したるものにして、英國のピン提督が一七一八年バッサローに於て西班牙の艦隊を擊沈したるが如き、一七五六年フリードリヒ大王の索遜を陷いれ一八〇〇年英軍のコーペンハーゲンを砲擊したるが如きは、蓋し右の理由に基けるなり。

此外十二回の戰爭は陸軍若くは海軍司令長官たりしものが自己の責任を以てしたると、或は場合によりては戰をなすべしとの訓令を受け居りたるとを問はず、兎に角豫め其本國政府に、通報することなくして開始したるものにして、一八二七年英佛露の聯合艦隊が、土埃聯合艦隊とナバリーノに於て砲火を交へたるが如き是なり。

此外モーリス大佐は尙他の理由に基く十六回の戰爭を擧示せり、即ち安全を確保せんがため若くは事實上の保障を得んがため、又は間接に利害關係を有するたるもの、例へば一八〇〇年に於て英國が佛領マルタ島の港灣に在りし、英國の船艦二百隻を其乘組員と共に拿捕したるが如き、又一八五三年露國はドナウ侯國を占領し、クリスト敎徒保護のために爲したる正當なる要求の容らるゝ迄は、該侯國を以て質となすべしと宣言したるが如き之れなり。

モーリス大佐は終に臨んで、尙ほ二三の稀有なる場合を示せり、即ち兩國政府が外交談判を斷絕する

ことなくして、陸兵の戰鬪を見るに至るもの之なり、一七四三年デッチンゲンの戰爭に於て英人は佛人を擊破したるに拘はらず、兩國間の平和は正式に尙ほ存在したるの故を以て、倫敦及び巴里に駐在したる兩國の代表者は依然として其任地に駐まれり。

前述の如く開戰の宣言なき戰爭の內、一七〇〇年より一七九九年に至る期間に屬するものは、僅に四十七同にして他の六十七回は實に一八〇〇年より一八七〇年間に發生したるものなり、又最近十九世紀に於ても其例に乏しからず。佛軍の東京に於ける、歐洲諸國の遠征軍の支那に於ける、豈に開戰の宣言なき「清國に對する」戰爭ならざるなからんや。

國此見是日本は文明諸國の示したる夥多の先例に倣ひたるものなることを主張するに足れりといふべし。

ジャバンガゼットは露國の國際法違反を責めて左の如く論せり

露國軍艦は藏西に於て英船エトリフデールおよびフランクヒーの二隻並に那威船マチルダを捕獲せり此等船舶はいづれも石炭を積載せるため戰時禁制品を運送するものと見做されたるものなるべし、固より此行爲は正當なりと辯護せらるべしと雖も、時節柄現下禁制品たる石炭をして相當の警戒を加へずして、濫に露國の掌裏に歸せしむるが如きは、吾人之を信ずる能はず、何となれば日露戰爭の開始は二月六日にあり、其以降今日に至るまで充分の日子ありたるが故に、前記商船にして當然捕獲せらるゝの慮ある時は航路變更の所置を執るべき餘裕ありしが故なり。又右の石炭の戰時禁制品ならざりしは開戰以來露國の國際法を無視したる擧動に鑑み自然生ずべき疑問に屬す。即ち露國は曩に青泥窪に於て船長の異議を申込みたるにも拘らず英國船シビオンを四日間抑留せり。旅順口に於ては右英國船の外チンピイン、フエーピエンおよび獨逸船プセントーは砲火を受け、獨逸船は痛く損傷したりと云ふ、英船溫洲號は避難の日本人を便乘せしめて約一週間抑留せられ、而かも充分の食料および飮料水を給せられざりしなり。中立國の船舶に對する露國の亡狀を叙することは茲に止め、更に淸國に對する行動を見るに亦國際法を蹂躙するを認めざるを得ず。其滿洲條約を破棄せる事、および淸國の開港場たる牛莊を占領し、恣に之を其有とし、頑として動かざるを見れば思ひ半ばに過ぎん。露國は又ダルニーおよび奉天（是は開港場なり）における外國領事に職務執行認可狀を與ふることを拒絕せり。又露國は目下淸國の中立に容喙し淸國を威壓して自家藥籠中のものゝごとなさんとすと云ふ。果して然らば此の事たる淸國のみならず、全然國際法を無視するものといはざるべからず。國際の禮儀を嘲笑に付する如き、又野蠻人の住める地より難を避けて、歸國せんとする自衛の道なき日本婦女に對し、露國人の暴行を加へたりとの確報續々として來るは、國際法を蔑視するの一證左として指示するを妨げず。

以上揭げたる露國の亡狀（其他晉人が特に枚擧せざるもの多し）は已に開始せられたる戰爭を以て報復する所あるを要す。此等亡狀は曾に被害國民に對してのみならず、世界の公道に對する罪惡にして、擧世翕然起て其非を

鳴すは必然なり。由來露國の恐怖せらるゝ所以は、其の邦土の廣大、傲然たる權勢及自國に反抗する邦國に對し、剛愎卑下の風を裝ふにあり、然るに今回の戰爭により日本は露國の威力が、從來非常に過大視せられたるものなることを證明せり。日本は彼我略ぼ相均しき兵力を以て、僅かに二週日にして露國海軍を挫折し、殘餘艦隊を港内に幽閉し、優に海上權を掌握せり。固より敵國の殘餘艦隊を悉く征服せざるに先ち、日本海軍の安全を唱ふるは尚早きに失し、且武運の消長豫め下すべからずと雖も今日までの經過に依れば日本は露國の名、徒らに大にして實之に副はざる海上權を有効的に打破したりと云ふべし。

日本は、「露國は恐るべき國なり」と云ふ世界の妄想を芟除せり。吾人は此の妄想芟除の擧が大成せんことを期待するものなり。然るに露國何者ぞ、日本の開戰の豫告をなさずして戰端を開きたるは、國際法違反なりと主張し、以て同情を買はんとす。其國際法違反の擧動頻繁なること彼れの如くして、而も日本の違法を云々するは陋態亦太甚しと云ふべし。要するに露國は自利是れ事とし、放逸暴戻至らざるなきを以て、漸く國際場裏の法外者と認識せらるゝに至れり。露國は其力克く日本の屈強なる與國たるに足れり、然るに其自暴自棄に國交の禮讓を無視したるに依り、以て自己の敗殘及屈辱を報復せんとする者なり。試みに露國に對し、今回の日韓議定書に關する意見を問ばゝ妙ならずや、彼或は牽強附會して云はん、新議定書は國際上何等の効力なしと呵々。

露國の暴戻世界既に定論あり、敢て言ふを要せずと雖も、露國が我國に對して純然たる國際法違反なるもの、二三を示さば、

露國軍艦は我北海に來り、（誤作卿約十海里、畫の日沖に於て、航海中の我商船奈古浦丸を俄然砲撃沈沒せしめ、同時進航中の商船金勝丸に對し、猝沈せしめたるか如き。旅順口の對岸山東省登洲の前面、即ち廟島列島附近に於て、航海中の漁船繁榮丸を撃沈したるか如き。又我居留民及ひ引揚人民に對し、掠奪、凌辱、殘害を加へしか如き。其他公海に水雷を敷設したるか如き。飲料水に毒物を投したるか如き。悉く以て國際法違反たり。而して遽れ此語を喋々す。億々何ぞそれ暴戻の甚しきや。

戰爭と戰鬪及宣戰公布

世界の廣き、人種の多き、其間種々の妄談に、理を誤り、義を謬り、以て事を解せずと試むるものあり或人は宣戰を公布せずして、鬪ふものは國際公法違反なりと云ひ。或人は戰爭と戰鬪とを混同して解釋を爲し。或人は宣戰公布なるものは、敵國に通牒す可きものなりと誤解し。戰爭と戰鬪及び宣戰公布なるもの〳〵眞價を損するを以て、予は聊か之を辨ぜん。

戰爭とは如何なる事を意味するか、國と國との間に於ける利害相反する時に於て、改訂是正に關する交

渉談判を意味するものなり。即ち私人自他間に於ける利害相反する場合に於て、相互に爭論の生したる場合と同一なり。又戰鬪とは何如なる場合を指示したるものなるか、國と國との交渉談判に於て、各自主張を固執して、平和に局の結ひ難き情況に到り、兵力を以て干戈に訴へ、雌雄を決する場合を指示するものなり。即ち私人相互の爭論が道理に據て採決し難き場合に於て、腕力に訴へて勝負を決する場合と同一なり。然れは戰爭なる時期の發生したる時は、自然に伴ふ結果として、何時戰鬪の起る可きやは豫期す可きことにあらす。要するに戰爭ありて戰鬪は瞬間なることあり、竟に鬪はずして結局することあり。故に戰爭と戰鬪とは混同す可きものにあらず。因是推究する時は、日露の戰爭は何如なる日に於て開始せられたるか、即ち露國は清國との盟約に叛き、列國に對する宣言を食み、我大日本帝國の國權の上に障害を加へんとせしかは、明治三十六年八月十二日を以て我國が露國に致したる提案に對し、露國は同年十月三日を以て否認し來れり。此の瞬間に於て戰爭の端緒は開かれたるなり。而かも明治三十七年二月六日に到り、我政府は駐露栗野公使を經由して、外交斷絶の通牒を爲したるものは、即ち一面に於ては戰爭は調停す可からざる程度に達したることを示し、一面に於ては戰鬪は隨時開始す可きの態度を警告したるものにして、我帝國は毫も大義名分に違はさることを知る可し。

宣戰公布なるものは、毫も敵國に關係す可きものにあらす、其宣戰公布の目的は、一は第三國に對し開戰大義の理由を聲明し、一は國內人民をして開戰の必要と爲りし所以を、周知せしむるの公式公布たるのみ、敵國の知るると識らさるとは、我に於て關する所にあらず。然るに露國は宣戰公布前に戰鬪開始せりと、喋々、喃々、泣き叫び、吼へ訴へ、狂々如たり、痴々如たり。

夫れ既に予の見解するを以て、正鵠を得たりとせば、戰鬪が宣戰公布の前後たるに於て是非ずるは、一耳をだに傾くるの價せさるなり。

第參章

列國の視線……佛國の公論……露國の愚痴と墺國公論……ポーランド救會と國民會……日本水雷術の激賞
露國敗北後音……日英同盟の眞價……英國の公論……伊國の公論……獨國の公論……埃及の讃辭……
……米國の同情……清國新聞の論調

今や世界各國は文明を覓めつゝあり。露國は二百年來依然として舊態を改むることなく、他邦領土の寇掠を以て國是と爲す、即ち是れ野蠻時代に行はれたる政策のみ、此政策を滿韓に試み、延て我帝國の自衛權に障害を加へむとせり、露國が斯る蠻勇を逞むるに對する我征露の軍。即ち日露の交戰に對して世界列國の視線と同情とは那邊にあるか。世界文明の上に於て公平且つ無私に判斷する者は、露西亞帝國の不法にして、日本帝國の眞誠且つ義軍たるを說くに躊躇せざる可し。左れば列國の同情は我帝國に集中し知ると知らざるとの別なく我帝國の前途に於て、多大の望を屬するに至れり。凡そ戰史の報ずる

戰爭中、斯の如く世界の同情を博し得たるもの蓋し稀なりとす。

露國は數度の敗戰に憾み、帝國に對し種々陷穽の策を講し、讒誣中傷の惡評を搏へ、列國に回牒するも一の泣き事と爲し、列國見て以て嘲笑するのみにあらざるなきか。今や露國に對するものは腐緣的の關係に於ける、佛國或る一部の人士を除くの外、同情を寄するものなきやを疑はしむるに至れり。吁々露國の末路以て想見するに足る可し。

今茲に諸列國の表明せる公論を聚錄せは、以て其一般を窺知するに庶幾からむか。

佛國頑儒ルロア、ボーリウ氏の日露交戰觀

佛字新聞コレード、シース所載

我佛國に於ては一般に日露兩國の國力絕對的に不平等にして、露國の日本國を蹂躙するや疑なしと思惟せらるゝも、是れ我が國人の僻見にして、又歐洲人の痴夢たるに過ぎす。兩交戰國間優劣の差は毫も世人の考ふるが如く不均等のものに非す、素より吾人は露國が其の戰爭に於て、優者たらんことを想はざるに非ずと雖も、而かも其果して能く然るを得るや否やに至りては、何等確實の徵証を有せざるなり。

日本の決意既に定まり、其の迅速の行動一たび開始する上は、其の十萬の兵士は三四週間を俟たずして韓國の地に到り、一擧して旅順に通ずる鐵道を破壞し以て、今や海面に於て容易に封鎖せられんとする同港を孤立せしむるの計に出づべし。

日本人は島國人にして專ら海運漁業の民なり、自然の傾向と遺傳的習慣と相俟て、自ら最良の海員を養成す。是れ日本人が海上に於て、其の永久に有する顯著なる利益なり、加ふるに彼等は多年の實驗に依り、韓國及北淸の沿岸港灣の狀況を知悉せるなり、之に反し露國人は元來大陸の民にして、其の國は海岸を有すること極めて少なく、四隣氷塊の鎖すところたらざれば則ち、他の開明國の模倣あり、露人の海員として巧技ならざる亦た當然なりと云ふべし。此故に日本人は終局に至るまで依然として制海權を掌握し、韓國との交通を充分に保持し得て、速かに十萬の陸兵を韓地に派遣し、亦其の軍具糧食を供給するに於て聊か困難を感せざるべし。

陸上に於ては露國軍の長所は則ち是れあり、其の軍隊の堅忍にして持久の力強きことは人の知る所なり。故に日本軍の大膽を以てするも、露國陸兵に對しては、或は其艦隊に對すると同一の成効を收むる能はざるべし。然りと雖も衆口の一齊に唱ふるが如く、露國の陸軍は容易に日本の陸軍に勝利を博すべしと云ふは、是れ亦た正鵠を失するの見にして、他の要素を遺却するの嫌なき能はざるなり。

露兵の耐久力と沈勇とを感稱するは素より一理あり、而も他の一方に於て其の敵手たる日本兵の價値を忘るべからす。此短軀の日本人は勇猛、敏捷、紀律、精確、質素、行進力の六大要件を優に具有し、實戰に臨みて用意の周到なる、行動の的確なる、恰かも其の技術工業に於けると同一の觀あり。

之を目して生氣あり智能ある自動機と云ふも過言にあらず。況んや此黄白兩人種振古未曾有の衝突に於て、日本兵士滿身の熱血沸騰すること宛ながら、革命當時に於ける、我佛國の兵士の如くなるべきに於てをや。

由之觀、是陸戰に於ても日本軍の容易に敗北すべしてふ、何等の理由存することなく、猶り問題と爲るべきは小部隊に於て優越なること爭ふべからざる、此銳兵が大軍の聯合運動を爲すに當り、其の指揮果して宜しきに適し、充分に兵員個々の長所を、發揮することを得るや否やの點是れなり。換言すれば高級司令部の技倆、果して兵員の價値に讓らず、大部隊の行動に於て克く小部隊の比類なき猛力を利用し得るや否や、又他の一方に於て騎兵の不充分なることは、滿洲の平野に於て日本軍の爲め大に不利ならざるを得ざるべく、而かも山嶽多くして道路なく、溪間稻田相連續せる韓國に於ては、此の缺點に苦むこと或は稍や少なからん、最後に日本軍隊の銳氣は果して能く數個月間、乃至一年以上に亘り持續せらるべきや如何。

此持續の問題は露兵に就て起ることなし、露國兵が困難に臨み、又敗戰に遇ふて忍耐持久することは開明國民中にありて既に異彩を放てり。渠等は開戰劈頭の敗戰に慣れて、之が爲め毫も勇氣を沮喪することなし、是れ露國兵の主要なる精力なり、嘗て那破烈翁一世に對し又クリミヤ、中央亞細亞若くは最近プレウナの戰役に於ても、露軍の成功は決して初期に來りたることなく、而かも初回の困厄に

遇ふて屢々挫折動搖したることなし。

時を經るに從ひ露軍は恐らく其數に於て優勝と爲るべく、是れに依り果して克く日本軍を蹂躙し得るや否やは素より未定の戰局に屬し、吾人が豫測し得べき限りに非ずと雖も、爲めに少くとも日本軍をして、疲勞困憊せしむることは或は之あらん、是れ即ち露國の有する最大長所なりと云ふべく、露國は若し第一回戰役に於て遂に獲る所なくんば、千九百五年に於て第二回戰役を決行し、更に其名譽と利益とを强要するに於ては、進んで第三回の戰役を辭せざるべし。

人或ひは思へらく金錢の缺乏は、戰爭の終局を速かならしむるの効あらんと。之れ一の謬見にして「戰爭の神經」たる金錢の性質を誤解するものなり。夫れ金錢の必用は戰爭の開始前及特に戰後に於て最も大なりと雖も、却て開戰中は之を要すること甚だ多からず、凡そ過去將來に亘りて多少の信用を保證する一國の戰費は、概して之を後拂と爲すことを得、即ち物品の供給者は其金を敵對終了の日迄延期し、其代金に向ては百分の一〇、一五乃至二〇の割增を行ふこと過半の場合に於て然りとす故に平和克復の後始めて巨大の支拂を要する所以なり。

又日露兩國は共に豫備金を有し、此點に於て露國の資力は極めて顯著なるものあり。曾に一ケ年に止まらず少くも二ケ年間、一切の軍費を支持するに餘りあらん、最近の貸借表に依れば露西亞銀行に於ける、寄托金額は七五〇、八五三、〇〇〇留に上れり、尙其外露國は少くも五億乃至六億の內債を募

集し得べく、又現狀に於て巨額の外債を募集し難きか若くは其時機不可なるに於ては、五分五厘乃至九分利附三箇年期若くは四箇年期の國庫債券、五億留又は數回に十億留を佛、獨、白の市場に賣出し得べし。

日本國の財力に至りては遙に露國に及ばざる者あり、之れ同國弱點の一なりと雖も、此劣位は必らずしも爾く急迫を告ぐるものにあらず、何となれば第一に日本に財費を要すること極めて少なく、既に制海權を掌握したる今日に於ては、交通の自由完全に保維せられ、諸般の軍需悉く之を自國の港灣に取るを得、而かも其兵士の質素なる寧ろ極端に失するものあればなり。加之日本國は約二億六千萬圓の金貨若くは金塊を其銀行に寄托せるあり、尤も該金額の三分の一は過般軍艦購入の爲に或は差引かれたるならん、尚同國は數億圓の內債を募集し得べく、又軍國多數の例に倣ひ紙幣を發行することを得べく、其外債募集の件に關しては、現下多く成就の見込なかるべきなり、而も英、米兩國の人民は或程度迄日本の國庫債券を引受くる事たるべし。

第七回 旅順攻撃に因る露軍の敗報到達したる佛國一般の觀

露國海軍大敗の報始め佛國に達するや、同國新聞紙は寧ろ半信半疑の間にあり、一面露國の悲運に對し深厚なる哀悼と滿腔なる同情を表しながら、頻りに詳報の到着を望み居れり。同國大統領、外務卿、海軍卿、巴里市長及び其他の人々よりはペトロポウロウスクの沈沒、及びマカロフ提督の戰死に對し露國に弔詞を送れりといふ。

オーロール新聞は露國の指揮官と題するクレマンソウ氏の論文を掲げたり、同氏が曩に露國陸軍指揮官の眞價に疑を狹むものなりと、記したる事を再錄し、且つ上陸に於ける戰闘準備に就ては資料に乏しき故之が批評を避くべしと述べたる後、峻酷なる冷罵的口調を以て、露國司令官が屢々犯したるを大失敗を論評せり。氏は衆目縱て其無能を認むる指揮官に對し、アレキシーフ總督が斷然軍規を勵行せざりしを攻撃し、露國の將軍を以て千八百七十年即ち普佛戰爭當時に於ける、佛蘭西將卒に比較し驢馬に導かれたる猛士なる諺を引用せり、尤も親露主義なる新聞紙の一なり。

ソレエー新聞は聖彼得堡發の一書翰を發表せり、其書翰中には露都に於て敗報の到着の爲め、一般人心が激烈なる打撃を受け、上下混亂を極むるの狀を詳述し。此敗報に依り露國人間には種々慙くべき風說行はれ、甚しきは迷信的落膽さへ來たしたりといへり。

佛國新聞は、我公報の發表に依て、事實の眞相漸く明白となりたる故に、今や最近の海戰を以て露國の重大なる敗北となし、日本の大捷を認むるに於て皆一致するに至れりと雖も、戰敗の結果の大ならざるを誇張して以て、徒らに露國の元氣を沮喪するに至らしめざらんことを注意するもの〳〵如し。尤も一二の新聞紙は之を以て太平洋に於ける、露國海軍活動の終局と爲せり。

佛國に於ては目下の處我國の行動に就て、不祥なる批評を試むるものは一も之なきが如し。尤も重な

る新聞紙は其社說欄内に於て、日本の行動に關する評論を避くるの狀あり。

フヒガロ新聞は露國の感情に關し述べて曰く、東鄉司令長官の報告を一讀したるものは、マカロフ提督が日本艦隊に迫りたる勇氣を嘆感せざるを得ず、之と同時に又東鄉中將が敵を港外に誘ひ、之をして前夜斯の如く巧妙に沈設せられたる水雷の上に、二回迄通過せしめたる成功と其鬱屈を感賞するを得ざるべしと同新聞は又た曰く日本は實に近代の海戰術を解することを、尤も正確にして又之を實行する尤も其宜しきを得たり。

埃國外務省の機關新聞フレムテン、ブラットは露國の回牒即ち露國は日本の攻擊に對し何等の準備を爲さゝりしと云へる愚痴に對し左の如く評せり

（前省）軍務省が平時に在りて出來得る限り萬般の準備を爲すものに非すとせば、其主要の職務は果して那邊に之を求むべき……若し之を以て有事の日に備ふるに非すとせば、軍政なるもの果して何の必要かある。

又彼の不用意なりしとの自白は極東に集中せられたる兵員の不足なるを意味するや、將た又其軍需品の供給の不足なるを云ふものなるや。此差異の如きは毫も此の怠慢を輕重するに足らず、思ふに兩者の俳發は最も事實に近からんか。

顧みて日本人を見れば、海戰に於て既に示したるが如く陸戰に於ても亦準備の整頓せるを見る、實に日本は其敵手並に一般世人をして、開戰の發端に於けると同一の位地を、日本は今後尚ほ保持するならんことを疑ふ能はざらしむ。即ち日本人は非常なる精力と愼重なる勇氣とを以て戰を繼續するならんと思はしむ、兩國間に於る此懸隔は將來凡ての行動に對して影響を與ふべきや必然なり

埃都發行のノイエ、フライエ、プレッセ新聞は左の如く論評せり

日本は曩に海軍に於て數回の成功を得今又次いで陸軍の戰勝を以てせり、日本が歐洲の一國と干戈を交ふるに於て、其武勇必ず之に劣るべしとの豫想は今や全く否定せられたり。今日に當り日本の陸軍を以て露軍に超過せりと爲すは早計に失すと雖も、其の對等たるに至ては最早疑を容るべからず。而して這般日本の成功は政治上の局面に對して、重要なる影響を及ぼすべきのみならず、其無形上の結果は實に測るべからざるものあり。既往に於ける海軍の成功よりも、一層深刻にして永久なる感想を生ずるに至るべし、從來の非運及災厄は既に露國の人心を沮喪せしめたること甚しく、其の望は一に陸軍に集注し、人民は翹首して、最初の捷報を待ちたるに、今や鴨綠江に於ける戰敗に依り此の信念も亦た極めて動搖するに至れり、露軍は準備の整はざりしを辭柄として敗報を糊塗するを得ず。何となれば其援軍を逐遣するに於て三ケ月の餘裕ありたればなり、蓋し軍事上の見地より之を觀れば露軍今回の戰敗を以て未だ大局を決したるものと云ふに足らざるべしと雖も、日本軍が既に鴨綠江の右岸に占據するに至りたること及び五日間の戰鬪に依り其の砲兵の優勝にして、軍隊の堅忍なる旦其

精確なる射撃の技能を證明したることは確かに注目するの値あり。終局の勝利は他の軍隊と數戰の後ち、且恐くは一層多數の生命を犧牲に供して決せらるべし。

今を距る四十五年前通商條約が日本を驅て列強と共に文明の域に向しめたる以來、日本は亞細亞人種の常性に反し、不撓の氣力と非常なる慧敏とを以て講究研鑽の功を積み、今や遂に強大なる露國に對抗するの勇氣と自信とを有するに至れり。若し他に其匹儔を求むれば吾人は日本を以て亞細亞に於けるピエモン（伊太利はピエモンより起りて王國を興せり）又は普魯西（獨逸は普魯西より起りて帝國を建つ）と稱せんと欲す、今や日本の國運は悉りて滿洲の野に在りと謂ふべし。

我海軍か旅順港口に於ける奇勝に對し米國新聞は倫敦電報として左の如く掲げたり

旅順攻撃の擧は曾に日本が如何に凄しき勢を以て戰爭を力行するかを示すのみならず、亦以て海戰の上にては殆ど最後の打撃を加へたるに等しきものと見做べし。當地倫敦の海軍專門家の說は、露國艦隊中最良の軍艦三隻をして戰鬪力を失はしめたる事は十分に日本軍の海上に於る全勝を保證し得て餘りありと云に一致せり。又日本の海陸軍人を熟知せる人々は、兼口一致、今後の戰爭は第一回旅順口攻撃よりも更に一層冒險の性質を有する、大膽不敵の勇武を以て斷えず連續せらるべしと言へり

日本海軍の最良武官は我一に水雷艇に乘組まんことを、志願せり、是れ必死を賭して奇功を奏するを得べければなり。眞實の困難は兵士が無益に死に就かんとするを制止するの一事にあり。此特徴は即

ち旅順攻撃竝に歐洲各國首府をして、疑ひを狹ましめざる、露國軍艦十一隻擊沈の壯話に於て見ることを得。歐洲一般に今回の戰爭は短期にして銳利にして、且決戰的なるべしとの感を懷き居れり加之ならず露國若し海面より驅逐せられんには、直に和を請ふに至るやも知れずとの感あり。官邊にては合衆國が細心注意して戰爭の地域を局限せんとするの盡力に對して至大の感與を有す、該提議は恐らく獨逸を除くの外總ての強國より大に翼贊せらるべし。時局の全體に於て危險なるものは獨逸なり、彼は極東の葛藤に乘じて領土其他の點に利を占めんとて、全力を盡すなるべしとは何れの處にても信せらるゝ所なり。

米國紐育プレッス新聞は我征露軍の大體に於て左の如く言へり、

日本國民のなせる戰は、列國環視の裡に尙ほ滿洲に於て、破廉恥なる貪婪を逞うせんとする露國を膺懲せんとするものなるのみならず。又露國が誓約せるを履行せしめんとするにあるものなるが故に、日本國民の戰爭は即ち吾人の戰爭に外ならざるなり。

米國ボーランド蔣敎聯合會、蔣敎一致會、及ボーランド國民會の日露交戰に對する意向

波蘭の亡民が露國の暴虐に苦みて、何時かは母國の爲めに當年の恨を報いんとしつゝあることは何人も熟知せる所なるが、同地に在る波蘭人會及び波蘭人の各種新聞紙は、日露戰爭に關して意見書を發表し「吾人は偉大にして勇敢なる日本國民に向て熱心なる同情と歎美とを表するものなり」とて熾に

日本を賞讃し且つ「吾人は茲に日本國民の勇敢なる努力が速に完全にして、永久なる勝利と成功を以て飾られんことを誠實熱心に希望し祈禱するものなり」といへり。而してこの意見書は米國波蘭裔敎聯合會、波蘭國民會及び波蘭裔敎一致會の役人によりて調印せられたり。

米西戰爭の當時水雷艇隊の指揮官たりし水雷術の老練家米國海軍大佐キンバル氏は日本の水雷術に就て激賞したること桑港クロニクル新聞に左の如く登載せり

水雷艇にして能く其操縱の術を誤らず機關の運轉に巧ならんか、天下また何者の恐るべきあらず。今回日本が旅順に於ける水雷艇隊の操縱は再度この言の過らざる事を證して餘りありといふべし。予は常に信ず、三人の魔神は能く現下の如き天候定めなき冬空にも、月なき闇の夜にも、彼の水雷艇を過たず操縱して、艇隊が半圈を描き盡さぬ中に、早くも世界最有力の戰艦を轟沈せしめ得るものなり。日本人は恐らく其水雷の操縱に至つては天下一品といふべきものならん。彼等が特技は既に日清戰役の際之れを威海衛の海戰に見たり、而かも今回の技能は更らに威海衛海戰當時に一歩を進めたりといふべし。最早米國水雷艇の有効を天下に向つて誇るべき時にあらず、我が艇隊か眞個の攻擊演習は未だ之れ非ざるに、日本は既に幾回の機關運轉艇隊操縱の實地經驗を重ねしにあらずや、僅々一週間を出でずして海上に於ける日露戰爭の結末を告げたるもの、聚げて其功を悉く彼の巧妙なる技能を有せる、日本水雷艇隊に歸せざるべからず。日本に六十の水雷艇あり、而かも其半を以て能く彼の有力

なる露國艦隊に抗し得と聲言せり、露國の戰艦遂にまた何等の用を成せるを見ず。

西比利亞鐵道に對し大部の材料を供給したる太平洋輸入木材會社副社長たりしフランシス、アールウアードル氏は山東省の全沿岸より旅順仁川の地勢に精通せるの人。桑港クロニクル新聞記者に露國敗北す可しとて左の如く語りたり

露國は日本の要求を容れて和を乞ふ可し。現下の戰爭に於て露國の勝利を博する能はさることを確信せり又曰く「余は日露兩國の能力を比較研究し、將來の海戰及び陸戰に於て日本の有爲堪能なること、遙に露國の上に出で、克く露國をして滿洲より撤退せしむるを得べきことを確信す」と氏又曰く「余の始めて親しく日本軍に接近したるは、千九百年其の戰地に赴くときにして、當時余は米國士官と同伴し、日本軍の訓練及び軍裝の完全巧妙なるを見て感慨に堪へざるものありき、日本人は苟くも事を等閑に付せず、其の所爲は一として綿密なる攻究及び智巧なる豫測の結果ならざるはなし。數日の後余の露國義勇艦隊に屬する一艦に便乘し、旅順に赴き其れより太沽の要塞に行き、次で天津北京に到るの途次聯合諸國の軍艦及び軍隊を觀察せしが、到る處日本軍著るしく完備して有力なるを目擊せり米國士官は首肯して曰く日本軍は其軍隊を上陸せしめたり、其兵士を操縱するの巧妙なること歐洲中最熟練なる國民に對して遜色なしと他國民其の兵士を上陸せしむる爲め端艇荷物揚船及び曳船を捜索するに際し、日本は臨機應變の準備完整せるを以て其到着するや、混雜若くは遲滯することなくして

軍隊を上陸せしめ直に戰地に向はしめたり。他邦は是れ以上の軍事的能力を發揮せざりしなり。日本軍には一種特別なる運動力あり、爲めに其行動迅速且靜肅なるを得、左れば日本より遲緩なる他邦軍隊が何事を爲すべきかを瀏考しつゝある際、日本軍は已に其爲さんと欲するところを遂行し了るものなり現下鴨綠江畔に進行中なる戰役にて、前陳運動力及び輕快なる武裝は日本軍に稗益すること莫大なり、臨機必要に應じ迅速に位置を變換するに際し、日本軍は其の驚くべき運動に依り幾多の利益を收めし日本の追擊又は逆進する一日の速力は一萬二千人のコサック騎兵を除くの外、露軍の企及する能はざる所なり。若し戰地にして鴨綠江畔より北部に推移し奉天府及び哈爾賓に入らば、日本軍の輕快なる進行の安排及び運動力は軍事上最高の價値あらん。日本軍鴨綠江々畔に於て戰勝を博せば、滿洲の南部は盡く日本軍の瀾歩に委せられ、而して露軍は哈爾賓に據るべきを以て大連灣、靑泥窪、旅順、牛莊、及び奉天は日本の掌握に歸すべし。思ふに日本軍の目的とする所玆に在らん、アレキセーフ總督が旅順よりハルピンに移れるの事實に徵するに此見解の當然なるを認む。旅順は之を海上より攻擊する時は堅固なるべからざる要塞なりと雖も、狹隘なる遼東半島の兩側に軍隊を上陸し、丘陵中の二徑路を經て南進し其背後より攻擊するときは左まで堅固と云ふべからず。前述の作戰計劃は千八百九十四年十一月日本軍が旅順を占領したる當時遂行したる所なり。爾後露國は此變に處する所以の道を講じたるに拘はらず。余は信ず日本軍は須臾にして旅順を圍み遂に之を占領し、併せて同地に入

る海陸軍を盡く掌握しサンチアゴーの役再演せらるべし。余は露國の事を處するの手腕、否不手際を目擊するときは、一般陸軍將校に對し好評を與ふる能はず。彼陸軍將校は米國人の所謂、世才先見の明及び整理の力を缺くもの、如し、換言すれば行政の才幹を缺くと云ふべき歟。一例を擧げんに余は浦鹽斯德より太沽に至るの途次、一千人の兵露軍運送船より旅順に上陸するを見たり。此一千人の兵は一塁夜屋外に在り、食糧を給與せられざるに反し、將校は飮食店に入り三鞭を傾けて美食せり兵士は荒涼たる丘陵にあり、雨露を凌に由なく飢渇に苦むに際し、將校旅館に在り美酒に醉ふと云ふが如きは、他邦國の軍隊にありては得べからざる事態なり。然るに奇なる哉前日斯く冷遇せられたる兵士は、明朝司令官檢閱の際嚴然として氣を付けの姿勢を以て立ち、軍隊的敬禮を施し秋毫も不平の言を發せずして運送船に歸り太沽に赴けり。如斯辛酸困難を容忍する性質は、均しく日露兩國軍人の特色なり。兩國軍人は死を恐れず他國軍隊に在りては、公然反逆を惹起すべき程の艱難をも忍容せん。

擬議たる日本如何して尨大なる露國に當るを得んやと云ふ者鮮からず。如此人士は蔑爾たる日本に當る者は、尨大なる露國あらざることを知らざるものなり。事の實際は他なし、自國に接近して戰鬪する七十五萬の日本軍が、軍需品供給の根據地を跑ること六千哩の地に在り。更に兵員及ひ軍需品を得るには、破損せられたる鐵道に依るの外なき二十五萬の露軍に對抗すること則ち是れなり。日本

は根據地を距ること近き處に於て戰鬪し、而かも海上權を掌握す。然るに露軍は軍需品供給の根據地を距ること、六千哩の地に於て戰鬪の、遼陽に於ける孱弱なる、地位を援助せんが爲めに、六十封壓軌の單線鐵道に依らざるを得ざる悲境にあり。勝敗の數知るべきのみ。

米國諸新聞の論調として外務省に達したるもの

露國艦隊の蒙りたる災厄の報一度米國に達するや、一般米人は其事の海戰に伴ふ自然の結果に出たるを諒すると同時に、世界に其名を轟かしたるマカロフ中將が、其麾下多數の士卒と共に慘死を遂げたるに對し、弔悼の意を表せり。此の非運に際し同情を寄せたりと雖ども、之が爲め露國に對する一般の反感に影響したる形跡なし、米國新聞紙中今回の戰勝の如き偉業を擧行し得る日本帝國海軍が其戰術と實力とに於て露國に優越し、極東に於ける露國の海上權力を滅じて、倣々たるに到らしめたる事を嘆稱して措かざるに至れり。米人は這般露國國民の前途を想望し、且つ歐洲に在ては數百年間刻苦改進の成果たる技藝學術並に組織訓練の方法を、短日月の間に於て同化し得たる民衆の發達に關し論評を試るもの尠らず。

英國ツロプレジヤー海軍大佐は旅順港に於ける戰鬪を目擊して左の如く言へり

日本海軍の威力の絶大なるを認めたりといふより他に評語なし。兎に角今回の海戰が始んど世界の海戰史に未だ曾て記されざる劇戰にして、日本艦隊の威力の絶大なることが、現實に顯はされたるは事

實なり、此海戰にて被むりたる旅順の損害は未だ詳にするを得ざれども、既に艦艇を失ひ砲臺を破壞せられたるなど、防備力の著るしく減却されたる陷ゐりたるを以て、直ちに彼の戰術の迂拙なるものなり、十日の戰鬪に於ける露國の應戰態度は決して侮るべきものにあらざりしも、唯渠の爲めに遺憾なる可きは、各砲臺より運發する砲彈の着點が、日本艦隊に及ばざりしこと是れなり。若し日本艦隊が其の著彈地點に在りたらんには、損害蓋し多大なりしに拘らず遙かなる水面に墜落して、一として効を奏せざりし物に命中し砲臺を破壞し、市街の建造物其他を爆發するなど彼此の戰技を對照し來らば、多の言を費す迄もなく威力の優劣自ら判然せん。要するに露國の敗北に陷ゐりしは、其の戰鬪力の薄弱なるにあらず、渠は渠が能よく丈の死力を盡くして應戰したるなれど、日本艦隊が渠より以上の威力を以て、渠と雌雄を決したるに依るなり。

英京倫敦デーリー、メール新聞は日英同盟の先見を自負して左の如く言へり、

日本艦隊の行動は、英國が日本人の眞價を認識するの先見を有せしを、世界に想起せしむるに足る故に、英國は當時歐洲大陸の某新聞が惡口せし如く、獼猴的人種と同盟したるに非ずして、勇敢にして沈毅なる文明國と同盟したるものなり。吾人は此の戰爭の結果をして歐洲社會に可及的動搖を及ぼさ

いるに努めざる可らず。

倫敦タイムス新聞は日露の交渉始末を是非して左の如く言へり

日本の公にせる精細明晰なる交渉始末を以て、是を露國の公にせる簡單曖昧にして、半ば陰蔽せる如き陳述と、對照するは、其差帶壞も當なるビイナン、ガゼット新聞は戰爭觀として左の如く言へり

英國人の見地より之を見れば、日露戰爭に伴ふ重大なる覬想は歐羅巴戰爭、否世界的戰爭の生することなさを保せざること即ち是なり。悲觀的ならざる諸大家も均く思惟して謂らく、世界的戰爭と云ふが如き無双の慘事必しも生せざることなし、斯の如き戰爭の生ずべき趨勢あるは、猶兩三月前に於ける日露戰爭の生ずべき趨勢ありしが如しと。佛國は頃者漸く繁榮を致し且つ英國との交誼熟したるを以て再び鮮血を以て國内を汎濫するは其躊躇する所なるべしと雖も、露佛兩國間に成立する密約の然らしむる所に依り、露國にして同時に一國以上の敵國に攻撃せらるゝ場合には、露國を援助せざるを得ざる處あり。日英條約の條規亦然り、露國は既往十數日間に一大打撃を受けたるを以て、最早累を英國に及ぼさんとする勇氣なしと思惟するは智者の事に非ず、露國は慓悍たる日本に敗らるゝの愚を演せんよりは、寧ろ決意一番英國を葛藤に羅致し、世界の覇國と勝敗を爭はんとするなる可し。即ち露國にして佛國及び和蘭の援助に依倚することを得ば、此擧に出でんとす、事態此の如きに至らば全

世界は現下の戰爭に依り利益を收めん、然るに現今の如く交戰國をして、日露兩國のみならしめんか

蓋が戰勝國たるも全世界は多少の損失を被らざるを得ざる可し。他國民他帝國は沈淪せり。然れども

米國要素をなせるアングロサクソン帝國は、世界の經綸する限り人類の爲平和を確保せん。概括優越

なるアングロサクソン帝國は、名義丈けは共和主義に非ざるも、其施政するや羅馬法王及び基督教理

を參酌し、遂に武より文を重んずるに至らしめん、世豈之に勝る黄金世界あらむや。

英國海軍サトジョン、オムマニー、ボブキンス大將の所見

露國の船艦及巡洋艦に對し、水雷攻撃を加へし事に關しては、日本の諸水雷艇が其根據地を距ること、

一千哩の懸地に突進せる壯擧は實するに餘りあり、其奏効又宜なりと云ふべし。之に反して露人が水

雷艇に於ける、敵の勢力及敵が必定之を利用して、襲撃を加ふべきことを熟知せしに不拘、防禦の地

位（其艦隊が投錨せしが如きは是なり）を取りしは至當の所置なりと云ふを得ず。抑も開戰の曉に於

て恪守すべき敎訓は、一切の變を盧りて克く之に備へ、又敵の實力を審にするに在り、而して余

の見る所を以てすれば、露人は兩ながら之を知らざりし者の如し。

此數節第一の不注意により、東海の制海權は遂に日人の掌裡に歸し、延て露國は戰爭の初期に於ける

凡ての艱苦を嘗むるに至れり。

英國海軍マン少將の所見

日人の行動は海軍戰術家の豫期せし所と、恰も符節を合するが如し、抑も旅順口附近の水路は決して容易に航海し得べき者に非ず、然るに日本海軍々令部は是を知悉せり。又水雷艇を以て敵艦隊に尾躡せんとするは能くすべきに非ず、思ふに露國艦隊は偵察巡洋艦によりて尾躡せられたりしなるべし。日人は極めて巧みに露艦の處在地を發見せしが如し。少將語を次て曰く「水雷の命中せしことは君の既に知る處なり、敵は旗艦を擊破し、一は最良の戰艦をして戰闘に堪へざる者となしめ、一は速力二十節の巡洋艦を廢物同樣に歸せしめたり」と、少將の言ふ所によれば、此計劃の細心熟慮を以て劃策せられ、而して神速且確實に遂行せられたる者と云はざるを得ず。

口を極めて賞讃し且つ曰く

日人は勇武の氣象に富み、又命令遂行する間は其往く處の何處なるや、其行ふ事の何事なるやに頓着することなす、日人は愛國の念厚く、又水火矢石を戞れず、從容として死地に就く、之れ水雷艇襲撃を決行する所以なり、日人は吾等英人と同じく「殉難報國は士の譽にして又樂なりとなす所なりしと」の古語を以て精神とす、又日艦は英國諸造船會社の製造に係り、英國造船家の設計せし所なり、日人は吾英人を師として砲戰幷に運用術を學び、即ち半は我海軍の實地に習ひ、半は直接教授によりて學びたる者なり。

英國海軍ヂエームス、イングルス少將の所見としてデーリーテレグラフに記載したるものは左の如し

日露戰爭の開始せらるゝ少時前、日人は自國の防備完全なる諸軍港内に安全に艦艇を繫留せんとする諸誘惑ありしに不拘斷然之れを排し遂に敵の前哨線を以て、味方の境界線となさんとするが如き、豪膽なる謀略を取りたり、是れ往昔、ヴアイキング及其繼承者の慣用せし所の者なり。（譯者註、ヴアイキングは第八世紀より第十一世紀に至る迄の間に於けるスカンヂネヴイヤの武將なり、ヴアイキングの中には名門右族より出征するや王號を冒すことあり。然れども本國内に一定の封土を管領せる者との區別を明にする爲め、ヴアイキング通常、海王と稱せられたり。彼等は歐洲殊に英吉利及ノルマンデーの海岸を侵略し。英吉利、愛蘭、シエットランド、アイスランド、ノルマンデー、西班牙及シレリー等に移民せりと云ふ）此謀略は嚴正に云へば攻勢的の者なりと雖ども、又「攻撃的守勢」の者として胛炙せられたる、最善の守勢的謀略なり。又我同盟國の博し得たる赫灼たる戰勝の詳報を見、吾人は日本海軍の基礎を置かんが爲め、吾等英人が往時盡瘁せしことの徒勞に歸せざりしを知る又今日の如き機會的時代に當り近世的戰爭を以て古代英雄豪傑の偉勳大業に比するは、始んど僭妄の譏を免れずと雖ども、日本は孤獨他の援助を仰かずして、敢て北方の巨人と對抗せし行動に至つては實にエリサベスの御宇に於て、吾が英國海軍の將士が强大なる西班牙皇帝を邀撃せし時の壯擧と、比肩するに足る者と云ふべし。昔はドレーク遊撃を行はんとするに望み、英王奏して曰く「此役や臣盟つて西王の鬚髯を焚燒せん」と今や英武なる東鄕大將も、亦皇帝に復奏して云ふことを得可し曰く

「臣既に露熊の柔毛を焚燒せり」と

英京倫敦にて發行の諸新聞は鴨綠江の戰爭を評論して左の如く言へり

タイムス新聞

戰爭を評論して曰く、日本陸軍はこの戰爭に於て特記すべき、完全の成功を博じたる事疑ふべからず日本は遽に海軍の成功を得たりと雖も、この成功はたゞ將に來らむとする、陸軍の成敗如何に關して緊切一般の注目を惹きたるに止まり、未だ以て、露國及其友人をして露軍本來の優勝を疑はしむるに至らざりしも、今や兩軍砲火の間に相見ゆるに及んで、日本兵は歐洲強敵の匹儔以上たる事を證明せり。又日軍安東縣を占領したる結果としてデーグイッドソン氏（露に安東縣駐在を命ぜられたる米國領事にして露國政府の異腦に依り未だその任地に就く能はざりし人なり）は多分その任地に向ひ出發するなるべしと云ひ、之を以て兩交戰國態度の異る所を卜するに足れりとし、日本軍の至る處には門口開放亦之に從ふと論せり、

スタレダード新聞

此戰勝の無形的効果は、其軍略上の價値よりも、一層多大なるべきを認むると同時に、又此の戰勝に重きを置くこと過大に失すべからず。

デーリー、テレグラフ新聞

日本は遽に其海軍國なるの地位を、充分に確定したると均しく、此戰勝に依て陸軍國としても一層強國

たるの地位を確立せり。

其他倫敦新聞の論調は

日本はその最親の友人と雖、、果して能く遂行し得やを危みたる事業を遂行したり、日本は陸上に於て露國と會戰して之を擊破する事、猶海上に於てせしが如く、依て以て一新生面を開きたるものと云ふべき偉功を奏せり。

タイムス新聞は我海軍の災厄に就て左の如く言へり

今回の災厄に殉したる壯雄なる軍人に對し、全世界の海軍國は深く同情を寄する處なれども、殊に我英國人に於ては我同盟國の受けたる此重大なる損失に對し、更に誠實なる痛悼を感せざるを得ず。此損失の重大なりしは勿論なりと雖も、然かも今や幸にして日本の制海權は全然確立せられ、又這般損失の爲めに痛く擾亂せらるゝの虞なきに至れり。今回の災厄は日本が現に籌劃しつゝある軍畧を、毫も變更するに足らざるものなり。

佛國ブチット、レビユブリック新聞及其他の新聞は海陸の戰爭に就て左の如く言へり

吾人は公私の報告に依りて日本驅逐隊が露國艦隊攻擊の際、最も便宜なる地位に在りしを知れり。該驅逐隊は二月八日其の將さに沒せんとする頃、芝罘を出で其艦隊を後援とし、靜穩なる海上六十海里（百十吉米）を迂回して旅順港外に來れり。故に日本艦隊には風波を冒して隊形を保つか如き困難なか

りき又た露國艦隊には許す可らざる失措あり、夜間碇泊する場所には必ず哨戒艦なかるべからず、又敵情を探るには密かに緩走せざるべからず、該艦隊は此等の點に注意せざるのみならず、旅順の燈臺及發光浮標は演習の際の如く、攻撃隊を嚮導し且つ當時觀戰者の談に依れば、露國は探海電燈は亦た目標の用をなせり。此好機を得たるが故に日本驅逐艦は往年威海衛に於て、清國艦隊を攻撃せる水雷艇が、海汀に乘上しが如き不幸を受けざりき。

戰報に依れば日本驅逐隊は少くも十八個の水雷を發射せしと思はるゝに、其成績の過少なりしは不思議と謂ふべし、此不成績は全く其調整の不良に歸せざるべからず。然れども損傷したる露艦は、乾船渠にて修理する間は戰鬪に參加する能はざるべし、露艦は如何なる損害を受けしや、其舷側に接して爆發したる水雷の艦底を破りて、數米突の破口を作れりや、造船家は瑯め此奇禍を防ぐが爲に、水線下非裝甲部を細かに區劃せり、是故に海戰に於ての被害區域は艦体の小部分に限られ、直ちに沈沒せずセザレヴイツチ及レトウヰザンの二隻は損傷を受けたる後、三時間を經て全く海汀に乘上げたり。

又曰く露國將校の怠慢不熟練及不統一と、日本將軍の大膽にして且つ細心なる軍略と、相對照して等しき懸隔あり

其他佛國の重なる新聞は陸戰に於ける日本の大勝に關し、孰れも之を以て日本陸軍の大奏功とし、其無形的影響の重大なることを認むると同時に、其實は未だ以て現戰爭最終の運命を左右するに足らずと說けり。

右の内或新聞紙は曰く、露軍の目的は唯攻撃的作戰を再始せんがため、中心地點に軍隊を集中すると同時に、退却の際可成多大の損害を日本軍に被らしむるに在りたるを以て、鴨綠江の委棄は露軍の自ら豫期せしところ也。

又或新聞紙は日本軍の鴨綠江口を攻撃し、露國砲兵隊より多數の速射砲を捕獲せるは、重大なる事實なりと云ひ、社會黨新聞紙は全然日本軍の成功を嘆賞し、露國陸軍の無能を唱破せり。

伊太利諸新聞の海陸評論

伊太利に於ては過日旅順口外に於ける露國の災厄に關し、盛に日本海軍の勇敢及技倆を稱讃せり。露國の損失に對しては同情を表すると共に、日本が既に海上に於て、露國を壓し爭ふべからざる優勢を制するに至りたるを認めたり。當初の間はベトロパウロウスク沈沒の原因不明なりしが、今や伊國新聞の多數は此災厄を以て、日本の計劃の結果なりとなせり。

トリビンナ新聞は曰く其原因は何れにありとするも結局露國の過失に外ならず、又冷笑して曰く露國の如く吾人文明の主義に背反したる專制國の戰敗に向つては、餘り同情を表するの要なし。

又曰く鴨綠江岸に守勢を執れる露軍の困難は、攻勢を執れる日本軍の困難の如く大ならざりしに拘はらず、露國が斯くの如き急速の全敗を招くべしとは、何人も豫知せざりし所なり。露軍が安東縣及其

附近の要地を委棄したるは、果してクロパトキン將軍の心算なる一般兵略と相副ふや否やの判定は、之を將來に讓るの外なし。

イルポポロ、ローマノ新聞は曰く斯の如く露國艦隊に取りて、續々災厄相踵ぐに於ては、其窮極する所測るべからざるものあり。

又曰く、露國陸戰に於て第一所の致命的敗衂に遭ひたりと雖、而かも吾人は未だ之れがために何等の速斷を下すべからず。

天主教徒の機關たるイタリー新聞は曰く、マカロフ提督既に亡し露國の希望茲に絶えたり、又曰く日本は又もや海上の優勢を制したり、其最終の勝利は愈多望となれり。

パトリヤ新聞は曰く露國が其災厄の原因を、自國の發動に歸して敵國の奏効を滅却せしめんと企つることは珍らしからず。而して果して自ら此災厄を招けるものとせば、偶〻以て其用意缺如して、旅順は方に混亂の卒たるを證するのみ。

春日日進の兩艦が戰闘に加はりたることは、伊國に於て大に同情を日本に寄するに與りて力あり。

又曰く安東縣の戰爭は、未だ以て滿洲に於ける戰爭の運命を決したるものと云ふに足らず。然れども五月一日の戰役は最も重要なる事實即ち露國の陸軍に於ける準備は、其海軍に於けると齊しく不完全なりし事を證明したり。軍略上の見地より之を觀れば、露軍の退却が日本軍に勝利を與へたるは疑ふべからざる也。

獨逸ベルリーナ、ターグブラット新聞は我海軍の公報を評論して左の如く言へり

東郷司令長官の公報によれば日本艦隊の成功は、歸着の諸報告を以て發表せられたるよりも更に偉大なるものなり。日本の水雷艇隊が旅順港外に於て水雷の沈設に由て成功したるの事實は、愈よ以て露國の海軍戰術上に於ける缺點を證明するに足れり。露國の旗艦は襲きに傳へられたるが如く自己の沈設水雷に係りたるには非ず、全く日本の沈設水雷に係り爆裂せるものと見る、露國艦隊は其旗艦及び司令長官を失なひたるが爲めに幾分か喪心せるが如き觀あり。又日本艦隊が敵の爲めに壓迫せられずして克く敵の沈設したる水雷を取除き得たるの事實は、之れ亦露國海軍の無能なるを表示して餘りあり。

獨逸アルゲマイネ、ツアイツング新聞は鴨綠江の戰爭を評論して左の如く言へり

日本陸戰の勝利は是れを輕小視すべからず、烏帝國の陸軍が歐洲國の陸軍と大戰場に於て對戰したるは實に今回を以て嚆矢とす、而して今や日本は血色斑々たる桂冠を以て其軍旗に光榮を加へたり。若し夫れ露人の所謂二倍の優勢に對しては、十分の防備を有せざりしこの辯疏の如きは實に謂れなきの言たるのみ、日本參謀本部は其用ひ得べきだけの兵力を特定地點に進め、優勢を以て敵を伐ち之に酷烈なる打撃を加ふるの能力を有したる也。總て戰爭に於て初陣の成敗は極めて重要の關係を有し、そ

の影響する所戰略上よりも精神上に於て遙かに大なりとす。鴨綠江の戰捷が日本は勿論韓、清兩國（日本に於けるよりも）に與ふべき感動は、普佛戰爭中ワイセンブルヒに於ける佛國敗軍の報道が獨逸に與へたる結果と相讓らざるべき也（中略）結論に曰く、軍事上の視點よりすれば該戰捷の軍略的利益は素より著大なりと雖、その精神的結果に至つては更に之れより重大なるものありて存す。

同國新聞ロカール、アンツアイガーほ左の如く論評せり

鴨綠江畔の戰鬪に就いて特に注目すべきは、海戰に於いて旣に斷然頭角を顯はしたる日本人が、陸戰に於ても亦熟練なる歐洲の軍隊に對抗し、其の第一回の交戰に於いて較者なる成功を收めたる事實及其の作戰の方法が、日本人の軍事的才能に對する歐洲列强の激賞を博したる事實是れ也。

クロパトキン將軍は各方面よりの危險次第に集注し來るを以て不安の地位に在り、此の危險を避くるには同將軍畢世の智慮と、其の麾下軍隊の勇敢とに俟たざるべからず。

又曰く露國は滿洲を把握し次で韓國をも掩有せんとし此欲望を遂げんとするに方り全黃色人種をして菊花章下に團結せしめんとする日本人の精力を輕視したること明なり

埃及に於ける佛字新聞アラファートは（旭日）と云へる題下に日本帝國の態度を左の如く論評せり、

勇敢にして自信に富める日出國々民を祝す。日本國は眞に勇猛名譽及び禮義の國土なり、凡そ世界の尤も勇氣ある人民すらも之に對して、恐懼措く處を知らざる巨大なる怪物の前に立ち泰然自若たる畏

縮せざるもの、獨り卿等日本人の在るあるのみ、土耳古人、アフガン人、及び自尊の念厚き洪牙利人すらも、海陸の大侵略者たるツアールのコサック兵に對しよく首を上ぐるものあることなし。佛人、獨人、伊人其他歐洲の全部も亦汲々として彼に事ふるの至らざるを慨るゝの有樣なり。嗚呼北方の不幸なる我敎徒は彼ツアールの痛擊に遇ひて其の活動を失なひ、今や坐して其の悲慘なる末路を俟つの一途あるのみ、凡そ露帝權力の及ぶ所、我敎徒常に之れを屈服せざるべからざるものと信ずるに至れり。嘗て我同胞がピーター大帝の野心に驅られ生命を犧牲に供したるもの、果して幾百萬ぞや、又マホメット開國以來露國の爲め氷雪を侵し、露國クリミヤ、セルビヤ、バルガリヤ、ボスニア、コーカサス、タルキスタン其他の諸國に離散し、彷徨したるもの果して幾何ぞや。而も歷史は香として彼等の嘗めたる幾多の辛酸不幸を語ることなし。

嗚呼威名赫々たる日出國皇帝よ、陛下の宏業輝た吾人をして追懷せしむるものあり、抑も國君民福を是れ念とし民亦君を見ること、只赤子の父母に於けるが如くなるは、理當さに然るべき所なりと云ふべきのみ。

米國紐育サン（太陽）新聞は我帝國に同情を寄せ日本軍隊の長征は危險なるもの〻如く婆心的に左の如く論評せり、

露國騎兵若干は北韓の地點鴨綠江の南方少なくとも百哩の邊に入り、歩兵の一個團之を後援するの公報

あり然るに吾人は次の斷定を爲すを得べし、即ち日本軍の據りて以て根據地となさんとする平壤より北進せんとする時には現下鴨綠江附近にありと稱せらるゝ露兵は、日本軍の優勢なるに辟易して退却せざるを得ざるべし。韓國統御は今回戰爭の一大目的なるが、半島帝國は日本の掌握に歸せん、但し其獨立は條約の確保する所なりと雖も、其地位埃及の現地位と同一樣なるべきは明白にして、京城に於ける韓帝はカイロに於ける代王（ケヂーブ）と同じく、依然として名義上の權力を行ふべしと雖も、實際は其保護者が韓帝の名義を以て統御に任ずべし。

日本は戰爭繼續により此外何物を得んことを欲する者ぞ、倘し日本にして海陸兩軍幷進して旅順及浦鹽斯德を包圍せば、數月を出でずして之等要砦を占領するを得るの望みあり。而して之を占領したる曉、日本制海權を掌握する限り之を保有するを得べし。日本前述の兩要砦及北韓に於ける軍事上重要なる地點を有せば、露國が哈爾賓又は貝加爾湖附近の給供根據地に大軍を集合したる後、日本に逆擊を加ふべきは期待し得べき事態なり。日本北軍隊を密集し努めて迅速に哈爾賓に挺進し、伏りて以て前述するが如き逆擊を見越すは日本の得策なりや如何。抑々哈爾賓の地たる旅順に至る鐵道、及び浦鹽斯德に至る鐵道の交叉する所に位し、旅順を距ること約四百哩なり、日本軍如斯遠隔の內地に入り敗北することありとせば、殆んど全軍の殲滅するなるべく、日本軍の奔て海岸に達するものは少數なるべし、之に反し露國哈爾賓に於て敗を取ることありとするも、單に行動の沮滯を來たすに過ぎず

彼露軍は貝加爾湖附近の新供給根據地に據り、更に兵力を聚合すべく、日本は哈爾賓の一時的占領の外何等の得る所なからん、蓋し經濟上及軍事上の理由により、日本は其軍隊を進軍の起點地たる、海岸に復歸せしむるの已むを得ざるものあるを以て、久しく哈爾賓を保持する能はざるなり。

故に曰く日本司令官にして細小深慮ならば、旅順及浦鹽斯德陷落後は、防勢的態度を把らざるべからず、日本にして現時の制海權を持續する限り、右兩港及韓海地峽に於て占むるを得べき、優强なる地位より押退せらるゝの虞なし、然るに日本にして海岸を距ること、數百哩なる哈爾賓に進軍せんか、供給根據地と戰地との接近に伴生する莫大なる利益を喪失し、竟にナポレオンの覆轍を履むに至らん、蓋し日本軍例令哈爾賓を占領するも、到底久しく茲に止まること能はざるなり。

偉大なる露國を一大戰を以て屈服せんとするは不可能の事なり、然れども日本の如く軍港に據り、完全なる制海權を有する敵國に對し、露國は根據地を距ること數千哩の地に於て、攻擊的動作を維持せんことを勞むる爲め、財政上及物質上疲憊せられるゝに至り、一旦日本の掌握に歸したる旅順及浦鹽斯德を取戻すこと能はざるべく、韓國に侵入して成功することも覺束なきに至らん。

日本司令官は戰史の敎訓を重んずべきや否やは、乞ふ之を後日に徵せん。要するに日本司令官にして敵國の國力及其の孱拗固着の資性を、輕視する時は失敗を招くことあらん。

漢字申報は日露交戰の形勢を論述したる末旅順急擊の日本に利あることを說て曰く

(一)日本は此際に於て速に旅順を攻むべし、蓋し馬下洛夫は露國の名將にして、世界各國之を知らざるものなく、今既に戰沒したれば、其後任者は實に其人を得難からん、假令適任者ありとするも、道途遼遠、急速に赴任する能はず、阿列克息夫は豎子のみ、前に已に日本に敗られたり、此數敗を重ねたる今日何ぞ能く日本軍に敵し得んや。

(二)露國の東洋艦隊は元來未だ充實し居らざりしなり、其常に守勢を取りて日本と戰ふことを避けたるものは其證にあらずや。然るに毎度の戰に艦艇の損傷少からざれば其勢益す支ふべからず、加之馬下洛夫戰沒したれば其士氣の沮喪したるは知るに難からず、之れ乘ずべきの機也。

(三)旅順は露國が全力を注ぎ、以て防守を嚴にするの所なれば、容易に陷落すべからざるも、其他の營口若くは浦港の如き、攻むべからざるの地にあらず、日本が一支隊を派して之を擾さば、露國は旅順さへ守るに困難し居れば、十分の防禦をなす能はざるべし。且つ其海軍の全力を集中するの所に於てさへ、日本に抗する能はざれば其他の所は推して知るべし、營口若しくは浦港を失はゞ露は艘を失ふと同じく、旅順は必ず支ふる能はざるに至らん、これ乘ずべきの時なり。

吾人は曾て論じたり、曰く、日本は速戰に利あり、露人は時日を遷延するを利とすと、何となれば露國道途遼遠なれば其軍隊輸送に多大の時日を要し、日本は貧國なれば軍資の缺乏を恐るればなり、況や馬下洛夫の戰沒は日人に速戰の機會を與へたるに於てをや、日本の軍人中には固より此意見を抱く

ものあり故に吾人は數日を出すして一大戰鬪のあるべきを知れり。

北清日報は日露交戰の終局を豫測して日本の大勝利を希望し左の如く論せり

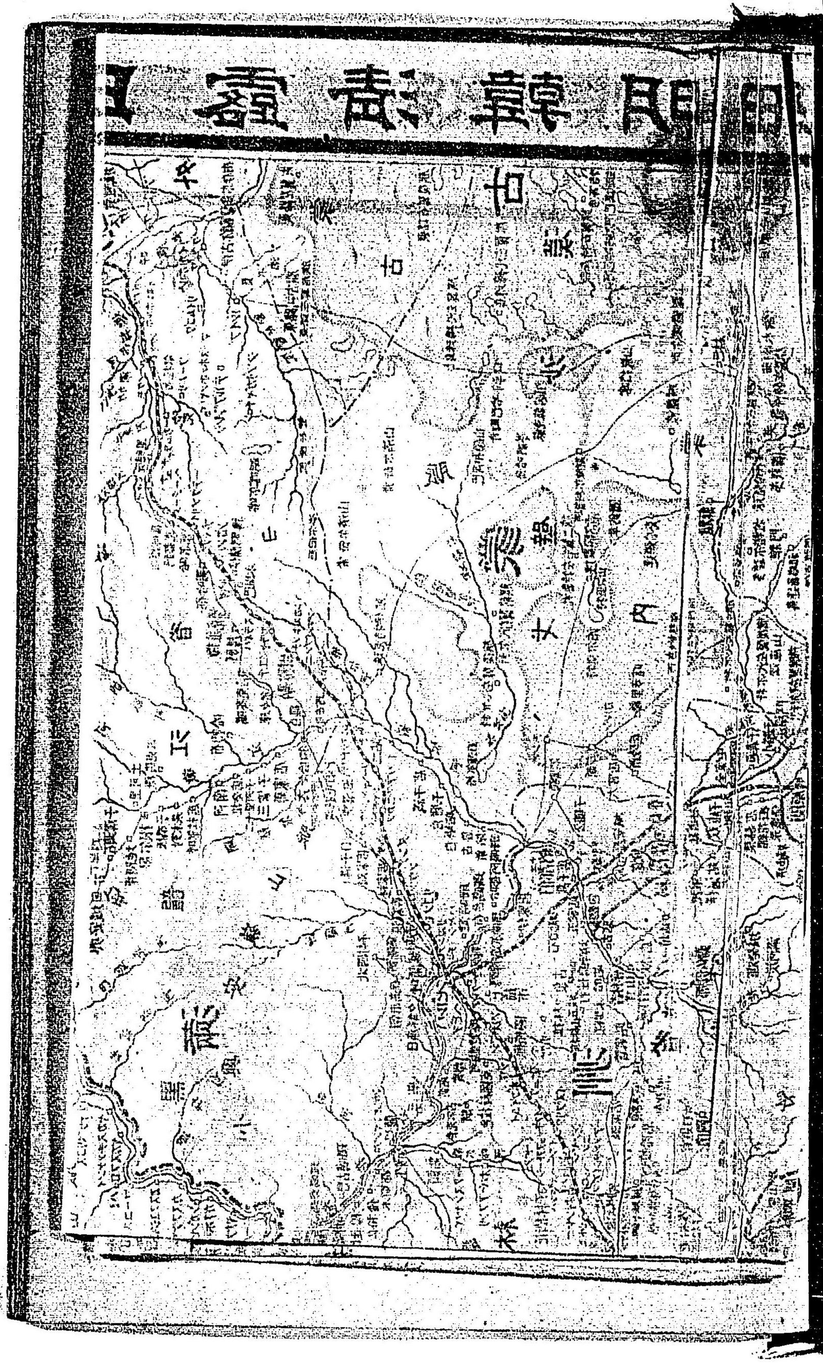
日露戰爭が如何にして結局を告げ如何なる結果を生ずべきやは、今日之れを講究するは頗る早計に失するが如しと雖も、其の結局の如何を考察する時は、此慘劇の成行を注視するに於て、一層の興味を加ふべし、但時局の變轉に由り或は吾人の豫期する所と、背馳するの現象を呈するに至るやも亦知るべからず、且夫吾人の熟知せる事實あると同時に、吾人の未だ詳悉せざる所のものも亦必ず多からむ。而して其熟知せざりし事實が却て結局の結果を、左右するの素因たることも或は之あらむ。日本國は客年八月三日を以て其要求する提案を明定し、爾來終始一貫未だ曾て渝はる所なきが故に、吾人は其何が爲に戰鬪しつゝあるかを確認するを得、往年露、佛、獨三國の强制に依り、滿洲に於ける其占領を放擲するの止むなきに至りし以來、日本國は常に還般奚戰の必要を豫想し、之を目標として其艦艟を製造し、其軍貔を鍛練し、一切の戰時需用品を蓄積し、其戰場たるへき滿洲の全部を測量し、其戰役地圖は實に世界最良のものたるの事實は吾人能く之を知る、其陸海軍の士官として支那人に假裝し、其何地たるを問はず、苟も露人の在る所に潛行し、卑賤の力役をも辭せすして、露國の探檢員を追躡せしめたるの事實も亦吾人の知る所なり、一言以て之を掩へば日本國は其必要と認むる諸點を判定して、之に應ずるの準備を盡したるのみならず、其陸海軍の各員は能く其戰ふべき敵を詳にし、且其

戰ふ所以を知るものなり、其日本國の利たるや大なりと謂ふべし。之れを要するに日本軍人は其國家存立の爲めに戰ふものなりと雖も、露國軍人は其何が爲めに戰ふかを知らず。從し之を知りたりとて其目的に對し、同情を寄するものにあらざるなり。

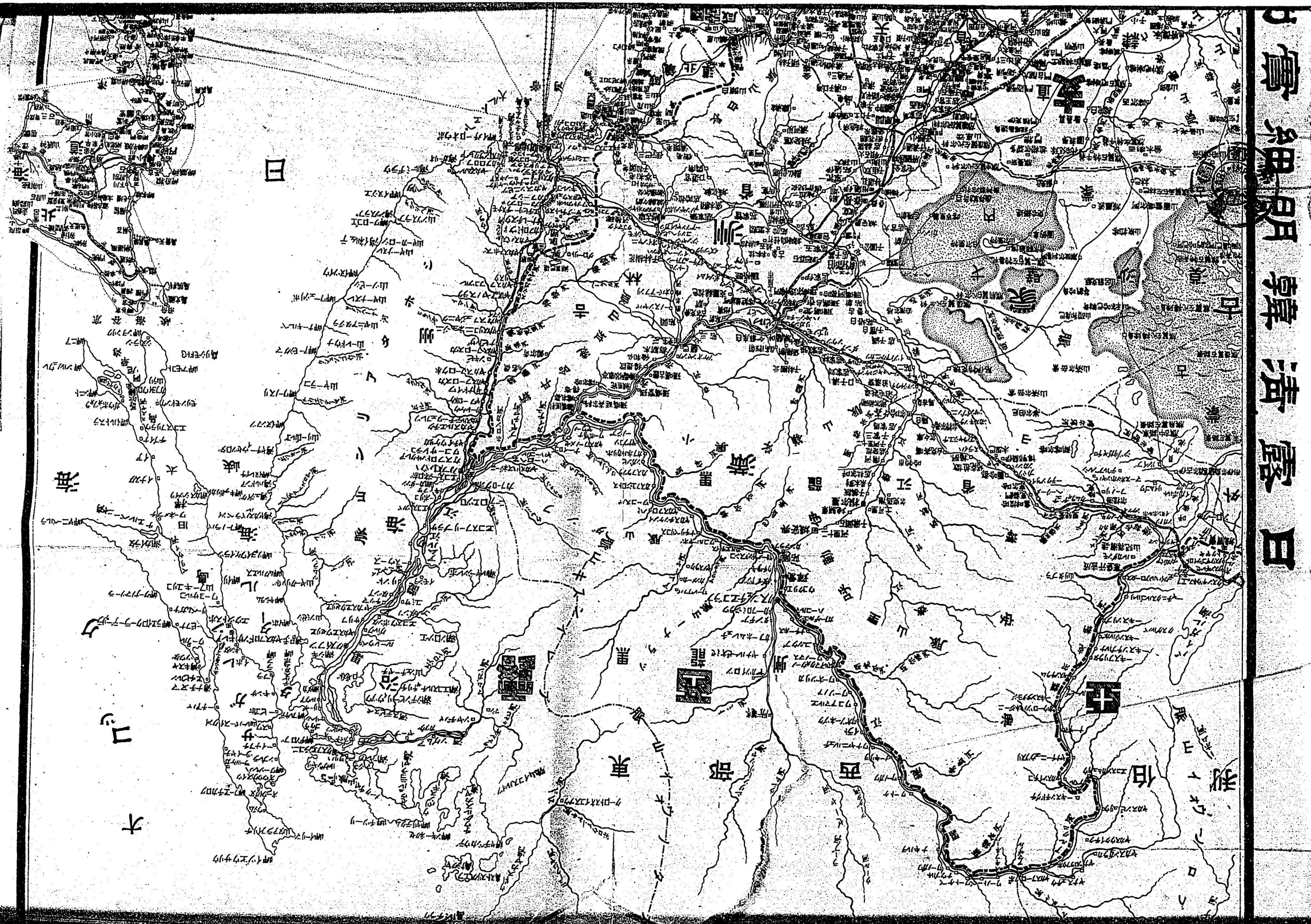
吾人は日本國を以て其海上に於けるが如く、陸地に於ても亦同樣の戰功を奏するものと假定するを得べし其韓國に於ける戰略の如きは巧みに特派通信員の探知を防ぎ、秘密の間着々之を決行し、陣外瑣末の作戰ありたるの外、一度も決戰を須ひずして露人を韓國より驅除したるの奇功に至ては、殆んど何人も想像し能はざりし所に屬す。蓋し其戰備の周到にして、兵力の多寡を裁量するの明確なる、遂に露人をして日本軍の北進するに先だち、忽ち抗戰の好機をも抛ちて退却するの已むなきに至らしめたり。日本國は開戰後今日に至る數ケ月間、未だ嘗て其陸軍の將校を變更したることなければ、軍略を企劃したる人物自ら其實踐の任に當り居れるものと謂ふべし。

想ふに日本國の期する所は、滿洲より露人を攘斥するに在るべく、而して他國が露國を援助せざる限りは其成功せざるの理なきが如し、日本國にして露人を一掃せば、必らず滿洲を清國に還附すべしと雖も之と同時に清國を扶援して、滿洲の施政且防備を完成し、將來露國をして黑龍江に蟄伏せしむるの策を執るならむ。且又た現行の慣例に由り戰勝者の宜しく收むべき賠償として、滿洲鐵道の讓與を要求すべしと雖も、千八百七十一年獨逸が佛國に對して要求したる所より以上の要求を爲すことなかるべし尤も黑龍江以東一帶の西比利亞地方並に薩哈嗹島の讓與を求むることもあらん歟、後者は嘗て日本國に附屬したるの土地なれば、其回收を望むも亦無理ならずと云ふべし。但浦鹽に至りては假令は戰爭中日本軍の手に落ちたりとするも、永久に之を占領せんとするは政治上より視て策の得たるものにあらざるが如し。

斯くして日本國若し全勝を博せば東京は極東に於ける政治上の中心たるべく、日本國は其東部亞細亞防衛の盟主たらんとする宿志を達するに至るべし。然れども此同盟を誇張して、泰西世界に對する黃色禍たるべきものと認むるは失當なり。日本國の欲望は東洋國たるにあらずして、西洋國たらんとするに在ればなり、假りに黃色禍の危險ありとするも、茲に撰擇せざるべからざるものあり、露國が日本國を征服するの結果、其手に歸すべき清國の大邦を掩有するも、將た日本國が露國を歐洲に控へて清帝國を左右するも、其何れか一層怖るべきや是れなり。理非問題を別にし吾人は世界全般の爲めに計りて、日本國の戰勝を以て利なりとすべし。其成功は一面に於て清國の復活と改革とを意味し、他方に於ては清國の門戶を開放して各國民の通商に資し以て、露國の邦土侵略の渦望を防止するを得べければなり、之に反し日本國にして失敗する時は、亞細亞の併呑を遮障せんと努むるものは獨り英國あるに止まるべきのみならず、奈翁の豫言せるが如く歐洲も亦露人の掌握に落つるの嘆なしとせず。

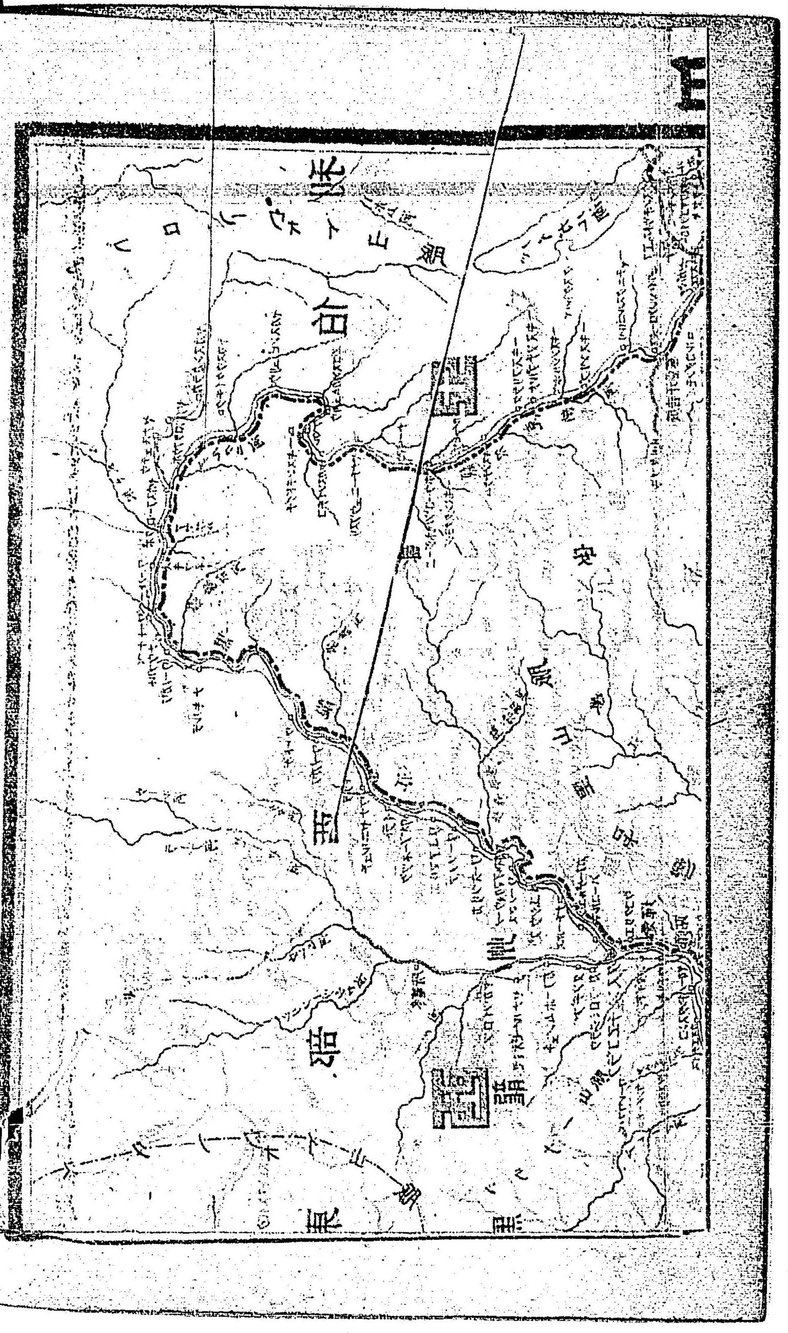


此他諸外國に於ける日露交戰觀、評論幾多ありと雖ども、同情は悉く我日本帝國に湊り。我皇軍の勇猛に對し、其辭、慇懃、讃評、激賞、至らざるなく。然れど枚擧すること紙數の容さゞる所、由て之を此に遏む。


日本海
朝鮮
黒龍江省
吉林省
遼寧省
内蒙古
河北
山東
江蘇
安徽
湖北
河南
山西
陝西
甘粛
寧夏
青海
新疆
チベット
雲南
四川
貴州
広西
広東
福建
江西
湖南
台湾
海南島
南シナ海
東シナ海
フィリピン
ベトナム
ラオス
ミャンマー
インド
ネパール
ブータン
バングラデシュ
パキスタン
アフガニスタン
タジキスタン
キルギス
カザフスタン
ロシア
モンゴル
北京
天津
上海
重慶
香港
マカオ
ウルムチ
ラサ
ハルビン
長春
瀋陽
大連
青島
南京
武漢
広州
深圳
昆明
成都
西安
蘭州
西寧
銀川
呼和浩特
石家荘
済南
鄭州
合肥
南昌
長沙
貴陽
南寧
福州
台北
海口
三亜
ウランバートル
平壌
ソウル
釜山
東京
大阪
名古屋
札幌
福岡
仙台
広島
横浜
神戸
京都
千葉
埼玉
静岡
新潟
金沢
富山
岡山
熊本
鹿児島
那覇
沖縄
ピョンヤン
ハノイ
ホーチミン
ビエンチャン
プノンペン
バンコク
ヤンゴン
ニューデリー
カトマンズ
ダッカ
イスラマバード
カブール
タシケント
ビシュケク
ドゥシャンベ
アスタナ
モスクワ
ウランバートル
台湾海峡
東部戦区
西部戦区
北部戦区
南部戦区
中部戦区
ロケット軍
戦略支援部隊
統合参謀部
中央軍事委員会
中国人民解放軍
中国軍事力
中国軍事基地
中国軍事施設
中国軍事演習
中国軍事拡張
中国軍事脅威
中国軍事戦略
中国軍事ドクトリン
中国軍事近代化
中国軍事予算
中国軍事装備
中国軍事技術
中国軍事衛星
中国軍事通信
中国軍事指揮
中国軍事訓練
中国軍事作戦
中国軍事能力
中国軍事情報
中国軍事偵察
中国軍事監視
中国軍事攻撃
中国軍事防衛
中国軍事同盟
中国軍事協力
中国軍事交流
中国軍事外交
中国軍事政策
中国軍事白書
中国軍事報告
中国軍事分析
中国軍事評価
中国軍事脅威論
中国軍事拡張論
中国軍事封じ込め
中国軍事抑止
中国軍事対抗
中国軍事競争
中国軍事バランス
中国軍事優位
中国軍事劣位
中国軍事格差
中国軍事ギャップ
中国軍事ミサイル
中国軍事核
中国軍事宇宙
中国軍事サイバー
中国軍事電子戦
中国軍事無人機
中国軍事ステルス
中国軍事空母
中国軍事潜水艦
中国軍事駆逐艦
中国軍事フリゲート
中国軍事揚陸艦
中国軍事輸送機
中国軍事戦闘機
中国軍事爆撃機
中国軍事偵察機
中国軍事早期警戒機
中国軍事空中給油機
中国軍事ヘリコプター
中国軍事戦車
中国軍事装甲車
中国軍事砲兵
中国軍事ロケット
中国軍事ミサイル
中国軍事防空
中国軍事対艦
中国軍事対地
中国軍事対潜
中国軍事対空
中国軍事対ミサイル
中国軍事対衛星
中国軍事対サイバー
中国軍事対電子戦
中国軍事対無人機
中国軍事対ステルス
中国軍事対空母
中国軍事対潜水艦
中国軍事対駆逐艦
中国軍事対フリゲート
中国軍事対揚陸艦
中国軍事対輸送機
中国軍事対戦闘機
中国軍事対爆撃機
中国軍事対偵察機
中国軍事対早期警戒機
中国軍事対空中給油機
中国軍事対ヘリコプター
中国軍事対戦車
中国軍事対装甲車
中国軍事対砲兵
中国軍事対ロケット
中国軍事対ミサイル
中国軍事対防空
中国軍事対艦
中国軍事対地
中国軍事対潜
中国軍事対空

詳細實測新地圖

日本海
朝鮮海峽
黃海
渤海
遼東灣
太平洋
直隸
山東
江蘇
安徽
朝鮮
日本
九州
四國
中圖記号
國都
都市
要地
港灣
國界
州界
道界
鐵道
航路



義勇獻納者芳名錄

◎東京府（市部）

日本橋區

○金百圓　通り町十八番地　電汲花二二〇二　本多庄七君
○金二百圓　大傳馬町一丁目四番地　電汲花五四二　石崎藤助君
○金二百圓　宮澤町九番地呉服店　電汲花五四二　大橋三藤八君
○金三百圓　長谷川町四番地和洋織物商　電汲花二一八〇　坂本金之助君　外四名
○金二百圓　通り鞘町八番地輸出商　電汲花二一〇五　小林善兵衛君
○金五十圓　蠣殻町二丁目二番地　電汲花二七三　宮田東平君
○金二百圓　新大坂町十番地　電汲花一四二五　齋藤嘉吉君
○金二十圓　蠣殻町二丁目十四番地　電汲花二一盆　村上勝藏君
○金二十圓　通り二丁目十六番地　岡田清三郎君
▲金百圓　蠣殻町一丁目一番地　山田甲子次郎君
○金百圓　若松町十六番地　電汲花九〇八　犬塚榮助君
○金百圓　濱町三丁目一番地　奥村竹藏君
○金五百圓　小傳馬町二丁目十六番地　電汲花四五二　森田宇兵衛君
▲金五十圓　蠣殻町一丁目二番地　電汲花二一四九　有松尚龍君
○金百十三圓　同上惣代ニテ　右同君
○金千圓　本町二丁目十九番地　電本一一三一六　龜澤半次郎君
○金五十圓　小網町四丁目九番地　電汲花一九三八　宮田佐助君
○金十五圓　本材木町一丁目十九番地　電本九二三　白石太一郎君
○金二十圓　堀江町四丁目一番地　電汲花二五五五　松本長兵衛君
○金五十圓　小網町二丁目八番地　前橋久七君
○金三十圓　北島町一丁目廿八番地　兒安新兵衛君
○金百圓　青物町十九番地　電本局一三九八　西川喜八君
○金五十圓　横山町二丁目三番地　電代　佐藤伊右衛門君　金井五郎兵衛君
○金五十圓　通旅籠町一番地　濱田定八君

○金五　千　圓　兜町東京株式取引所理事電浪特五五　中野武營君
▲金一　萬　圓　同町二番地株式取引所仲買人電浪宝　松村辰次郎君
▲金一　千　圓　本町四丁目廿一番地坂屋電本一、毛五　河合佐兵衛君
▲金二　千　圓　本町三丁目鰯屋調電本局七五一　松本市左衛門君
○金二　十　圓　小傳馬上町　竹内ツタ君
○金二　十　圓　同　上　竹内喜美君
○金二　十　圓　同　上　竹内松治郎君
○金　十　圓　同　上　竹内榮之助君
○金五　十　圓　小傳馬上町二番地　齋藤卯三郎君
○金　十　圓　同　上　齋藤たけ君
○金四　十　圓　同　上　梶アイ君　梶タミ君
○金　十　圓　同　上　梶キネ君
○金　十　圓　米澤町一丁目二番地　伊東信次郎君
▲金三　千　圓　兜町四番地電浪花五四　福島浪藏君
○金五　百　圓　小傳馬町三丁目二番地中村屋電浪花二、一〇九　東京幡ヶ谷畑工谷惣代　北條寅吉君
○金百　圓　久松町四十七番地　池谷榮次郎君
○金二　百　圓　通り旅籠町八番地電浪花七三六　鶴岡庄七君
○金百廿五　圓　室町一丁目五番地親交會總代　澤彌兵衛君
○金廿　二　圓　同町一丁目背中合總代　中村清太郎君
○金廿　圓　日所町二丁目五番地　塚田由藏君
○金千　圓　本石町四丁目九番地　西島忠次郎君
▲金百　圓　地川越屋號電本局八〇五
○金五　百　圓　通り國町九番地　澁谷正吉君
○金百　圓　坂本町十二番地株式仲買人　野本貞次郎君
▲金百　圓　電浪花六三三　牧戸禎二郎君
○金十　圓　蠣殼町二丁目一番地
○金三　十　圓　本石町十軒店四番地田月堂電浪宝六　小菅金三郎君
○金五　十　圓　蠣殼町三丁目十二番地　久保順太郎君
○金廿　五　圓　大傳馬町二丁目廿五番地杷伊國屋電浪九三二　椎橋德次郎君
○金廿　五　圓　鐵砲町七番地杷伊國屋電浪一、三四九　野崎榮藏君
○金五　十　圓　室町一丁目五番地山形屋電本一〇五九　窪田利七君
○金百　圓　日所町七番地電浪二、〇〇三　井川榮吉君

○金十　五　圓　大傳馬町二丁目十四番地電浪一、四二〇　西川常八君
○金五　十　圓　本石町二丁目三番地酒屋電本二、六三〇　寺尾治郎兵衛君
○金十　圓　横山町二丁目十七番地　宮崎元吉君
○金十　圓　同一丁目十三番地電浪二、〇四一　杉谷庄右衛門君
○金十　圓　同町二丁目三番地播伊商店電浪壹三　佐藤伊右衛門君
○金十　圓　同町一丁目十九番地　松本源藏君
○金十　圓　橋町三丁目九番地電浪七三八　植村兼二郎君
○金十　五　圓　同町四丁目六番地電浪二二五一　川口與兵衛君
○金五百十四　圓　同上袋物賣具商總代　右同君
○金十　圓　同上四丁目十七番地　中村新十郎君
○金十　圓　同上五番地　美濃部禮助君
○金十　圓　村松町三十番地電浪二、九七〇　高柳藤次郎君
○金七　十　圓　米澤町一丁目十一番地　玉木長吉君
○金十　圓　若松町十六番地　井戸文八君
○金十　圓　瀨戸物町七番地電本二、六三二　黒田市之助君

○金十　五　圓　瀨戸物町四番地桂屋電本四八二　松村福松君
○金十　圓　同町六番地　金井仙太郎君
●金三　萬　圓　同町七番地電本局二一二　古河潤吉君
●金五　千　圓　蠣殼町二丁目十二番地電浪壹一〇一　日比谷平左衛門君
○金十　圓　伊勢町十三番地　飯田福二郎君
○金十　圓　同町米川河岸三十二號電本一五六五　中島伴藏君
○金十　圓　同町十一番地　小西喜兵衛君
○金三　百　圓　蠣殼町一丁目二番地米澁取所仲買人電浪六五九　谷崎久兵衛君
○金三　百　圓　同　上　吉田定七君
○金三　百　圓　同電本一、〇〇九　吉野甚三郎君
○金三　百　圓　同電浪三七二　夕岩田定吉君
○金三　百　圓　同電浪特三八四　まつ藤崎三郎君
○金三　百　圓　同電浪四四九　㊦畑中傳兵衛君
○金三　百　圓　同電浪三二六　△居初富三郎君
○金三　百　圓　同電浪六六六　六大澤幸二郎君

○金三百圓　蠣殼町一丁目二番地米穀商取引所仲買人電浪三二八　㊀八富安平君
○金三百圓　同電浪四九〇　上　◎日暮市郎右門君
○金三百圓　同電浪一、〇一七　上　北川北德三郎君
○金三百圓　同電浪六六二　上　土井勝治郎君
○金三百圓　同電浪七六一　上　△平井增藏君
○金三百圓　同電浪一、六五八　上　一田村市三郎君
○金三百圓　同電浪一四三　上　(小)小林勇次郎君
○金二百圓　同電浪六三一　上　下汐淺岩吉君
○金三百圓　同電浪六三六　上　◆須永安太郎君
○金三百圓　同電浪二七五　上　澤角谷貞之助君
○金三百圓　同電浪五三　上　イ松村辰次郎君
○金三百圓　同一丁目二番地同上電浪八〇五　合川口佐一郎君
○金三百圓　同電浪一、三五三　上　(正)松谷正太郎君
○金二百圓　同電浪四一　上　ヲ中村元七君
○金二百圓　同電浪三六七　上　(力)古見嘉三郎君

○金二百圓　蠣殼町一丁目二番地米穀商取引所仲買人電浪二三一　八相部十二八君
○金二百圓　同電浪一、一二六　上　有有馬與四郎君
○金二百圓　同電浪二、四七九　上　三有松尙龍君
○金二百圓　同電浪七〇四　上　高石井捨三郎君
○金百五十圓　同　上　よ澤田米藏君
○金百五十圓　同電浪六八四　上　(ふ)五十嵐芳之助君
○金百五十圓　同電浪三五五　上　(十)稻垣彌三郎君
○金百五十圓　同電浪九六四　上　千鳥井源次郎君
○金百五十圓　同電浪二、〇四〇　上　ク近藤長四郎君
○金百五十圓　同電浪八七三　上　イ江原平藏君
○金百五十圓　同電浪一、一一八　上　中中原金三郎君
○金百五十圓　同電浪六四〇　上　守小木曾龜次郎君
○金百五十圓　同　上　本高野龜次郎君
○金百　同電浪一八七　上　二竹原雄之助君
○金百　同電浪一、二八五　上　㊁蘆田寬三郎君
○金百　同電浪一、五一〇　上

○金百圓　蠣殼町一丁目三番地米穀取引所仲買人電浪三九〇　十奧田重太郎君
○金百圓　同　上　(イ)岩岡新次郎君
○金百圓　同電浪一、一〇一　上　金鈴木周四郎君
○金百圓　同電浪五五五　上　七溝口善吉君
○金百圓　同電浪一、四九七　上　象增田貫一君
○金百圓　同電浪三、五九〇　上　兜町三番地株式取引所仲買人電浪一、八八一　小池國三君
▲金三千圓　新大坂町三番地信濃屋電浪二、六九　辰己長助君
○金弐十圓　室町二丁目五番地電本二六一　山本德次郎君
○金五十圓　坂本町今井商店員　大町政二郎君
○金弐百四十五圓　蠣殼町一丁目四番地商品仲買人委員長電浪一、六一八　北澤半四郎君
○金百圓　同所仲買人電浪一、三一　小黑田武平君
○金百圓　堀江町一丁目六番地商品取引所仲買人電浪二、〇〇一　分西村覺藏君
○金百圓　蠣殼町一丁目四番地同上　河野八十八君
○金百圓　同電浪一、六四四　上　平井常吉君
○金百圓　同電浪二、五八九　上　(八)岩崎八藏君
○金百圓　同電浪一二七　上　正成川正三郎君

○金百圓　蠣殼町一丁目四番地商品取引所仲買人電浪二、九九一　菅田武平君
○金百圓　ハンカチーフ百打　蠣殼町三丁目十二番地同上電浪二、二〇三　○安田萬之助君
○金百圓　蠣殼町一丁目四番地同上電浪六二七　木村新藏君
○金百圓　同　電浪二、〇〇七　上　石井菊次郎君
○金百圓　同上二番地同上　澤越賀長之助君
○金七十五圓　同町四番地同上　電浪四八　五井上藤太郎君
○金七十五圓　同　電浪二、八二八　上　掛川森之助君
○金七十五圓　同　電浪二、八二八　上　(カ)金井貞憲君
○金七十五圓　同　電浪一、二〇一　上　中野廣吉君
○金五十圓　同　電浪一、四一一　上　南枝誠之祐君
○金五十圓　同　上　中村吉次君
○金五十圓　同　上　石中村新太郎君
○金五十圓　兜町　電下二、三五〇　安澤安之助君
○金五十圓　同　電浪二、四九一　上　石井捨三郎君
○金五十圓　蠣殼町一丁目四番地電浪三、四五五　口小野澤梅吉君

○金五十圓　蠣殼町一丁目四番地商品取引所仲買人電浪一、一九〇　下奥田重太郎君
○金五十圓　同町二番地同上　電浪一、〇九五　△平井增藏君
○金五十圓　同　電浪六三六　上　須永安太郎君
○金五十圓　同　上　石川惣吉君
○金五圓　横山町一丁目七番地　川口彌三郎君
○金十圓　通鹽町八番地近德商店電浪三、三三三　持田德兵衛君
○金十圓　通鹽町二番地美濃屋電浪二、五八七　神谷多吉君
○金十圓　同町八番地　木津常吉君
○金十圓　同町十六番地　谷村伊右衛門君
○金十圓　横山町八番地　琵野鐵二郎君
○金十圓　同町十八番地　坪野五郎吉君
○金十圓　藥研堀町一番地　鈴木國藏君
○金十圓　横山町一丁目十番地電浪一、四二六　阿部フサ君
○金十圓　馬喰町四丁目一番地　水野源八君
○金十圓　同町二丁目一番地　中村重之助君

○金十圓　同町二丁目二番地　栗谷利兵衛君
○金十圓　堀留町一丁目五番地　伊達忠七君
○金十圓　藥研堀町五十番地　金澤金次郎君
○金十圓　同町一番地　電浪一、九一七　岩崎彌五郎君
○金貳十圓　本石町三丁目七番地　高橋熊二郎君
●金三千圓　▲金一萬圓　債券百部　本石町三丁目九番地博文館電本三〇三　大橋新太郎君
○金十圓　同町一丁目十五番地　平野助太郎君
○金十五圓　新和泉町二番地　大須賀林兵衛君　大須賀濱五郎君
○金十圓　通鹽町十五番地　佐藤政二郎君
○金二十圓　本船町十七番地　辻三吉君
○金二十圓　同町十五番地　西田半七君
○金八十圓　同町十七番地　電本五五四　脇坂甚兵衛君
○金五十圓　同上　電本二、六〇二　山崎彌兵衛君
○金十圓　通油町十七番地　下田嘉右衛門君
○金百圓　元四日市町一番地　電本三、一三六　松井重右衛門君

○金十圓　本石町三丁目六番地　野田與兵衛君
○金十圓　同町一丁目十番地　岩佐善平君
○金廿八圓　鐵砲町廿一番地　田中半兵衛君　田中末吉君
○金十圓　榑正町十四番地　谷口文次郎君
○金十圓　北島町一丁目四番地　桂田與三郎君
○金十五圓　堀江町四丁目四番地　伊藤猶吉君
○金十圓　室町一丁目一番地　山崎晉吉君
○金十圓　本船町十九番地　稻葉源二郎君
○金廿圓　同町十七番地　脇坂梅太郎君
○金三千圓　堀留町三丁目八番地電浪二、九二　前川太郎兵衛君
○金三十圓　元四日市町七番地　安達乘吉君
○金廿五圓　本石町二丁目十番地　中島清兵衛君
●金千圓　○金一萬圓　元濱町八番地　電下九五一　菊池長四郎君
▲金千圓　長谷川町十番地　電浪一、六二五　山本元三郎君
○金千圓　●金千圓　▲金三百圓　大傳馬町一丁目十三番地電浪四二九　長井利右衛門君

○金五百圓　佳辰町八番地　電浪六六〇　小川專助君
○金二百圓　木材木町一丁目一番地株式仲買人　玉塚榮次郎君
○金千五百圓　電本四七七　同町一丁目十四番地東京諸問下駄問屋組合總代　稻延利兵衛君
○金九百七十五圓　新大坂町十番地　電浪一四二五　石橋與市君
○手拭一千本　金千五百　金五十　齋藤嘉吉君
○金十　若松町一番地　佐藤藤太郎君
○金十　藥研堀町四番地　熊谷卯八君
○金十　若松町十五番地　熊谷大次郎君
○金十　室町一丁目一番地　中村市太郎君
○金二十圓　品川町裏川岸一番地　電本三〇一四　青木惣吉君
○金五十圓　堀江町三丁目八番地　棉花物問屋　電浪八九〇　木本兵助君
○金五十圓　本船町十六番地　電本二六〇七　脇坂宗助君
○金二十圓　小舟町二丁目一番地　電浪二、九六二　井上伊兵衛君
○金十圓　橘町三丁目八番地　富田鐵五郎君
○金十圓　通油町十一番地　小林藤兵衛君
○金十圓　横山町一丁目十八番地　永岡武兵衛君
○金十圓　同町二丁目四番地　植松彦三君
○金十圓　同町二丁目一番地　宮崎新三郎君
○金四十圓　室町一丁目六番地　電本一一五九　植山巳之助君
○金八十圓　魚川岸六十一號　電本二四九　高崎友七君
○金十五、圓　室町一丁目四番地　加藤鐵彌君
○金十圓　小舟町三丁目三番地　奥村治平君
○金廿五圓　四日市町十番地　岩本文三郎君
○金五十圓　室町二丁目一番地　電本八二三　高見澤宗吉君
○金五十圓　品川町裏川岸一號　電本一、四四八　大瀧善吉君
○金三十圓　瀬戸物町　問店　高津金之助君　友組會代表者　今木勝藏君
○金百五十圓　小舟町二丁目十一番地　石原萬助君
○金百圓　同町三丁目四番地　電浪一、六五〇　澁谷仙之助君
○金八十五圓　本船町十五番地　電本三〇一五　橫澤清助君
○金六十圓　小舟町二丁目五番地　電浪一六七　粮山半三郎君
○金五百圓　佳辰町八番地　電浪六六〇　小川專助君
○金二百圓　木材木町一丁目一番地株式仲買人　玉塚榮次郎君
○金千五百圓　電本四七七　同町一丁目十四番地東京諸問下駄問屋組合總代　稻延利兵衛君
○金九百七十五圓　新大坂町十番地　電浪一四二五　石橋與市君
○手拭一千本　金千五百　金五十　齋藤嘉吉君
○金十　若松町一番地　佐藤藤太郎君
○金十　藥研堀町四番地　熊谷卯八君
○金十　若松町十五番地　熊谷大次郎君
○金十　室町一丁目一番地　中村市太郎君
○金二十圓　品川町裏川岸一番地　電本三〇一四　青木惣吉君
○金五十圓　堀江町三丁目八番地　棉花物問屋　電浪八九〇　木本兵助君
○金五十圓　本船町十六番地　電本二六〇七　脇坂宗助君
○金二十圓　小舟町二丁目一番地　電本二、九六二　井上伊兵衛君
○金十圓　橘町三丁目八番地　富田鐵五郎君
○金十圓　通油町十一番地　小林藤兵衛君
○金十圓　横山町一丁目十八番地　永岡武兵衛君
○金十圓　同町二丁目四番地　植松彦三君
○金十圓　同町二丁目一番地　宮崎新三郎君
○金四十圓　室町一丁目六番地　電本一一五九　植山巳之助君
○金八十圓　魚川岸六十一號　電本二四九　高崎友七君
○金十五、圓　室町一丁目四番地　加藤鐵彌君
○金十圓　小舟町三丁目三番地　奥村治平君
○金廿五圓　四日市町十番地　岩本文三郎君
○金五十圓　室町二丁目一番地　電本八二三　高見澤宗吉君
○金三十圓　品川町裏川岸一號　電本一、四四八　大瀧善吉君
○金百五十圓　瀬戸物町　問店　高津金之助君　友組會代表者　今木勝藏君
○金百圓　小舟町二丁目十一番地　石原萬助君
○金八十五圓　同町三丁目四番地　電浪一、六五〇　澁谷仙之助君
○金六十圓　本船町十五番地　電本三〇一五　橫澤清助君
○金五百圓　小舟町二丁目五番地　電浪一六七　粮山半三郎君

○金五十圓　木船町十四番地虎屋　電本二、七二五　竹內彌右衛門君
○金二十圓　小舟町二丁目十番地鹿島屋　電浪二、一四六　阿部長兵衛君
○金十五圓　同町川岸九號　電浪一、九九一　八木長兵衛君
○金壹萬圓　兜町三番地株式仲買人　電浪八二八　須藤つる君
○金百圓　堀江町一丁目七番地親交會總代　齋藤友輔之助君　藏君
○金百五十圓　浪花川町四番地　電浪二、一八〇　坂本金之助君
▲金七十五圓　濱町二丁目十一番地天運教會長　川瀨治三郎君
○金二百圓　堀江町二丁目六番地株式仲買人　電浪八七四　小布施新三郎君
○金六百圓　鐵砲町廿五番地東京給具染料商有志代表者　西野佐治郎君
○金十圓　住吉町七番地　細井嘉助君
○金十圓　伊勢町十一番地　電本一一二九　細井唯助君
○金十圓　小舟町一丁目五番地桂屋　電浪三、九八　青山力之助君
○金五十圓　本町三丁目四番地　電本一四三五　鈴木恒吉君
○金五十圓　瀨戸物町一番地　才店　電本八七二　高津伊兵衛君
○金五百圓　小網町二丁目四十一番地　電浪八〇　尾城滿友君
○金百圓　久松町三十番地　山崎勝三郎君
○金五百圓　山所町五番地　田崎作治郎君
○金四百九圓六十錢　網干町二丁目二番地三四六七番地總代　堀內藤七君
○金四十七圓三錢　木銀町一丁目十七番地　西山萬吉君
○金五百卅七圓　大傳馬町四丁目十八番地東京油商組合總代　長谷部喜衛門君　外三十九人
▲金一萬圓　金吹町一番地電本八八九　中井新左衛門君
▲金三百圓　矢ノ倉町十三番地　戶田富子君　子爵
○金十圓　馬喰町四丁目十五番地　近藤清八君
○金十五圓　堀江町一丁目九番地　新井育太郎君
○刀劍二十口　濱町二丁目十一番地　西山鎗次郎君
○金百圓　木材木町二丁目電本一〇五七　池田忠次郎君
○金千圓　通旅荒町十九番地電浪四〇三　淺井半七君
▲金二千圓　小網町三丁目廿七番地電浪一、GBO　濱口吉左衛門君
○金五十六圓五十錢　東京瀨花電話交換局交換手總代　海老澤カマ君
○金五十圓　馬喰町二丁目七番地護井支店　方波見善藏君

○白縞シャツ一百枚　堀亮町二丁目廿二番地　向井ヱイ君
○金十圓　京町二丁目十一番地　岸田常三郎君
○金四十圓　米澤町三丁目二番地息安電浪一〇七番　渡邊大助君
○金十圓　小傳馬町二丁目十番地　小柳重三郎君
○金七十一圓四五十錢　木村木町二丁目十七番地　三木與吉郎君
○金五十圓　南茅場町十番地　勝見與平君
○金二十圓　同上一七九番地電浪一七九五　同　與吉君
○金卅五圓　濱町一丁目十四番地　波邊小野瀧二郎君
○金三十圓　若松町廿二番地丸嘉號電浪七六八　齋藤嘉助君
○金二十圓　新和町五番地大和屋電浪一〇八四　飯川榮太郎君
○金二十圓　駿河町十一番地　西口彦兵衛君
○金二十圓　元大坂町十三番地森村商店電浪一五九〇　川合四郎作君
○金八十圓　元四日市町八番地近江屋電本三一三　塚田廣吉君
○歯磨一萬袋　馬喰町一丁目六番地岳陽堂電浪壹三　平尾贊平君
○金百圓　矢ノ倉町十二番地櫻井病院長代　櫻井郁二郎君
○金百四十五錢　堀亮町二丁目廿二番地　向井ヱイ君
○金百〇八圓　堀亮町一丁目二番地　米穀取引所常務者總代小久保順太郎君
○金四十八圓六十錢　本銀町三丁目八番地室町一丁目　鈴木市郎右門君
○金二十五圓　本石町二丁目十番地　中島清兵衛君外一人
○金五十圓　濱町三丁目一番地總代　杉本勇治郎君
○金五十圓　橋町四丁目一番地總代　島田松三郎君
○金五十圓　久松町五番地和泉嘉電浪二、六九二　山本嘉七君
○手拭三百筋　浪花町三番地　堀口ショウ君
○金二十五圓　下槇町六番地　池田兵三郎君
○石鹸千二百個　馬喰町二丁目一番地電浪三　長瀬富郎君
○同千八百個　富澤町十二番地小松屋電浪一八三　片岡幸八君
○金二百圓　濱町一丁目十四番地　安藤與惣次郎君
○金十圓　同上　福永ヲキ君
○金三十圓　同上　福永ヌイ君
○金五十圓　新乘物町十二番地越前屋電浪一三六　福永末吉君
○金百圓　堀亮町一丁目二番地　尾崎勇助君

○金二十圓　元濱町十二番地了子屋電浪二六六　澤田政七君
○金五十圓　同上油町六番地電浪一五六八　清水治兵衛君
○金二十圓　馬喰町三丁目廿番地　長村政七君
○金二十圓　大傳馬町二丁目八番地上総屋電浪一八一八　大島德兵衛君
○金百五十圓　堀亮町二丁目二番地電浪一、二六六　中井鍾太郎君
▲金一萬圓　元濱町一番地尾張屋　江守善六君
○金五百圓　通一丁目十九番地電本四一四　大倉孫兵衛君
▲金百五十圓　濱町三丁目五番地　田中キヨ君
○鳥併煮二百五十個　富澤町十番地電浪五四七　稻村源助君
▲金二千圓　同上電浪五四七　稻村音吉君
▲金五百圓　橋町二丁目七番地電浪一、七三六　田邊正助君
▲金五百圓　元大坂町八番地電浪六七〇　高木與兵衛君
◎金五百圓　新乘物町十五番地電浪一七六　白石甚兵衛君
▲金千圓　富澤町廿八番地大野屋電浪八五五　前田雍七君
▲金千圓　通旅籠町十八番地大坂屋電浪六三五　芳賀吉之助君
○金二百圓　亀島町二丁目十五番地電浪四八一　磯野重次郎君
○金千五百圓　横山町二丁目一番地電浪二一三　高見澤作三郎君
○歯磨揚枝　同町二丁目十七番地　平木六三君
○金廿圓　同町三丁目十一番　山田盛多君
○金百圓　米澤町一丁目二番地濱町一丁目二番　神崎三郎兵衛君外四方傳兵衛君　大島德兵衛君
▲金一萬圓　坂本町三十九番地産婆看志惣代　三橋楳君
○金卅一四卅錢　坂本高等小學校總代　中島行德君
○金十二四五十　村松町五十三番地　牧田源太郎君外三人　田中キヨ君
○金三十圓　通油町二十番地　梅田クニ君
◎金千圓　青物町十六番地電本一、三六八　梅田ハン君
○金五百圓　同上　渡邊大次郎君
◎金五百圓　伊勢町十六番地電本九一五　小西安兵衛君
◎金五百圓　小舟町三丁目三番地電浪九一　小林彌兵衛君
▲金五百圓　兜町四番地電浪五四三　大澤幸二郎君
◎金三百圓　本町四丁目二番地伊勢屋電本三、六三　後藤長左衛門君

●金二百圓　小網町一丁目七番地　中村茂八君
●金二百圓　大阪屋電話一、三二三番　植村傳助君
●金二百圓　金吹町四番地電木一、三七五　後藤長兵衛君
●金二百圓　伊勢町廿二番地電木二三　廣部清兵衛君
●金二百圓　木町四丁目十番地廣部銀行電木九三三　青木金六君
●金二百圓　横山町二丁目十六番地電話一、七九二　服部直吉君
●金百圓　大傳馬町二丁目四番地電話一、三六一　市田彌一郎君
●金百圓　旧所町二十七番地電話六九八　中島政次郎君
●金百圓　伊勢町九番地正田屋電木一〇九　齋藤利恆君
●金十圓　四川岸十五番地　瀧鼻平左衛門君
●金十圓　高砂町一番地　山口善八君
●金十圓　同上六番地電話一、六五一　野波七造君
●金十圓　同上八番地福井樓電話二、〇八〇　中萬助君
●金二百圓　堀江町四丁目一番地新粋分店電話一、二六四　桐澤清吉君
●金十圓　品川町料理組合中世話人　田中三平君
●金二百五十圓　小舟町三丁目十一番地電話一、三四　米倉嘉兵衛君
●金五十四圓　船松町十二番地　松永政吉君
●金十五圓　長谷川町十一番地福永幸吉方　岩下幸吉君
●金五十圓　大傳馬町一丁目廿一番地電話二、三三　戎野喜太郎君
●金三十圓　長谷川町十一番地柳屋電話一、三三　石原繁三郎君
●金二百圓　橘町一丁目四番地吉野屋電話一、四二　齋藤太三郎君
●金二十五圓　通り一丁目六番地　石川伊之助君　石田吉君
●金百圓　坂本町十七番地電話四一八　南波禮吉君
●金百圓　木銀町一丁目四番地非坂屋電木一、四七四　河合半兵衛君
●金千圓　濱町三丁目一番地有志者二百五人惣代　小柳津要人君
●金百圓　通三丁目十四番地　中村重兵衛君
●金五十圓　新和泉町七番地電話五六六　守木利右衛門君　觀君　嘉君
●金六十圓　木銀町二丁目六番地惣代　野波七造君
●金十圓　室町一丁目六番地　植山宗兵衛君
●金十圓　小網町三丁目三番地同業同盟會員十五人惣代　野中萬助君
●金千圓　柳橋葭町五十四人惣代　坂野ヒサ君
●金五百圓　濱町三丁目一番地有志者二百五人惣代　堀川長吉君
●金千八十六圓廿五錢

●金五十二圓　小網町三丁目十一番地電話一、六八〇　大島茂七君
○金廿圓　久松町十五番地　四マ　サ君　ル君
○金十圓　蠣殼町一丁目四番地　伊藤文彌君
○金十圓　鐵砲町十七番地　京橋與太郎君
●金五十圓　小網町三丁目一番地電話一、六〇五　駒木銀三郎君
●金五十圓　蠣殼町一丁目三番地電話一、〇九六　田村市三郎君
●金五十圓　木町四丁目廿三番地　土屋彦右衛門君
●金五十圓　通り四丁目七番地電木六〇八　栗田十二郎君
○厘紙六萬枚　馬喰町三丁目十四番地電話二七七　石崎好三君
○白ハンカチー千八百枚　元大坂町十三番地伊勢重呉服店電話八二一　佐藤重藏君
○手拭千本　蠣殼町二丁目廿六番地　平林好次郎君
○手拭二千筋　堺町九番地小川屋電話一五九八　小川專之助君
○金百圓　坂木町十八番地　杵屋六左衛門君
○金五十圓　同上惣代ニテ　右同人
○手拭二萬千五百筋　馬喰町一丁目九番地吉野屋電話一、五二三　東京糸問屋組合惣代　青木常作君

●金五十圓　南茅場町二番地　帝國海上保險會社
○綢帶二百五十卷　小網町三丁目十一番地電話一、六八〇　北新堀町二番地　神戸清兵衛君
●金千圓　橘町二丁目二番地　坊野宗兵衛君
●金千圓　電話二、三一三　藤間勘右衛門君
●金百圓　濱町二丁目十二番地　藤間勘右衛門君
▲金千圓　新乘物町四番地白米商電話一七五　高梨萬造君
○金卅五圓　村松町三十九番地松節齊　相馬理國君
●金五十圓　駿河町三井物産會社内　小泉吉彥君
●金五十圓　同上鑛山部内　吉田慶三君
▲金三百圓　濱町二丁目十二番地電話二五七五　森文次郎君
○金三百五十圓　小傳馬町二番地　武村幸太郎君
○金三百圓　元濱町　峯島茂兵衛君
○金二十圓　馬喰町一丁目十九番地　加瀨喜三郎君
○金十圓　淺草藥研堀　松の家音助君
▲金五百圓　新大坂町一番地　植島祐八君
○金十圓　鐵砲町十七番地　市橋與太郎君

○金五　十　圓　青物町十番地　銀伊　電本三、一八六、　大川伊三郎君
○金五　十　圓　若松町二番地　風月　電濱五一八　米津松藏君
○金百　圓　通油町七番地　電濱三四三　灰谷儀助君
○金千百六十圓　本町二丁目一番地　○金六百二十二圓六十錢　東京メリヤス藥店　青年有志總代　久保田宗三郎君
○金二　百　圓　北新堀町三番地　遠山市郎兵衛君
○金五　圓　綱竜町三丁目　番地　長網長兵衛君

京橋區

○金二　百　圓　南傳馬町二丁目七番地　電本局一二〇　山形屋乾物商　窪田甚之助君
○金五　百　圓　本材木町三丁目廿六番地　電新橋九八　村上喜代次君
○金二　十　圓　尾張町新地一番地　江島屋號　電新橋八九三　長澤喜兵衛君
○金二　百　圓　木挽町一丁目十五番地　萬安女中一同總代　鈴木仙吉君
○金五　十　圓　同上　右同　人
○金十　圓　日比谷町九番地　電新橋二、四三八　淺田榮二郎君
○金二百十三圓　永島町六番地　肥料商　六十二名總代　吉野利兵衛君
廿五錢
○金二　千　圓　堅川岸島銀町一丁目　電濱二三三四　鹿島利右衛門君
○金百　圓　銀座三丁目七番地　洋服店　電新橋三四〇　柴田光之助君
南傳馬町三丁目一番地日京商事商組合總代　武田甚八君
○金九十九圓　笹崎才市君

○金十　五　圓　室町三丁目四番地　幸島市右衛門君
○金百　圓　通油町七番地　電濱三四三　灰谷儀助君
○金二　百　圓　北新堀町三番地　遠山市郎兵衛君
○金五　圓　綱竜町三丁目　番地　長網長兵衛君

○金十　五　圓　南傳馬町二丁目七番地　電本局一二〇　窪田甚之助君
○金五　百　圓　本材木町三丁目廿六番地　電新橋九八　村上喜代次君
○金二　十　圓　江島屋號　電新橋八九三　長澤喜兵衛君
○金二　百　圓　木挽町一丁目十五番地　萬安女中一同總代　鈴木仙吉君
○金五　十　圓　同上　右同　人
○金十　圓　日比谷町九番地　電新橋二、四三八　淺田榮二郎君
○金二百十三圓　永島町六番地　肥料商　六十二名總代　吉野利兵衛君
廿五錢
○金二　千　圓　堅川岸島銀町一丁目　電濱二三三四　鹿島利右衛門君
○金百　圓　銀座三丁目七番地　洋服店　電新橋三四〇　柴田光之助君
南傳馬町三丁目一番地日京商事商組合總代　武田甚八君
○金九十九圓　笹崎才市君

○金五　十　圓　松屋町三丁目九番地　電新三、六六三　關根岩吉君
○金五十三圓　新富町三丁目二番地　電新橋一、五七　米穀商聯合總代　大久保清藏君
○金千七百圓　霊岸島銀町二丁目十番地　一色活版所代表者　一色忠雄君
○金千　圓　同四日市町十一番地　電濱花一、六六　酒問屋組合二十人總代　竹本新助君
○金二　千　圓　同四日市町十一番地　電濱花一、六六　鹿島乃婦君
○金二百　圓　銀座三丁目一番地　辻千代君
○金二十四圓　同上　辻榮次郎君
○金五　十　圓　同上辻商店代表者　角田寅吉君
○金　十　圓　南紺屋町廿六番地　鈴木松次郎君
○金二　十　圓　堀町七番地　電竹川岸十三號　電本二三〇　森島清一君
○金一　萬　圓　木挽町九丁目三十番地　電新一、六二一　森村市左衛門君
○金六　千　圓　同上森村銀行内豊明分總代　右同人
○金五　千　圓　北紺屋町六番地　電本二、一〇　黒川新三郎君
○金五　十　圓　五郎兵衛町一番地　鳥井義行君
○金十　五　圓　築地二丁目九番地　鈴木尚太郎君
○金六十六圓五十錢　松屋町二丁目七番地　電新三、三二五　關根岩吉君
○金二　十　圓

○金五　十　圓　松屋町三丁目九番地　電新三、六六三　米穀商聯合總代　大久保清藏君
○金五十三圓　新富町三丁目二番地　電新橋一、五七　一色活版所代表者　一色忠雄君
○金千七百圓　霊岸島銀町二丁目十番地　酒問屋組合二十人總代　竹本新助君
○金二　千　圓　同四日市町十一番地　電濱花一、六六　鹿島乃婦君
○金二百　圓　銀座三丁目一番地　辻千代君
○金二十四圓　同上　辻榮次郎君
○金五　十　圓　同上辻商店代表者　角田寅吉君
○金　十　圓　南紺屋町廿六番地　鈴木松次郎君
○金二　十　圓　堀町七番地　電竹川岸十三號　電本二三〇　森島清一君
○金一　萬　圓　木挽町九丁目三十番地　電新一、六二一　森村市左衛門君
○金六　千　圓　同上森村銀行内豊明分總代　右同人
○金五　千　圓　北紺屋町六番地　電本二、一〇　黒川新三郎君
○金五　十　圓　五郎兵衛町一番地　鳥井義行君
○金十　五　圓　築地二丁目九番地　鈴木尚太郎君
○金六十六圓五十錢　松屋町二丁目七番地　電新三、三二五　關根岩吉君
○金二　十　圓

○金六十四圓五十錢　築地三丁目十五番地　石井貞之助君
○金二十一圓七十錢　明舟町十七拾地　松田太三郎君
○手拭二千筋　富島町五番地　霊岸島發祓組合長總代　中島コウ君
○金廿　五　圓　三十間堀町三丁目　十二番地　池田彌太郎君
○金一　萬　圓　北紺屋町十二番地　電本四五七　田中長兵衛君
○金五　千　圓　銀座四丁目八番地　電新七一四　服部金太郎君
○ハンカチーフ　千二百枚　中橋和泉町五番地　神木多美藏君
○金二百五十圓　同廣小路町九番地　多崎忠七君
○金六　十　圓　銀座四丁目六番地　協親會代表者　秋葉大子君
○金三　十　圓　同上　電新二二八　武藏屋呉服店員總代　竹島作太郎君
○金十　五　圓　南傳馬町一丁目五番地　岡田福二郎君
○金二　百　圓　山城町四番地　煙草職　石井千太郎君
○紙　巻　一萬五千本　日吉町十番地石井商會　電新三二五　中村宇之助君
○金三　十　圓　南八丁堀一丁目十三番地　高坂金次郎君
○金五　十　圓　南傳馬町二丁目十一番地　電本九〇三　外七名

○金十五圓　本湊町五番地　楠山辰藏君
○金二十圓　鈴木町八番地電本一、四六一　足立伊之助君
○金十圓　三十間堀三丁目六番地電新三、五〇　橋本良助君
○金百圓　川口町四番地電浪二、一八八　石川市兵衛君
▲金二十五圓　新肴町五番地　岩崎穗一君
○金三十圓　桶町一〇南八丁堀一ノ十三、　小四孝兵衛養嗣人總代橋村伊兵衛君　中村宇之助君
○金十圓　南新堀一丁目十三番地伊勢幸事　板本保兵衛君
○金二十圓　銀座三丁目十番地電新二、〇〇五　岩谷松平君總代
●金三千圓　同町一丁目四番地電新一、〇五六　千葉松兵衛君
○貧窮世界義手個　木挽町九丁目卅三番地電新一〇二　朝吹英二君
●金四千圓　築地一丁目一番地　西村勝藏君
●金二千圓　同町三丁目十二番地　羽田專讓君
○金十圓　銀座一丁目二番地　川崎松榮君
○金十圓　船松町十一番地石川島造船所總代　松永政吉君　鈴木清吉君
○金五十四圓　叺屋町二番地　諏訪松之助君
○金二百七十四圓九十錢　築地三丁目本願寺別院信徒總代　痴山筱亮君　村幹隆君
○金四十八圓九十五錢　石川島造船所機關課第二號代表者　大塚三藏君
●金千圓　新佃島西町二丁目廿四番地　村井保固君
▲金千圓　木挽町九丁目三十番地　酒類仲買商組合總代　中澤彦七君
●金千圓　南新堀酒問屋電本九四　林謙吉郎君
●金五百圓　銀座四丁目拾十五番地電新一、二三　森岡眞君
●金三百圓　同町三丁目廿一番地電新橋一、一八　若宮正晉君
●金二百圓　木挽町廿一番地電新二四九　大澤省三君
●金二百圓　築地二丁目廿五番地電新二、七三〇　日下義雄君
●金百圓　同町二丁目三十七番地電新一、三三　木村新之助君
●金百圓　同一丁目二番地電新二、一八二　西川忠亮君
●金百圓　同二丁目六番地電新一、七八〇　山中隣之助君
▲金五千圓　南鄕鳥町一丁目十番地　木津三次郎君
○金五十圓　木八丁堀五丁目十一番地　候補　蜂須賀茂昭君
○金五十圓　築地三丁目十五番地向氣倶樂部總裁　藤田英次郎君
●金五十圓　山下町廿二番地電新二、五三七　痴山筱亮君　村幹隆君

●金五十圓　松屋町二丁目八番地電新二、七四二　佐倉千吉君
○金十圓　北新堀町二十番地　土屋竹二郎君
○金百圓　南八丁堀二丁目八番地電新二、八八九　谷上六郎君
○金三十圓　松屋町一丁目七番地電新三、三八八　石橋豐吉君
●金二十圓　木挽町五丁目三番地　岩淵德太郎君
●金十五圓　木村木町三丁目十八番地　石橋金二郎君
○金二百圓　鈴屋町四番地公和會總代　岩井榮吉君
○金三十圓　木挽町五丁目三番地電新七九九　岩淵清一君
○金三十圓　松屋町　小泉吉藏君
○金百圓　山下町十八番地電新二、二四八　玉置半右衞門君
○金百圓　木挽町九丁目一番地山月電新一、三三　多賀フミ君
○金十三圓　築地三丁目十一番地電新二、〇三五　和泉常二郎君
○金二十圓　新橋煉化地藝妓組合　三升家シゲ君
○金二十圓　同上　川村家カツ君
○金十圓　同上　花寺島キタ君
○金十圓　新橋煉化地藝妓組合　久枡鶴君
○金十圓　同上　新惠比壽榮龍君
○金十圓　同上　日の家ボタン君
○金十圓　同上　宇田川君
○金十圓　同上　新宇田川君
○金十圓　同上　新春の家フサ代君
○金十圓　同上　桔梗家カネ君
○金十圓　同上　辰中村君
○金十圓　同上　新玉家小糸君
○金十圓　同上　新江戸家エツ君
○金十圓　同上　蔦江戸家君
○金十圓　同上　桐家テウ君
○金十圓　同上　松中村初子君
○金十圓　同上　和模家君
○金十圓　同上　吉の家君

○金十圓　京橋煉化地葭鼓組合　寺島家君
○金十圓　同上　勝三升君
○金十圓　同上　川崎家君
○金十圓　同上　江戸家君
○金十圓　同上　新翁家小イチ君
○金十圓　木挽町五丁目三番地岩淵店事務員　加藤梅吉君
○金五十圓　新橋煉化地電新二、二七八　菊中村セツ君
○金十圓　同上菊中村内　ミヨ代カ君
○金百八十八圓　濱岸島宮島町五番地惣代電新一三五　瀧本時藏君
○金百圓　銀座一丁目五番地電新五四九　中川儀兵衛君
○金百圓　京橋大根川岸乾物商電本二、一八四　小松忠五郎君
○金十圓　宗十郎町十二番地　坂田多藏君
▲金二千圓　南新堀町酒類問屋電浪花二〇〇　小西孝兵衛君
○金十五圓　南小田原町一丁目十七番地石川島造船所工場惣代　松田幸治郎君　高橋亀吉君
○金十圓　瑞四國留學生代理古城貞吉君
●手拭三千五百筋　尾張町二丁目一番地電新三、四九五　小坂梅吉君
○金百圓　本八町堀一丁目一番地電本一、四五　内田得之助君
○金十三圓六十五錢　中橋和泉町四番地幹部　歌澤芝美彌人
○金十五圓十錢　第二四　新一、〇四九　外四名
○金廿二圓卅錢　木挽町一丁目十二番地岩谷商會第二工場葉拂工惣代　小西濱三郎君
○金百圓　富島町三番地電浪花五四八　積田松五郎君
○金二百圓　栄女町七番地歌舞妓座排骨其他一同惣代　中井半三郎君
○ハンカチーフ千二百枚　中橋和泉町五番地　井上竹二郎君　小笠原新兵衛君
○金廿圓　木挽町六丁目八番地　神木多美藏君
○征露軍歌第二編二千部　鎗屋町十五番地電新一、〇〇四　多々宗宣君
○金五百十九圓八十三錢五厘　弓町廿二番地朝報社長電新二二六　手塚猛冒君
○金十圓　築地三丁目拾五番地　山田藤吉郎君
○金十五圓　金六町　星野サヨ君
○金六十五圓　銀座一丁目四番地　吉川作太郎君　千葉千代君　千葉ハマ君
●金五十圓　瓢箪島濱町一番地電浪二二七四　荻原與兵衛君

●金三十圓　南鞘町十四番地電本三六一　清水滿之助君

芝區

○金八十圓　高輪車町四十四番地電新三、五一八　佐竹直躬君
○金五十圓　宮木町五番地　荻原和助君
○金十圓　三田四國町三番地　篠原惣太郎君
●金五十圓　柴井町廿三番地石鹸製造販賣商電新一、三七　小島新兵衛君
○金廿圓　濱松町一丁目十二番地電新橋一、九二一　加藤辰次郎君
○金十圓卅二錢　四久保郵便局集配人及小使一同惣代　小池金二郎君　島村庄之助君
○金五百圓　高輪南町四十三番地　槇島祐八君
○金百圓　愛宕下町四丁目一番地電新二、三九　高橋竹藏君
○金百圓　山内電新二七五　紅葉館君
○金五十圓　愛宕下町四番地八番地刺繍業　沖村市太郎君
○金十圓　同町四丁目一番地　福森銀二郎君
○金十圓　愛宕町二丁目十四番地　村田銀之助君
○金二百六圓　西應寺町五十三番地電新四五　吉村鐵之助君　内金百四圓　布同人
○金百圓　芝公園十五號地四福住楼電新八一一　竹内豐吉君
○金十五圓　愛宕下町一丁目一番地　結城富太郎君
●金三萬圓　高輪南町廿七番地公債電新九五七　毛利元昭君
●金一萬圓　三田一丁目廿八番地伯爵電新四一五　松方正義君
●金五百圓　三田四國町三番地伯爵電新一、八七　柳澤保惠君
●金千圓　濱松町二丁目廿四番地子爵電新三、五五　大久保忠一君
○紙巻煙草七十二萬本　副社長イーシエーバクッシュ君
○ナールド三十萬本　取締役
●金五百圓　紙巻煙草十二萬本ナールド十二萬千本　松原重榮君
田町二丁目十三番地村井兄弟商會　坂岡長藏君
四久保明井町十八番地惣代外十一名　竹内甚四郎君
三田松坂町三十八番地　篠原直亮君
三田四國町十五番地　金杉川口町廿七番地紛爭惣代　三澤萬吉君
芝口三丁目九番地、新橋館電新四三　橘本善吉君
懐田久保町十一番地電新二〇五九　勝清三郎君　淺野清七君　野梁平君　高橋宗二郎君
三田二丁目十一番地　

富貴ビール廿打　愛宕町三丁目五番地　小林喜十郎君
○金百七十二圓　土手跡町一番地芝湯屋組合惣代　山本啓治郎君
五十錢
●金百　圓　麻月町十九番地番屋電新一一五六　小松崎茂助君
○金千　圓　下高輪町三十番地　田坂初太郎君
○金百　圓　三田二丁目十六拾地惣代　福島金兵衛君
○金十　圓　宮本町一番地　遠藤兼吉君
○金百七十二圓　日町五丁目三番地芝區湯屋組合惣代　渡邊半次郎君
五十錢
○金三　十　圓　愛宕下町三丁目四番地　坂倉源一君
◎金五　千　圓　西久保櫻川町十三番地電新二八〇　馬越恭平君
○金千　圓　西久保巴町廿九番地電新六一二　園田實德君
○金千　圓　白金三光町四百九十三番地電新壹壹　園田孝吉君
○金千　圓　三田二丁目二番地電新六三四　麗澤一太郎君
○金千　圓　公園第五號ノ三電新四三三　麗澤捨次郎君
●金千　圓　公園第十一號電新一五五九　飯田義一君
◎金五　百　圓　三田一丁目卅四番地電新九一二　井上角五郎君
◎金五　百　圓　高輪南町五十八番地電新一八六　毛利五郎君
○金二　百　圓　三田二丁目二番地電新二四六七　岡本貞烋君
●金百　圓　麻月町十九番地番屋電新一一五六　小松崎茂助君
●金百　圓　公園第二四號一、電新一、九五〇、　村田一郎君
◎金百　圓　公園第十二號二、　未近道成君
◎金百　圓　愛宕下町四丁目七番地電新二四八　中澤安麓君
◎金五　十　圓　公園第九號七、　町田豐千代君
◎金五　十　圓　白金三光町八十一番地電新二七八〇　藤村義苗君
◎金二　百　圓　三田小山町三十七番地電新三〇三　有賀長文君
◎金四百六十八圓　芝川町七丁目六番地電新一一〇八　廣應義塾
◎金五　千　圓　四久保城山町九番地　石川憲夫君
○金五　十　圓　新櫻田町廿九番地白米商惣代　山崎松次郎君
○金廿八圓廿五錢　白銀町一丁目廿七番地　松原吉彌君
○金十　圓　青年同志會代表者　浮谷要藏君
○金十六圓五十錢　芝口二丁目十三番地　松岡琰三君
○金二　十　圓　南佐久間町一丁目一番地

○金六　百　圓　三田綱町三番地正三位勳三等子爵　鍋島直彬君
○金二　百　圓　阪倉六丁目十三番地英國人　マーリー、ロイド君
○金十　圓　高輪南町三十番地　池田政彥君
○金五　十　圓　神谷町十一番地惣代　高橋安兵衛君
○金廿　圓　日影町一丁目一番地惣代　篠原豐吉君
○手拭千筋　芝口三丁目二番地電新八〇五　高木善敬君　鈴木高野辰君
○手拭三千三百筋　公園内二十一號ノ八番　藤森勝三郎君
○金八　十　圓　鳥森町五番地　外村同林政君
○手拭五百筋　田町四丁目六番地産業組合電新七二　吉岩子君
○金五　十　圓　芝金杉浦漁業組合惣代　長谷川伊勢松君
○金百　圓　鳥森町四番地桃月電新八〇七　多賀フミ君
○金七十三圓八十八錢　柴井町共有金惣代　都築百二郎君外二人
○金百　圓　芝公園廿五號ノ一電新二〇一八　岩垂邦彥君
○大和味噌十六貫八百目　南佐久間町二丁目一番地　高橋清君
○金百　圓　高輪南町三十番地從五位　工藤謙君
○金五　十　圓　麻月町九番地柞蠶電新一九三七　小笠原又左衛門君
○金五　十　圓　芝口二丁目三番地新橋運送業組合長　山本吉五郎君
▲金千　圓　芝公園第七號電新三五　吉田寅松君
●金二　百　圓　高輪北町三十番地電新二六七六　村田保君

神田區

○金百　圓　錦町三丁目廿二番地電木二四二六　林清一郎君
○金百　圓　五軒町十九番薬劑商電下五四六　野上正義君
○金十　圓　同上　野上八重子君
○金二　千　圓　旅籠町一丁目三地番電下二五九　鈴木新兵衛君
○ハンカチーフ百打　同町三十七番地

○金百六十二圓　東紺屋町三十二番地神田染物業惣代　林　芳治郎君
○金五　十　圓　美土代町三四會惣代　酒井道謙君
●金千五十八圓　岩木町五番地福路屋號電木六五三　古着市場組合理事長　島村助七君
○金六　十　圓　佐久間町川岸十六號電下二〇二四　大橋長五郎君
○金二　千　圓　駿河臺北甲賀町十九番地電木五二二　薩摩治兵衛君
○金五　百　圓　徐師町四番地紺屋屋號　三谷長三郎君
○金十　圓　同町六番地　常間安太郎君
○金五　十　圓　岩井川岸十九番地　梶　ヨネ子君
○金廿　圓　銀治町三十三番地電木七七〇　植田小太郎君
○金百　圓　東紺屋町四十七番地　安藤德之助君
○金三　百　圓　同上電木二、四九七。　安藤正太郎君
○金二　百　圓　豊島町一番地電濕一、九八〇　真宗砂糖商組合惣代　鈴木　松君
○金廿五圓五十錢　東松下廿九番地惣代　久保井照山君　倉木巳之助君
○金十　五　圓　和泉町一番地　畑　德三郎君
○金十二圓五十錢　東紺屋町六番地　岡　三良君

○金十　五　圓　上白壁町九番地電木二、五五三　今井藤兵衛君
●金千　四　圓　東紅梅町十三番地　內田耕作君
●金二　百　四　圓　裏神保町三番地東京堂電木一二三　大橋省吾君
○金百　圓　神田市場青年會惣代　村永忠頂君　岡田久太郎君
○金百　圓　末廣町一番地　中村善吉君
○金百　圓　駿河臺袋町二番地　大西伊之助君
○金五　十　圓　三河町二丁目十九番地電木一、五〇三　宮崎善吉君
○金百十二圓五十九錢　松永町二十四番地有志惣代　森田包克君
○金十　圓　徐師町六番地　光家音次郎君
○金十　圓　錦町二丁目三番地　多村長八君
○金百　圓　多町二丁目八番地　青物市場仲買組合惣代　松丸五郎君　松山市郎君
○金五　十　圓　花房町一番地錦町二丁目一番地　煉化販賣人二十一人惣代　川秀孝君　川則修君
○金卅六圓六十錢　猿樂町一丁目五番地代表者　弘岡百合君
○金三　十　圓　淡路町一丁目一番地電木一、〇九六　風葉堂　後藤亭藏君
▲金百五十圓　東龍閑町八番地油屋電木一四六　塚原元兵衛君

▲金　千　圓　豊島町廿一番地居住者惣代　山田勘三郎君　藤井得三郎君　石井忠三郎君
○金四十二圓　北神保町八番地電木七〇三神保院惣代　鈴木篤三郎君
○金七十五圓十錢　櫻町二丁目四番地古物商組合惣代　北條初太郎君
○晒木綿五百反　錦町一丁目四番地　天理教會本部教會信徒惣代　中溝正之助君
▲金五　百　圓　築地町二丁目四番地電下八四七伊勢丹事　小菅丹次君
●金　百　圓　材木町十九番地電木一、七七四　上野半兵衛君
●金　百　圓　元久右衛門町一丁目四番地電下六五五　栗生武右衛門君
○金　十　圓　蓮池町十六番地　豊田要吉君
○金卅三圓五十錢　榮町十九番地惣代　荒井善太郎君
○卷賞三萬本　通新石町十三番地電木五四一　稻垣丹治郎君
▲金五　十　圓　柳原通洋服及毛織物商丸屋電本一六三　武神榮吉君
▲金五　十　圓　同上福路屋電木一、二一五　島村友三郎君
▲金五　十　圓　同上福田屋電木一、六三二　飯澤又兵衛君
▲金五　十　圓　同上天狗屋電濕二、一七三　中村秀吉君
▲金廿　五　圓　同上加田屋電本九一八　木村猪六郎君

▲金廿　五　圓　同上甲州屋電本二、九七九　三山萬助君
▲金廿　五　圓　同上　杉山治兵衛君
▲金廿　五　圓　同上　高橋傳兵衛君
▲金十　五　圓　同上　高橋德次郎君
▲金　十　圓　同上　高橋庄太郎君
▲金　十　圓　同上　高橋ヒサ君
▲金　廿　圓　同上　松田榮松君
▲金　廿　四　同上　伏見屋本店君
▲金十　五　圓　同上　石川喜一郎君
▲金十　五　圓　同上　田端貫三君
▲金十　五　圓　同上九間舖店電本一、五四六　園部周吉君
▲金十　五　圓　同上　中村七兵衛君
▲金十　五　圓　同上　井上菊治郎君
▲金十　五　圓　同上　桑澤堅藏君
▲金十　五　圓　同上加田屋電本一、〇二〇　立花重二郎君

▲金十五圓 柳原通洋服及毛織物商 宮島豐治郎君
▲金十五圓 同上 電浪三、五二八 吉田吉右衛門君
▲金十五圓 同上 福田彥三郎君
▲金十五圓 同上 西脇濱七君
▲金十圓 同上 中村安五郎君
▲金十圓 同上 野村仁兵衛君
▲金十圓 同上 島村禎次郎君
▲金十圓 同上 竹江福太郎君
▲金十圓 同上 田中淺次郎君
▲金十圓 同上 長島治郎吉君
▲金十圓 同上 前田彥次郎君
▲金十圓 同上 廣瀨金三郎君
▲金十圓 同上丸龜商店 電浪二、九八〇 森田龜吉君
▲金十圓 同上 清水信繼君
▲金十圓 同上 大竹銈藏君
▲金十圓 同上 小林文次郎君
▲金十圓 同上 宮田留吉君
▲金十圓 同上 電浪三、五一五 立花百之助君
▲金十圓 同上 電本二、三八一 加藤五兵衛君
▲金十圓 同上近江屋 電浪二、三九一 原岩吉君
▲金十圓 同上 電浪三、五三四 加藤龍丹君
○金二十圓 材木町十番地酸要商店 電本三、三五 堤龍太郎君
○金五十圓 東龍閑町八番地 田部井久兵衛君
○金五十圓 松住町二番地 電下谷六四八 加藤瀧三郎君
○金二十圓 元久右衛門町二丁目八番地 宮田留藏君
○金二十圓 同町二丁目一番地 電下一、一九七 鈴木平重郎君
○金三十圓 佐久間町一丁目二番地相清商店 電下二、〇三三 庄司清吉君
○金二十圓 同町四丁目二番地 橋本竹松君
○金三十圓 連雀町十八番地 電本八四九 金清樓 金子ミネ君 外十名
○金五十圓 駿河臺西紅梅町三番地杏雲堂病院内看護婦總代 正高マツ君 藤井キン君

○金貳百圓 柳原川岸第廿二號 電浪九九三 小林富次郎君
○金三十圓 末廣町三丁目九番地 平澤道次君
○金五十圓 岩本町十五番地 橋本直吉君
○金廿五圓 松住町三番地總代 朝田長右衛門君
○金五十九圓 旅籠町二丁目八番地私立小學校設立者總代 金子治喜君
○金四十三圓五十錢 駿河臺鈴木町二番地 東洋内科醫院有志總代 神藏良一君
○金貳千圓 同上北甲賀町八番地 電本二〇二 田村利七君
○金十圓 連雀町十六番地 電本局一、〇七六 豐岡兼吉君
○金廿五圓 東龍閑町九番地近江屋 電本二、〇六 川口兼吉君
○金廿五圓 岩本町六番地 中島德次郎君
○金二十圓 東龍閑町五番地 淺井丑之助君
○金十八圓七十九錢 小川町六番地牛肉割烹店 常盤樓君
○金十二圓 淡路町二丁目四番地師範學校附屬中學校生徒三六〇人總代 古山志郎君
○手拭三百廿三筋 榮町十九番地 村上英井外廿三人總代 荒井善太郎君
○金百圓 駿河臺紅梅町六番地編輯員 杉本規君 加島城君
○金三百圓 錦町私立錦城中學校職員生徒總代 電本五三六 校長從四位勲三等 矢野文雄君 校主從五位勲六等 谷謹一郎君
●金五百圓 駿河臺南甲賀町五番地 電本二、四〇 侯爵西園寺公望君
○手拭二千筋 松枝町二番地 中村桂太郎君
○金三十圓
△金二千五百圓 錦町三丁目十六番地 廣瀨與兵衛君

麴町區

○金五十圓 山元町七番地 乾傳助君
○金二十圓 飯田町二丁目四十九番地 電番一、三六一 竹内清次郎君
○金廿五圓 平河町三丁目五番地 貫井豐作君 外二人
○金廿二圓五十錢 紀尾井町二番地 星野陟君
○金六十五圓 上六番町二十番地女子高等女學校卒業生五十四人總代 足立稻君
○金二萬圓 上二番町三十九番地 電番二八四 三井一家總代 三井苞子夫人

內譯

○金四千圓 三井八郎右衛門君 夫人
○金貳千圓 三井八郎次郎君 夫人
○金貳千圓 三井高保君 夫人

○金武　千　圓　三井三郎助君夫人
○金武　千　圓　三井源右衛門君夫人
○金武　千　圓　三井元之助君夫人
○金武　千　圓　三井發之助君夫人
○金　千　圓　三井守之助君夫人
○金　千　圓　三井得右衛門君夫人
○金　千　圓　三井清子君
○金　千　圓　三井高長君
○金　千　圓　三井武之助君夫人
○金千二百圓　内幸町　内幸町總代電濵花一九二四　鳥井源次郎君外七人
○金二千三百圓　平河町五丁目五番地　横森久米藏君
○金三　十　圓　中條千枝君
○金五十四圓五十錢　富士見町五丁目一番地總代　森本鉾太郎君
○金　百　圓　仮沼町二丁目六十七番地電二八二　麹町丁目十番地神宮本齋合本院職員代表者電番二一二　中原市五郎君　歯科醫
○金　千　圓　麹町四丁目十九番地同所住居人總代　仁木傳吉君
○金二　百　圓　平河町四丁目十三番地電番三三九　淺沼藤吉君
○金百五十圓　麹町四丁目六番地總代　前田太吉君
○金五　十　圓　紀尾井町六番地總代　澤邊悌太郎君　藤平新太郎君
○金二　十　圓　平川町六丁目十八番地　川南盛誰君
○昏下五百足　四番町十四番地三綸田高等女學校長　三輪田眞佐子君
○金六十五圓　一番町二十七番地小石川小日向第六天町五十番地　今村三木君　伊澤岩夫君
○金　五　圓　三番町十番地　吉川馬吉君
○金三百五十圓　麹町四丁目十九番地同所住居人總代　柴田惣八君
○金　十　圓　同町一番地　荒井彌吉君
○金五　十　圓　同上五番地　福岡作次郎君
○金　十　圓　同上八番地　三浦宗七君
○金　十　圓　同上十三番地　磯部太郎兵衛君
○金　百　圓　同上十八番地越前屋電番六四七　倉又左衛門君
○金　十　圓　同上　高橋盛次君
○金　千　圓　同上　山本信藏君

○金　十　圓　同上　宗　龜六君
○金　十　圓　同上　佐藤通吉君
○金　十　圓　同上　佐々木惣右衛門君
○金二　十　圓　同上　倉　永藏君
○金二　十　圓　同上二十番地　佐藤乘吉君
●金五　千　圓　三年町四番地公借電新三五六　島津忠濟君
●金壹　萬　圓　永田町二丁目一番地電新八二五俠借　鍋島直大君
●金　千　圓　有樂町一丁目三番地電木一院七俠借　中山孝麿君
○金百　十八圓　三番町三十八番地總代　大道長安君　華族研究會總代
●九百七十五圓　紀尾井町六番地電番三七　從三位子爵　井伊直安君
○金二　百　圓　三番町十一番地電番二五七　今井慶松君
○金四千〇三十圓五十錢　宮内省皇后宮　職員中
○脫脂ガーゼ三百反　麹町六丁目三十一番地從六位　藤田高之君
○金十　圓　永田町一丁目三番地　大村鎗太郎君
○金十　圓　同町二丁目一番地日本赤十字社藤志君代表者　鍋島榮子君　千家俊子君
●卷繃帶千個　●卷軸繃帶百入七個　日本赤十字社藤志君代表者　同上

○金十圓五十錢　麹町十二丁目十八番地　矢島榮藏君
○櫻印ビスケット百二十斤　元園町二丁目九番地總代　波邊テル君
●金三　千　圓　同町一丁目三十九番地　田中光顯君
●金二　百　圓　平河町五丁目廿二番地　杉　孫七郎君
●金五　千　圓　元園町一丁目二番地電番町三〇五　加藤正義君
●金千　圓　上二番町十三番地電番八三　波多野承五郎君
●金三　百　圓　下二番町四十二番地電番二五〇　伊藤幹一君
●金二　百　圓　仮田町五丁目廿八番地電番一三三　井上辰九郎君
●金二　百　圓　華町六番地　佐々木長淳君
○金八十二圓十錢　永田町五十六番地協信教會總代　梅村亥之吉君
○卷軸繃帶五百卷入七箱　華族女學校職員生徒總代男爵　細川潤次郎君
○金十　圓　元園町一丁目三十二番地總代　加納半三郎君
●金四　百　圓　富士見町四丁目七番地電番四〇四　深田半次郎君　同家内一同
●金百　圓　紀尾井町三番地電番二〇六　山本直成君
●金百　圓　同上　山本直良君

●金百　圓　永田町二丁目七十三番地電新九五六　渡邊享君
●金百　圓　一番町二番地　長崎省吾君
●金百　圓　上二番町三十六番地電番三九一　瓜生震君
●金五十　圓　一番町五十五番地　予備　吉田良正君
●金五萬　圓　土手三番町三十九番地　男爵　三井八郎右衛門君
●金百　圓　飯田町三丁目二番地電番二五三　小野金六君
●金千　圓　永田町一丁目十一番地電新二、四二六　早川千吉郎君
●金五十　圓　宮七見町三丁目一番地　加茂水穗君
○金十五　圓　麹町三丁目十三番地　內山與平君
○金四百　圓　麹町三丁目　藤井彌三郎君　外二十二人
○金五十　圓　元園町憲兵演藝場主任　星野源次郎君
金十二　圓　三番町二十番地　神崎一作君
○金百　圓　下六番町十七番地　華族從四位子爵　成瀨正雄君
▲金三百　圓　中六番町四十番地電番八七二　井上正英君

小石川區

○金廿二圓七十五錢　下富坂町十三番地　砲工廠砲具製造所銀工場總代　門間由藏君
○金廿七圓八十錢　春日町五丁目十八本郷弓町二十同上總代　杉村由藏　吉君　藏君
○金十　圓　同上　總代　山崎菊藏君
○金十七圓六十錢　同上　總代　淺井幸吉君
○金十二圓八十五錢　同上　總代　鈴木平吉君
○金七圓四十錢　同上　總代　仁附梅吉君
○金十六圓七十錢　同上　總代　窪田勝治君
○金十三圓十五錢　同上　總代　鈴木鐵五郎君
○金九十二圓八十一錢　同上職工　總代　松島和三郎君
○金廿二圓五十八錢　同上檢査工　總代　飯田鎭三郎君
○金廿　圓　小日向臺町三丁目廿番地　吉野長吉君
○金五　十　圓　表町七十九番地　總代　山本大善君
○金百　圓　同町二十番地　高本さやう君　桑裝商組合代表者
○金百六十一圓五十錢　駕籠町廿三番地電番一、〇六四　北村甚兵衛君
○金廿　圓　揚場町廿三番地　鈴木吉三郎君

▲金二　千　圓　水道端町二丁目五十三番地電番町三六六　添田壽一君
○金廿　三　圓　久保町六十五番地　砲兵工廠火工場職工總代　槇石清吉君
○金十六圓七十八錢　若狹谷町二番地　同上女工總代　前島マサ君
▲金百　圓　若狹谷町　△金九百　圓　戶崎町九十四番地　○金廿八圓七十五錢　高見澤メリヤス工場職工酒井タツ　田口惠君
○金十　五　圓　同上　外八十九人代表者　佐藤勉一郎君
○金十　圓　柳町廿二番地　佐藤勉明　水野忠義君
○金三　十　圓　同心町一番地東京音樂學校助教授　赤川寅太郎君
○金百　圓　竹早町六十八番地　松田鋼一郎君
○梅干六樽　竹早町六十八番地　落合フイト子君　宮フサ子君
○金五十三圓十六錢五厘　四江戶川町二番地婦人會總代　小日向水道端町一丁目十三番地　從二位子爵　愛國教會本部總代　安野時萬君
○金十　圓　同心町三十八番地　第六天町十七番地　東京府神職總代　平田盛胤君
○金八十一圓　第六天町十七番地　東京府神職總代　山川操君
○金三百　圓　竹早町九十番地電番町三〇八　齋藤恂君
●金百　圓　四丸町三十番地電番四六八　棡木松二郎君
○金百五十圓　物町十二町九番地　高橋萬次郎君

○金六十四圓五十錢　同所　職工總代　右同人
○金十　圓　播磨町十六番地　東京地方裁判所廷丁三十一人總代　中村政太郎君
○金五　十　圓　西江戶川町二番地法華宗婦人會總代　前合イト子君
○手拭千本　柳町二番地日蓮講總代　本多良眞君
○金五　十　圓　大門町十二番地　吉川萬吉君
●金一　萬　圓　高田老松町七十六番地華族侯爵電番四五〇　細川護成君
●金百　圓　同心町二十二番地華族子爵　南部利恭君
○金二百六十一圓二十錢　物町區三番町六十四番地　砲兵工廠砲具製造所職工所總代　登喜司君
○金廿五圓七十錢　下宮坂町十番地　筧同上女工部總代　鈴木アサ君
●手拭一千筋　白山前町六十二番地電番町五二　高橋政右衛門君
●金百　圓　西江戶川町廿九番地電番一、二五七　吉田丹次兵衛君
○金百七十五圓　竹島町廿一番地　砲兵工廠就包製造所職丸場勞工總代　木村六十郎君
○金九十一錢　東京砲兵工廠就包製造所女工總代　大塚ヨネ君
○金四十二圓五十五錢　宮七見町六ノ七

四ッ谷區

○金五　十　圓　物町十二町九番地　高橋萬次郎君

○金十圓 同町十二丁目廿四番地 加藤治郎兵衛君
○金七十圓 鹽町二丁目八番地 原常吉君
○金百圓 箪町十二丁目廿一番地電番町一、三七 蕎麦屋 福本松五郎君
●金五千圓 仲町三丁目三十五番地電番町三八〇 相馬永胤君
●金二百圓 内藤町一番地 金子直君
▲金千圓 内藤新宿一丁目電番町八五六 從四位子爵 内藤弼三郎君
○金五十圓 △金五千圓 同上 松岡太郎君
○金廿圓 左門町三十番地 村山鶴子君
○金十五圓 市ヶ谷片町五番地大坂屋號 關惣助君
○金十圓 箪町十三丁目廿五番地 井上淺吉君
○金五十圓 南伊賀町十八番地電番町一、二六八 鹽田武八郎君
○手巾千百廿五枚 元鮫河橋南町四番地妙行寺有志惣代 山岸觀龍君
○金十二圓 内藤新宿町二丁目貸座敷 近藤フク君
○金十圓 同上字一丁目十六番地 竹内勝君
○金卅一圓 同上 竹内辰太郎君

○金三十圓 同大字二丁目五番地 高須健三郎君
○金十圓 傳馬町新一丁目八番地 島田イワ君
○金二百圓 南伊賀町一番地電番八六五 波多野尹政君
○金十圓 荒木町廿七番地 葛野伴二君
○金六十三圓九十錢 鹽町三丁目卅八番地金光教四ッ谷小教會惣代少講義 戸田與吉君
○金五十圓 傳馬町新一丁目五武藏屋電番三七九 清水治右衛門君

牛込區

○金百五十圓 南町七番地 大野孝七郎君
○金十圓 新小川町三丁目十七番地 高橋兼吉君
○金百圓 若松町七十三番地華族子爵電番六七 二條基弘君
○金五十圓 市ヶ谷甲良町十五番地 山本獻正君
○金九十二圓四十二錢 矢來町十七番地砲兵工廠銃工場職員惣代 原田榮吉君
○金十圓 揚場町五番地 富山豊甫君
●金千圓 拂方町九番地電番町五三六 山口宗義君
●金千圓 若宮町四番地電番六四 首藤諒君

●金五百圓 砂土原町二丁目一番地電番三〇六 加藤高明君
●金二百圓 南山伏町二番地電番一九九 中島行孝君
●金百圓 新小川町三丁目三十一番地電番三七 久野昌一君
●金五十圓 若松町十二番地 新月新太郎君
○金百八十三圓廿五錢 神樂町二丁目廿二番地修心學社惣代 竹内錄太郎君
○金二百圓 新小川町一丁目四番地 金春八郎君 喜多六平太君
▲金六百圓 矢來町三番地中ノ丸電番一、三八五 十七人惣代久美商會 稻葉御二君
○金二十圓 若宮町十一番地 從八位 石井懿君
○金百圓 市ヶ谷河原町十七番地電番町四四 遠田注君
○金十圓 沙土原町二丁目六番地 松崎愛次君
○金百圓 築土前町三十番地正六位勳五等 大坪正愼君
○金十一圓二十二錢五厘 市ヶ谷甲良町廿九番地勳七等 銀和會惣代 石原久敏君
○手拭一千筋 同上田町二丁目十四番地 矢代多三郎君
○金十圓 新小川町一丁目五番地 東京家政學校惣代 淺村金君
○金三千圓 藥王寺前町電番一、三一四 兒玉少介君

○金百圓 揚場町酒類商電番町七六六 桝本喜樂君
○金二十七圓二十五錢 納戸町 岸勘次郎君
○金百圓 細工町 小泉利平君
○金十圓 表町八十八番地淑德女學校卒業生惣代 淺羽ヨシ君
●金千圓 河田町七番地電番町五五九 男爵 徳川義恕君
▲金五千圓 市ヶ谷左内坂町二一電番町四三 近藤廉平君

赤阪區

●金五十圓 青山御産所内男爵 揖取素彦君
●金三十圓 表町三丁目廿一番地 藤原定造君
●金十六圓五十錢 表町二丁目十二番地 梅岡母堂翁君 坂田道君
●金十圓 同上 石原ませ君 井上さん君
●金二萬圓 葵町三番地電新一五九 大倉喜八郎君
●金五千圓 新坂町八十番地電新五五 松尾臣善君
●金二千圓 丹後町十七番地 園琢磨君
○金百圓 △金千圓 表三丁目十五番地 安藤治三郎君

○葡萄酒十五打 新町三丁目十七番地電新二、三五三 荻原彌四郎君
○金五十圓 青山南町五丁目四十八番地電新二、一〇九 安川繁成君
○金三十五圓 同上代表者 安川新七郎君
●金千圓 新坂地四十三番地電新二、二〇四 渡邊專次郎君
●金二百圓 水河町五十三番地電新一、二四六 中野欽九郎君
●金百圓 田町七丁目三番地 河口駒之助君
●巻繃帶二百五十卷 青山高樹町十番地森川米吉方 土屋孝思郎君 高信貞吉君
●金五十圓 田町六丁目二番地八百勘事電新三七〇 吉田勘右衛門君
●金十圓 同町三丁目十一番地伊勢春事 小山伊三郎君
●金五十一圓五十九錢五厘 仲町六番地報知社安信所恤兵者總代 篠田鑛造君
○金千圓 福吉町二番地從一位公爵 九條道孝君
○金二十圓 溜池町十七番地三河屋電新六一九 宇佐美房吉君
○金十圓 田町三丁目六番地東京亭 清水キヨ君
○金十圓 同町四丁目三番地寄久木 加藤ツル君
○金十三圓 青山北町一丁目四番地魚商組合 鈴木松次郎君 外十二人

○金三十圓 鳥宮警察署詰消防夫組頭總代 石川三之助君 外五人
○金二十圓 新町三丁目廿七番地 櫻井駿君

麻布區

○金百圓 ●金二百圓 四町廿二番地一號電新橋三、七一四 仙波太郎右衛門君
○金百圓 今井町三十四番地酒類商 鹿島利左平君
○金十圓 新網町二丁目七番地 加藤萬次郎君
○金五十圓 霞町廿二番地 佐藤眞一君
○金十圓 六本木町十二番地 柴田清右衛門君
○金二百圓 飯倉二丁目五番地愛職總代 高井吉兵衛君
○金十圓 霞町五番地警視廳 中川喜一郎君
○金五十圓 ○金五十圓 飯倉六丁目十三番地電新三七三 正五位子爵 稻葉順通君
●金三百圓 鳥居坂町一番地電新三三七華族公爵 三條公美君
●金一萬圓 飯倉町六丁目十四番地電新八一九 侯爵 德川茂承君
●金一萬圓 宮村町四十二番地電新八二〇 伯爵 井上馨君
●金五百圓 市兵衛町一丁目十六番地電新三、四八 伯爵 大村純雄君

●金百圓 同町三十一番地伯爵 山田繁榮君
●金三百圓 飯倉片町二十五番地子爵電新三三〇 松平賴英君
●金百圓 東町四十五番地電新二、〇二一 池田政保君
○金五十圓 新龍土町十二番地番町電話交換局好友會總代 谷神貞方 松井イト君
○金五十五圓 鳥居坂町四番地大工總代 田口金太郎君
○金千圓 霞町一番地東京女子同情會總代 若宮米子君 從田榮子君
○金十圓 三河臺町廿七番地電新七八四 志賀直溫君
●金千圓 宮村町四十二番地電新一、一六六 田島信夫君
●金二百圓 仲ノ町廿二番地電新五七 鮫島武之助君
●金百圓 宮村町七十一番地電新三、八三〇 小川一眞君
●金百圓 飯倉片町廿四番地 日蓮宗臨時報國義會總代日蓮宗管長 草野政信君
●金二千圓 二本榎町一丁目十八番地 久保田日龜君
●金七千圓 市兵衛町一丁目三番地侯爵電新一、二三三 池田仲博君
○金四百圓 仲ノ町十九番地電新一、九四四 華族從三位子爵 松平忠和君
○金五十五圓 飯倉町五丁目四十四番地大工有志總代 津山熊右衛門君

○金十三圓五十三錢 婦人まごゝろ會代表者 木内文子君 北越枝子君 鈴木一幸子君
●金二萬圓 鳥井坂町三番地電新一、六三二 赤星彌之助君
▲金四百圓 ●金五百圓 宮村町六七子爵電新橋五五三 芳川顯正君
○金百圓 三河臺町十三番地電新一、七三七 永井勘七君

淺草區

○金廿圓 花川戸町六十三番地電下谷一、四三 鈴木清三郎君
○金三十圓 諏訪町二番地 染谷八十吉君
○金百圓 新吉原江戸町大文字樓 波木井長君
⊙金二百五十圓 神吉町十五番地 田崎忠篤君
○金十圓 橋場町百十四番地 樋田龜太郎君
●金百圓 瓦町十六番地 青地四郎君
●金三百圓 橋場町三十七番地電下一、〇三三 神木治三郎君
●金三百圓 神吉町四十三番地電下六四七 增尾飯田合名會社
●金五十圓 同上 同上職工一同君

○手拭五千筋　富山谷垰山川町一番地　池田金太郎君
○卷莨千五百個　北三筋町三十番地　森田秀三郎君
○金　千　圓　新吉原京公分總代幷中樓電下谷七三五　小林櫛次郎君外五人
○金　十　圓　猿屋町十七番地　飯島龜次郎君
○金　百　圓　新吉原五十間町一番地同町內總代　內藤昇太郎君河中根銈次郎君
○金五　十　圓　猿前片町電下谷一六四　東京高等工藝學校一同
○金　百　圓　新仲町八番地　加藤エイ君
▲金二　千　圓　吉原町二番地　池田萬藏君
▲金　千　圓　新鼈宮町七番地電下一、九四一　稻垣市兵衛君
▲金七　百　圓　駒形町四十五番地　渡邊勘七君
▲金　千　圓　黒舟町十一番地電下二一　町田德之助君
▲金　千　圓　駒形町三十九番地電下三八八　中居百助君
○金五十五圓　新吉原京町一丁目角海老樓　山本キクナ君田中ナヲ君
○金三　十　圓　同上江戸町二丁目泰中樓下二六六　村井寅吉君
○金三　十　圓　左衛門町一番地天理教會　神田川出張所
○金十　五　圓　同上婚人會總代　同　上
○手拭二千百筋　旅籠町一丁目九番地中村芝蘭事　祖父江由三郎君
○金百卅七圓四　新吉原江戸町二丁目二番地電下谷一八九六　華子商總代御簾納　清兵衛君
○金　十　圓　馬道八丁目五番地　柏木イソ君
○金百廿七圓七十錢　淺草町六番地　根本福太郎君
○金　百　圓　新吉原角町　藤村正三郎君
○金　百　圓　同上江戸町二丁目　川地辰五郎君
○金　百　圓　金龍山下浅草町電下谷一四二一　日比谷つね君
○金　十　圓　四谷鹽町三番地　小島心一君
○手拭八百五十筋　花川戸町古番地深川清住町廿五番地大雄山保明師總代　右非開心君荒木雄吉君鈴木純其君
○同五百五十筋　花川戸町十四、四、鳥町三十四、同上　森田宗利君
○同八百五十筋　同上　同上　右　雨　人君
○金　五　圓　須賀町一番地　清水幾松君
○金　五　圓　藏前片町七番地狀一心教會總代會長　小澤花君
○金　百　圓　小島町廿六番地淺草合同兵給臨展望會總代　毛利敬定君

下谷區

○金　百　圓　凸版印刷合資會社職員二長町一番地電下二、〇二六　佐藤安藏君
○金　百　圓　徒士町二丁目十六番地同上電下一、九二五　加藤泰秋君
▲金三　千　圓　數寄屋町醫者組合總代　右　同　君
○金二　百　圓　數寄屋町一番地　岩川ムメ君
○金　百　圓　池ノ端仲町　衣笠光遠君
○金　百　圓　仲御徒士町三丁目廿七番地電下一、　田中貞次郎君
○金　百　圓　徒士町三丁目廿三番地電下八三二　岡田勘七君
●金三　百　圓　谷中清水町一丁目電下四七　大河內信好君
○金十五圓　上野黒門町十番地　鈴木喜代松君
○金　十　圓　數寄屋町八番地　佐藤宗治君
○金二百五十圓　山伏町五十三番地　田崎忠恕君
○金　十　圓　下谷櫻木町廿三番地萬安電下一三八　金子忠三郎君
○金　百　圓　池ノ端仲町廿六番地寶丹水舖電下五　守田治兵衛君
○金五百十五圓　同上町內總代　右　同　君
○金百十五圓廿錢　同町守田寶丹店　田中清兵衛君
○金二　十　圓　同町廿九番地電下九六五　飯塚伊兵衛君
○金十　五　圓　數寄屋町十一番地　櫻井榮藏君
○金　十　圓　池ノ端仲町五番地　戸部金之助君
○金　十　圓　同町十一番地　高木左金吾君
○金　十　圓　同町二十七番地　小宮山福太郎君
○金　十　圓　同町廿五番地　道明新兵衛君
○金卅　五　圓　同町廿六番地　守田寶丹君
○金　十　圓　同上　松田　薫君
○金　十　圓　同町　鈴木源助君
○金　十　圓　同町　小柳重三郎君
○金　十　圓　同町　星野伊兵衛君
○金　十　圓　同　星野伊兵衛君
○金　十　圓　同　富田伊三郎君
○金三　十　圓　谷中清水町十四番地ノ一番地神道修成派諸教合同有明山神力總代　大河內信哲君
○金七　十　圓　三輪町三番地神道修成派諸教合同有明山神力總代　南協宗利君名常吉君

○金五十圓 上野北大門町十五番地 伊藤喜三郎君
▲金五十圓 車坂町一番地紙メイブ製造業 電下二二七二 松島惣兵衛君
▲金五百圓 茅町二丁目三番地 辻八五郎君
○金十五圓 三ノ輪町八十九番地 電下六五 寺田ヨシ君
○金十圓八十一錢 谷中茶屋町一番地東京美術學校職員生徒惣代 中村勝次郎君
○金二十圓 徒士町二丁目四十二番地 當麻ツル子君
○金十圓 二長町五十番地 中山梅子君 岩佐德子君
○金五百九十圓廿九錢 竹町十七番地東京製紙株式會社社員職工惣代社長 宮部久君
○手拭五百筋 東坂町十番地 古川清子君
○金二十圓 竹町十二番地島市 電下一八四 神原市郎右衛門君
○金二十圓 同町 松下吉藏君
○金十圓 同町 天野ヤス君
○金十圓 同町 鈴木國藏君
○金二十圓 徒士町二丁目四十二番地 齋藤つる君
○手拭二千筋 三輪町五十四番地惣代 秋元八十七君 米田源太郎君

○手拭千四百三十八筋 上野廣小路町十一番地惣代 大塚安二郎君 岩下秀吉君
○金十五圓 谷中初音町二丁目七番地 上田半三郎君
○金百圓 上野公園料理店梅川樓 電下一、五〇 市川マス君
○金百〇九圓 東黒門町九番地ロ組湯屋組合惣代 小林太吉君
○金十圓 上野山下料理店 甲子女中一同君
○金十圓 二長町五十番地佛教婦人能忍會有志三十人代表者 中山梅君 岩佐德君
○白布百反 數寄屋町廿二番地 小林ゆう君
○金五十圓 上野櫻木町廿九番地 電下一六四八 宮本菊之助君
○金二十圓 下谷新坂本町五番地 佐々間多君
○金二十五圓 上野公園內東京音樂學校學友會代表者 成田藏己君

本郷區

○金五十圓 駒込千駄木阪下町一番地 大西精三郎君
○金六十圓 本郷五丁目十番地體操器械業 電下谷八四五 伊藤卓夫君
○金二百圓 駒込千駄木林町廿四番地太物問屋 戸山彌助君
○金十圓 湯島一丁目十番地 電下六九三 池田六兵衛君

○金十五圓 天神町一丁目六十八番地鈴木洋酒店代表者 岩城定吉君
○金三十圓 蓬萊町海藏寺外九ヶ寺惣代 大石觀法君
○金二十圓 弓町一丁目廿五番地 波吉宮門君 小谷久男君
○金五十圓 本富士町二番地 鈴木甚兵衛君
○金五圓 春木町二丁目四十九番地 澤津正孝君
○金十圓 湯島三組町八十二番地 電下九〇〇 磯貝和助君
●金千圓 駒込千駄木林町四十六番地 電下三三 岡本善七君
●金二百圓 弓町一丁目廿六番地 伴野乙彌君
●金五十圓 弓町二丁目二十九番地 電下一〇四 市川好廉君
○金三百圓 龍岡町順天堂社長 植木彌一君
●金一萬圓 ○金三百圓 向岡彌生町三番地侯爵 電下谷八一 淺野長勳君
●金二萬圓 元富士町二番地侯爵 電下谷四五 前田利爲君
●金五百圓 森川町一番地子爵 電下谷一、一七一 本多忠敬君
●金五萬圓 湯島切通町十番地男爵 電下二五六 岩崎久彌君
●金三百圓 金助町二番地男爵 電下谷五五五 野田豁通君

○金二百圓 龍岡町 順天堂醫院一同君
○金四百九十五圓 三組町三十八番地 電下谷一、二二七 高田愼藏君
○金三百圓 西片町 電下谷一、三九二 阿部正恆君
○金百六十圓六十錢 金助町三十五番地同町有志惣代 斧生義男君 影山善兵衛君
○金十圓 春木町三丁目廿七番地 小川幸吉君
○金十圓 森川町一番地三河鄉友會寄宿舍內 高柳勝二郎君外三人
○金三十圓 同町十九番地 石川安五郎君
○金五十圓 駒込動坂町三番地 松田周次君
○金二十圓 元町二丁目六十六番地 栗原光一君
○金百圓 西片町十番地 山岡まさ君
○金五十圓 弓町一丁目廿六番地 前田一郎君
○金五十圓 駒込西片町十番地 長谷川寬君
○金十圓 千駄木町二百十五番地 大給家雇人惣代 板倉伊三郎君
○金十五圓 駒込追分町九十番地惣代 谷口寅次郎君
○金十圓 眞砂町廿七番地校友會代表者會長 宮川盛君

○金三十二圓　駒込四片町十番地　阿部家女中惣代
○金三十圓　湯島新花町五十五番地
▲金百圓　日町十七番地
▲金百五十圓　春木町三丁目廿七番地東京音樂學校
○金七百五十圓　小梅五町五十番地
○金九十五圓六十錢　菊川町二丁目六十二番地
○金百五十四圓　同町二丁目布志惣代
○金十五圓　綠町三丁目十六番地
○金三萬圓　横網町二丁目七番地
●金五百圓　仲ノ郷業平町四番地電下七二〇
○金二十圓　相生町三丁目九七
○金十圓　中ノ郷原庭町廿三番地
○金八圓　松井町三丁目十二番地
○金百圓　小泉町十三番地角力年寄
▲金千圓　元町十七番地電濕花一、三四三　小泉町三十二番地日本鐵道會社貨物取扱人三八惣代
○金九百十四圓　向島枕橋料理店電下七二
○金三十圓　相生町二丁目四番地濕三、〇二七
○金三十圓　同四丁目十番地電濕三、二六四
○金百圓　菊川町二丁目六十二番地
○金十圓　綠町三丁目十六番地
○金十五圓　横網町二丁目七番地電下三〇
●金五百圓　仲ノ郷業平町四番地電下七二〇
○金二十圓　相生町三丁目九七
○金十圓　中ノ郷原庭町廿三番地
○金八圓　松井町三丁目十二番地
○金百圓　小泉町十三番地角力年寄
▲金千圓　元町十七番地電濕花一、三四三　小泉町三十二番地日本鐵道會社貨物取扱人三八惣代
○金百圓　駒込四片町十番地　阿部家女中惣代
○金三十圓　湯島新花町五十五番地
▲金百圓　日町十七番地
▲金百五十圓　春木町三丁目廿七番地東京音樂學校
○金七百五十圓　小梅五町五十番地
○金九十五圓六十錢　菊川町二丁目六十二番地
○金百五十四圓　同町二丁目布志惣代
○金十五圓　綠町三丁目十六番地
○金三萬圓　横網町二丁目七番地電下三〇
●金五百圓　仲ノ郷業平町四番地電下七二〇
○金二十圓　相生町三丁目九七
○金十圓　中ノ郷原庭町廿三番地
○金八圓　松井町三丁目十二番地
○金百圓　小泉町十三番地角力年寄
▲金千圓　元町十七番地電濕花一、三四三　小泉町三十二番地日本鐵道會社貨物取扱人三八惣代

向島枕橋料理店　電下七二　八百　松君
相生町二丁目四番地濕三、〇二七　秋永卯之助君
同四丁目十番地電濕三、二六四　福田林藏君
菊川町二丁目六十二番地　土屋秀立君
綠町三丁目十六番地　桑田たけ君
同町二丁目布志惣代　廣田吉藝君
横網町二丁目七番地電下三〇　川原田長吉君
仲ノ郷業平町四番地電下七二〇　安田善次郎君
相生町三丁目九七　三田土ゴム製造會社
中ノ郷原庭町廿三番地　常陸山谷右衛門君
松井町三丁目十二番地　北島巳三郎君
小泉町十三番地角力年寄　高橋勇松君
元町十七番地電濕花一、三四三　小泉町三十二番地日本鐵道會社貨物取扱人三八惣代　二十山重五郎君
大角力協會　大角力協會　正一君　政和田榮次郎君

○金九　十圓　茅場町三番地　電濕花二、五九六
○手拭千五百筋　綠町二丁目三番地　南茅場町二番地大組　山内陳大眞湯惣代
○金五　十圓　綠町二丁目十番地電下一、六一四

深川區

○金三百圓　富川町三十一番地　電濕花二、五〇一
○金二十圓　東大工町七番地
○金百圓　冬木町十番地俳諧宗匠
○金五　十圓　四珠下町小谷松新兵衛店
○金七　十圓　電濕花二、七四五　東仲町酒見會三藥　和合惣代號平清
○金十四圓五十錢　電濕花七〇　洲崎弁天町二丁目一番地
●金一　萬圓　福住町四番地　電濕花一、〇一三
●金一　萬圓　清住町一番地　電濕花七九
●金三　千圓　材木町十五番地號　上清電濕花三、四六
○金三　千圓　東大工町六番地　電濕二三〇
○金二　千圓　島田町九番地　電濕二九
○金三　十圓　佐賀町二丁目廿六番地　電濕花二、五九六
○金二　百圓　東永代町十三番地　電濕花七三五
○金二　十圓　四珠下町四十四番地　富岡門前町十二番地　地電會員　電濕一、四三八
○金廿　圓　御船藏前町三番地
○金二　百圓　東元町十五番地　電濕花五〇三
○金二千五百圓　四大工町十番地　電濕花二、〇三五
○金二千五百圓　同町十八番地　民濕花三三三
○金百　圓　東大工町三十四番地　電濕花一、七四
●金廿　圓　常盤町一丁目十二番地惣代
○金二　十圓　東森下町百十一番地高等小學校男女子兩部惣代
○金三　十圓　東元町一番地惣代
○金五　圓　大島町字深川木村
●手拭三千八百　清住町廿五番地
○五十四筋　大雄山惠龍踊惣代
○金二　十圓　給町二丁目八番地
○金九　十圓　茅場町三番地　電濕花二、五九六
○手拭千五百筋　綠町二丁目三番地　南茅場町二番地大組　山内陳大眞湯惣代
○金五　十圓　綠町二丁目十番地　電下一、六一四

薬師寺久兵衛君
山崎繁次郎君
大井幸次郎君
石井三次郎君
新崎重太郎君
笹野甚四郎君
三野村利一君
三野村安太郎君
伊藤善藏君
櫻井金二郎君
岡道宇八君
山崎繁次郎君
大井幸次郎君
石井三次郎君
新崎重太郎君
笹野甚四郎君
三野村利一君
三野村安太郎君
伊藤善藏君
櫻井金二郎君

富川町三十一番地　電濕花二、五〇一　フスベルト松根油商　仲萬兵衛君
東大工町七番地　金子茂兵衛君
冬木町十番地俳諧宗匠　三森幹雄君
四珠下町小谷松新兵衛店　小谷松ハル君
電濕花二、七四五　東仲町酒見會三藥　和合惣代號平清　丸山清吉君
電濕花七〇　洲崎弁天町二丁目一番地　松尾常藏君　男番　澁澤榮一君
福住町四番地　電濕花一、〇一三　清住町一番地　電濕花七九　淺野總一郎君
材木町十五番地號　上清電濕花三、四六　中村清藏君
東大工町六番地　電濕二三〇　岩出惣兵衛君
島田町九番地　電濕二九　鹿島岩藏君

○アルホース石　東京橋區五番地扇橋製藥株式會社取締役長　小栗貞雄君
鹸二千個
○金十　圓　深川區佐賀町七番地　原猪三郎君
○金十　圓　本村町百〇五番地　金子工場君
○金五十六圓八十四錢　富川町町一番地東京三崎鐵工場員總代電話花二、番　若原松二郎君
○金十　圓　冬木町十丁目十二番地　宮川照應君
▲金廿一圓九十錢　四谷區下町中之組總代　石川鐵兵衛君　上田鐵右衛門君　矢崎良藏君
○金四百九十五圓九十錢　洲崎辨天町一丁目十一番地洲崎組効會長　佐藤宗榮君
○金二十圓　同町十番地　田中信次郎君
○金廿四圓　同上　有坂ワカ君
○金二十八圓八十六錢　同町十七番地　岡村ツヤ君
○手拭千本　富岡門前仲町六、蛤町一丁目三番地　東京大師元講總代百八十九人　岡村ツヤ君
○金十二圓　辨天町一丁目十四番地　須永芳太郎君
○金十四圓三十錢　同町一丁目五番地　成塚糸次郎君
○金十圓　同上十四番地　野口國五郎君
○金二十圓　同町十番地　丸西キン君

○金十　圓　同上　篠原徳吉君
○金十　圓　同上　高橋鶴二郎君
○金十一圓卅錢　同上　金山眞佐君

東京府（郡部）

○金千　圓　豊多摩郡千駄谷村字原宿電話二、三六　梶和助君
○金十五圓　南足立郡千住町字古川一丁目十七番地　小川芳藏君　小川吉助君
○清酒弐樽　醤油十樽　四多摩郡小骨木村字黒澤八五九番地　柳田幸助君
○金二百五十圓　南葛飾郡亀戸町三八二一番地　田崎長國君
○金十五圓　荏原郡品川町字南品川町廿五番地　宮川重吉君
●金五千圓　同郡大崎村字下大崎俠盟電新八八六　池田詮政君
●金四百六十圓　同郡北品川町字長者町二百五十七番地　波邊又兵衛君
○金千　圓　豊多摩郡澁谷村字神電新一、六五〇　稲葉正縄君
●金五十圓　荏原郡品川町大字北品川宿三百十二番地電新二五一　益田孝君
●金一萬圓　同郡品川毛織株式會社内　臼井喜代松君
●金五十圓　辨天町二丁目十四番地　篠原徳吉君

●金五十圓　荏原郡大崎村大字原木橋　山内政良君
●金二千圓　南葛飾郡砂村大字新山四百番地電話四三三番　鈴木藤三郎君
○角砂糖千六百目　同町四百七十九番地　日本製糖株式會社長　右同君
○金二十四圓九十錢　牛込早稲田鶴巻町大学校長　鳩山和夫君
○金二百十圓　豊多摩郡澁谷町大字角筈町一番地　間々田勘二郎君
○金十　圓　同郡澁谷町十二番地惣代　中川勝能君
○金五十圓　同郡内藤新宿町一丁目廿番地　金子順親君
○金百　圓　荏原郡品川町大字南品川町二百廿二番地惣代　村林彦次郎君
○金廿五圓　南足立郡千住町大字千住中組　鈴木六左衛門君　鈴木勘助君
○金十圓　北豊島郡王子町千住町大字上中組　野口平藏君
○金百　圓　北豊島郡王子町千住町大字上中組　根本喜次郎君
○金百十八圓卅三錢　南足立郡大谷口村字堤外四百二番地　山岸寛太郎君
○金十　圓　大島新島村六番地　篠原健藏君
○金二百　圓　四多摩郡氷川村一四一番地　木村源兵衛君
○金二　圓　同郡日野町二七一一番地下宿青木繁吉下二千足　中島四郎君
○羊毛枕　北豊島郡字柳田日本メリヤス製造會社長　和田元右衛門君
○金廿一圓　荏原郡品川町歩行新宿島崎樓内　豊田ヤス君
○金二十四圓九十錢　同郡同町南六百八十番地　酒井外廿二人　小野瀬八五郎君　山本重輿君
○金百　圓　同町南品川宿三百廿八番地
○金十　圓　同上六百八十番地　高松錄太郎君
○金十　圓　同郡世田ヶ谷村三宿八十四番地　小田切泰作君
○金廿　五圓　同郡品川町南品川宿四十五番地　宮川正太郎君
○金十　圓　同上北二百廿八番地　河北あい君
○梅干十六樽　北多摩郡東村山村久米川十五番地青年會總代　志村宗重君
○金十　圓　北豊島郡岩淵町大字神谷百五番地　柏原寅吉君
○金十　圓　南多摩郡山野村大字四良沼三二番地　栗原龜吉君
○金十　圓　同郡山木村東中野百四十三番地　實業青年會總代　井上連一君
○金五百八十五圓五十一錢　北豊島郡王子村二百廿九番地及職工惣代　宮部久君
○金二十　圓　豊多摩郡野方村大字新井五番地　崔寺庄太郎君
○梅干十樽　北豊島郡瀧ノ川村字川端三六三番地　廣瀬賢信君

○ハンカチーフ一百打　豊多摩郡澁谷村常磐松御料地内帝國婦人協會　下田歌子君
○金五十二圓廿五錢　同郡代々幡村大字代々木村七〇番地　有志惣代　秋山角次郎君
○金十七圓廿四錢　同郡澁谷村字廣尾町六十一番地　電新八九九　磯野湲君
○金三十圓　同郡大久保村東大久保廿四番地　新山唯楠君
○金十圓　北豊多摩郡大泉村大字小榑尭二番地　鈴木理君
○金廿五圓　同郡巣鴨村字宮仲　月見覺了君
○踏下百五十足　同郡同村六六六番地明治女學校生徒代表者　櫻島たす子君　玉生かよ子君
○金二十一圓廿五錢　八王子町馬乘町五七番地金光教會長　増田誠之君
○金廿五圓　南葛飾郡小岩村大字下小岩三〇七六七番地　杉浦政次郎君
○金廿五圓　同郡同村三〇〇九番地　杉浦晋次郎君
○金百六十八圓六十五錢　向島鐘ヶ淵紡績會社内有志惣代　藤正純君
○金二十圓　同上内　高木九三君
○金十圓　同上内　依田竹三郎君
○金十圓　同上内　望月榮作君
○金百八十四圓六十錢　東葛飾郡龜戸村東京モスリン紡績會社内　女工一同君

○金廿五圓　北豊島郡巣鴨村眞宗東京中學制心會々長　吉田賢龍君
○梅干三樽　南多摩郡忠生村圖師一八四〇番地　深澤小右衛門君
○巻軸綳帶四千五百巻　荏原郡入新井村一四九四番地華族　子爵夫人　加納鐙子君
▲金五百圓　北豊島郡日暮里村元金杉百三十四番地子爵　牧野忠篤君
△金百圓　北葛飾郡八木郷村大字市助　大塚重寛君
△金百圓　同上大字横　篠田喜平君

京都府

○金四十圓廿五錢　加佐郡倉梯村字北吸百四十六人惣代　山崎彌作君
○金千圓　下京區寺町通四條下ル貞安前町十五番戸株式仲買人　曾野作太郎君
○金五十圓　加佐郡舞鶴町字北田邊百五十二番戸　佐谷省一君
○金二十圓　上京區武者小路通新町西入西無車小路町惣代　伊佐義圓君
○金十八圓　何鹿郡東八田村字於與岐區代表者　野瀬井石松君
○金十五圓　同上字梅迫區代表者　澤田久米藏君
○金六十圓三十五錢　京都株式取引所惣代　伊藤直四郎君

○金百十三圓十五錢　加佐郡倉梯村小林孝二郎外二百廿七人　西村彌十郎君
○金十一圓廿五錢　丹後加佐郡由良村濱路青年會惣代　中西岩藏君
▲金十圓　南桑田郡千代川村大字高野林青年會代表者　長谷川忠次郎君
○金十圓　五條郵便局集配人　高田甲子郎君　酒井千之助君
○金十五圓　葛野郡花園村惣代　岡田瓦之助君　津田米三郎君
○金二十五圓五十錢　下京區柿本町一番戸日蓮宗本國寺　旭日苗君
○金十圓　加佐郡高野村字高野由里二十番戸惣代　嘉門喜藏君
○金十圓　同上字女布六十八番戸惣代　村尾茂吉君
○金百九十六圓七十錢　竹野郡淺茂川村字淺茂川百六十番戸惣代　野村市五郎君
○金三十八圓五錢　同上字小濱五百十三番戸惣代　谷口儀兵衛君
○金十一圓　上京區東竹屋町川端東入新烏丸通二條上ル惣代　金子莊太郎君
○金六百圓　下京區先斗町遊廓營業者惣代　大西淺二郎君　寺本勝二郎君
○金六十圓　下京區室町通蛸藥師下ル山伏町三十三番戸惣代　藤井善七君
○金四百一圓六錢　同區高倉通六角下ル廿二番戸　京都木綿商組合惣代　中田與兵衛君
○金百六十八圓十五錢　北桑田郡黒田村大字下黒田惣代　宮種登山君　朝日榮道君

○金六十五圓　上京區元三十二組東丸太町惣代餘部　山本直七君
○金百四十六圓十四錢　加佐郡餘部町餘部下四丁目六番戸　舞鶴海軍工廠造兵部職工二七七人惣代　會津彌五郎君
○金十七圓五十錢　上京區間之町通丸太町下ル大津町二番戸代表者　田中恒君
○金十圓　加佐郡高野村字野村寺廿八番戸惣代　岩見松藏君
○金十五圓　同上字城屋四十一番戸同區惣代　坂根初藏君
○金十圓八十錢　何鹿郡東八田村安國寺區代表者　渡邊幸三郎君
○金十圓　久世郡小倉尋常小學校惣代校長　内田成美君
○金百圓　七條本町東入四ノ門町中　今西和三郎君
○金百圓　西石垣四條上ル　松井新七君
○金百圓　二條南入　木村卯兵衛君
○金一萬圓　上京區丸太町韓國人　季祥憲君
○金五百圓　京都婦人慈善教會長　大谷枝子君
○金五百圓　東洞院六角南入　河本庄兵衛君
○金三百圓　烏丸綾小路上ル　田中彌一君
○金二百圓　高倉通竹屋町上ル　井上麟吉君

○金百圓　今出川大宮東入上ル　八木寅之助君
○金百圓　高倉通五條上ル　鈴木金二郎君
○金百圓　三條通鉄屋町四入　田中庄太郎君
○金百圓　四條新町四入　田中文次郎君
○金百十圓　三條通鉄屋町押小路上ル澤文旅宿一同　澤田ぎん君
▲金百圓　五條通東洞院四入祝儀小袖箱　高木彦七君
○金五十圓　烏丸通松原下ル　安村千代藏君
○金十圓　丸太町通寺町東入　中川要助君
○金百圓　上京區寺町押小路上ル　福田淺二郎君
○金百圓　下京區新町通蛸薬師下ル　堀井音二郎君
○金百圓　同七條通油小路東入　田中喜右衛門君
○金一萬圓　寺町二條南入　山田啓助君
○金千圓　御幸町三條上ル　大浦新太郎君
○金百圓　今出川堀川四入四船橋町總代　川邊彌七君
○金五十圓　紀伊郡柳原町五十七番戸　井上榮之助君
○金三十圓　三條通猪熊西入御供町二番戸　牧野平太郎君
○金三十圓　南桑田郡保津村字北條同志學舍生年代表者　木金次郎君　木松之助君
○金三十圓　新町通今出川下ル德大寺殿町三番戸　田中長兵衛君
○金百圓　西之町五條下ル　友田吉太郎君
○金百圓　加佐郡志樂村龍宮新地貸座敷十七軒總代　木崎幸助君
○金百圓　寺町佛光寺北入　近藤仁兵衛君
○金五十圓　加佐郡岡田下村字四德寺　谷口吉郎兵衛君
○金五十圓　伏見街道筋五條上ル紺下町　辻井甚兵衛君
○金五十圓　木屋町通佛光寺橋東入　杉山吉之助君
○金五十圓　七條通新町東入　野崎伊之助君
○金五十圓　御車通扇小路上ル　小林瀧之助君
○金五十圓　河原町通石藥師下ル　今西嘉兵衛君
○金五十圓　寺町今出川下ル扇町　葛西恆七君
○金五十圓　同上三番戸　河原安太郎君
○金五十圓　烏丸二條南入　林藤兵衛君

○金五十圓　山科村字四野　吉井元次郎君
○金十圓　興聖郡栗田村字脇　井上治兵衛君
○金五十圓　丸太町川端東入　澤谷民鶴君
○金十圓　岡崎町押小路下ル　藤川秀三郎君
○金十圓　上長者町通室町四　古谷平太君
○金十圓　葛野郡梅津村字東梅津　小山彌平君
○金十圓　紀伊郡柳原町　唐瀧庄三郎君
○金十圓　興聖郡宮津町字京口　楠本勇太郎君
○金十圓　同郡字萬町　今林仲藏君
○金十五圓　乙訓郡大原野字石作　城戸善五郎君
○金十圓　紀伊郡柳原町字七條　木村歌吉君
○金十圓　興聖郡栗田村字脇　井上信次郎君
○金十圓　乙訓郡大字長法寺　佐藤岡太郎君
○金十圓　京都市　愛輪會君
○金十圓　加佐郡丸八江村字足立　田中京藏君
○金十五圓　新町通鞍馬口下ル東入　小關與三郎君
○金十圓　天田郡雀部村字川北　鹽見彌作君
○金二十四圓八十五錢　七條通新町東入東町總代　寺島喜三郎君
○金十圓　新町通五條下ル　別所源太郎君
○金十圓　宮川筋四丁目　木村梃君
○金十圓　五條橋東入　森川久吉君
○金十圓　丸太町通富小路東入　淺川伊助君
○金十圓　紀伊郡柳原町　岸田直藏君
○金四十二圓　丹後與謝郡平港海軍經理部衣糧部總代　渡邊熊藏君
○金十圓　綴喜郡田邊村字新總代　河村辰造君
○金十一圓　同上字河原三十七番戸總代　西村力之助君
○金十圓　加佐郡中筋村字倉五十一　後野吉藏君
○金十圓　熊野郡上佐野村字佐野青年團總代　小國淺平君
○金二十圓　元紫顯寺通大宮西入元妙蓮寺町　岡本孝次郎君

○金四十圓卅錢 竹野郡淺茂川村字下岡壹番戸惣代 山本磯五郎君
○金十圓 下京區若宮通松原下ル亀屋町壱番戸 原太三郎君
○金千圓 同區御幸町三條下ル海老町廿九番戸 上河トミ君
○金五百圓 新橋縄手東入ル橋本町 加藤ウタ君
○金五十圓 寺町通石薬師 福知棟次郎君
○金二十圓 烏丸五條 木下智貞君
○金五十圓 下京區六角東洞院東入 高間利三郎君
○金五十圓 上京區東洞院姉小路北入 竹内彦七君
○金五十圓 下京區東洞院四條南入 外村萬之助君
○金五十圓 乙訓郡乙訓村字今里 正木安右衛門君
○金五十圓 上京區西堀川椹木町上ル長屋町三十番戸 鳴海力松君
○金三十圓 四條西洞院西入 大久保政二郎君
○金五十圓 御幸町通竹屋町上ル 立川逹吉君
○金五十圓 上京區猪熊通中立賣南入二丁目第六番 川那邊仁兵衛君
○金五十圓 同區同町上長者町上ル猪熊一丁目十九番戸 木村宇佐藏君

○金五十圓 同區烏丸通丸太町下ル大倉町 中川伊兵衛君
○金八百八拾八圓七十三錢 下京區蛸薬師高倉東入二十二番戸 京都木綿組合京盛會家族店員有志者惣代 前川彌助君
○金十五圓五十五錢 高倉六角下ル清水之助建築所出張所惣代 山本千代松君 外三百五十六人
○金十圓 葛野郡久奘谷村字栃谷惣代 田中梅吉君 外二人
○金二十五圓 下京區六波羅通松原下ル轆轤町五十二番戸 松原部理髪業組合
○金十圓 綴喜郡多賀村二九六番戸惣代 平間徳三郎君
○金十圓 愛宕郡野呂村九十二番戸代表者 増田喜兵衛君
○金卅圓 與謝郡宮津町字漁師七十四番戸代表者 栗田辰助君
○金三十圓 綴喜郡宇治田原村字岩山 壯年義會代表者 細谷兵太郎君
○金十二圓 加佐郡河守上村字二俣惣代 佐古田滿之助君
○金三百圓 下京區問屋町通正面上ル鍵屋町四八五番戸 津川アサ君
○金五十圓 加佐郡舞鶴町字竹屋百廿七番戸 佐々木玄兵衛君
○金三十圓 同上字木町四十番戸 堀江萬吉君
○金廿五圓 同郡池内村字三六六番戸天理教師 櫻井周吉君
○金五百圓 東洞院通御池上ル船屋町十番戸 塚本宇た君

○金十圓 加佐郡中筋町字成倉惣代 坂根亀吉君
○金五十圓 蛸薬師烏丸西入 平井仁兵衛君
○金十圓 佐加郡舞鶴町字北田邊四番戸 秋田とら君
○金六十五圓 上京區元三十二組東丸太町惣代 松永清四郎君
○金十六圓卅弐錢 何鹿郡東八田村字梅迫三十一番戸青年親友社惣代 梅垣友次郎君
○金十五圓卅錢 南桑田郡亀岡町字余部 宇野庄太郎君
○金二十圓 馬町通大和大路東入下新之町 村井藤二郎君
○金五十圓 下京區油小路六角下ル代表者 村田源助君 桂甚助君
○金百圓 紀伊郡東九條村鑓請製造所 濱口富三郎君
○金十一圓 同郡堀内村字堀内小字江戸町實圓寺尼講惣代 吉村カメ君
○金十圓 綴喜郡大住村字大住二十二番戸 山村ミサヲ君
○金十二圓 同上青年者惣代 山村重藏君
○金十三圓 上京區黒門通元誓願寺南入 毘沙門町七番戸惣代 小林貞助君
○金二百圓 同區室町通今出川上ル岡松町三 愛宕郡大宮村字雲林院四 持明院久子君 久世三千子君
○金十一圓五十錢 北桑田郡山國村字井戸二十番戸惣代 岡崎キシ君

○金十五圓六十錢 加佐郡東雲村字水間四十二番戸青年義會惣代 荒木佐喜智君
○金七十二圓十五錢 京都府立第三中學校生徒惣代 橋垣政治君
○清酒一百樽 紀伊郡伏見町伏見酒造組合長(自宅向島村橋詰廿一) 北川三右衛門君
○製圖用箱入繪具三百箱 烏丸通三條下ル餅屋町廿九番戸 石田吉作君
○金十圓 綴喜郡草内村字草内百廿二番戸 谷村奈良藏君
○金二十圓 船井郡八木村小字鹿草五十五番戸 阪部秀之輔君
○金十七圓七十五錢 何鹿郡中筋村字延南部代表者 上原爲藏君
○金三十四圓八十錢 下京區寺町通錦上ル十四番戸報國會代表者 碁部多三郎君 笠渓豐治郎君
○金十圓六十錢 綴喜郡普賢寺村大字水取惣代 小橋岩太郎君
○金三百六十八圓 下京區寺町通四條南入貞安前町神宮奉齋會長惣代 篠田時化雄君
○金三十七圓 竹野郡網野町字網野十三番戸惣代 吉岡梅次君 外三人
○梅干一石 與謝郡加悦町字加悦町百番戸青年夜學會長 細川龍仙君
○塵紙二萬四千枚 加佐郡舞鶴町字木村六十六番戸 村田繁吉君
○日本酒四合入瓶四十八本 同東舞鶴町字北吸七七五番戸 竹野リカ君
○手拭五百筋 下京區先斗町通四條上ル鍋屋町四十五番戸 山田榮四君

○金三十圓 下京區五條通烏丸四入醒醐町 平井儀兵衛君
○金三十圓 同上 山崎文平君
○金二十圓 同上 伴庄兵衛君
○金二十圓 同上 桐畑佐兵衛君
○金三十圓 同上 福島龜次郎君
○金五十圓 同新町通五條下ル蛭子町 太田久七君
○金二十圓 同上 齋藤治郎兵衛君
○金五十圓 同若宮通魚棚上ル若宮町 木村久兵衛君
○金十圓 船井郡世木村字殿田口ノ谷八番戸 大槻諦眼君
○金五十圓 同四條中筋村字觀音寺七十番戸勤八等 鹽見文吉君
○金卅四圓五十錢 加佐郡與保呂村寄留惣代 木下平藏君
○金卅圓 下京區寺町通佛光寺北入中之町五百五十五番拾同元吉町十四番戸 近藤仁兵衛君
○金百廿八圓三十錢 綴喜郡井手村四六九番戸惣代 竹中仙太郎君
○金十五圓 下京區綾小路通東洞院東入神明町二四一番戸惣代 木村武右衛門君
○金十圓 下京區松原通堀川四入北門前町七十六番戸 西岡喜一君
○金十圓 下京區五條通烏丸東入松原町四二七番戸 知交會惣代 安永萬次郎君
○金十圓八十錢 加佐郡舞鶴町鎭海岸女工惣代 結城カメノ君
○金廿五圓 同上 今井直吉君
○金十五圓五十錢 同上 大村長之進君
○金十圓 上京區新烏丸頭町四十二番戸 後藤新三郎君
○金十圓 衣棚通姉小路下ル長浜町百卅番戸 木村卯之助君
○金十圓 室町通下立賣勘解小路町廿番戸 佐竹鴻洲君
○金十圓五十錢 綴喜郡井手村大字井手二番戸惣代 八幡禪我君
○金七十五圓 河原通蛸藥師南入醒屋町三一番戸 南川與三郎君
○金廿圓 宇治郡槇島村字醒ヶ井一七二番戸 北村秀彥君
○卷軸綢帶二千二百五十卷 府立高等女學校生徒惣代 藤本ヤス君
○綢帶千七百七十卷 下京區堀川通花屋町南入伯爵大谷光瑞師夫人 大谷籌子君
○卷軸綢帶二百卷 上京區四堀川通元誓願寺上ル聖門前町八番戸 日本赤十字社支部惣代 村雲日榮君
○白木綿卷軸五百七十六卷同綢八百四十六卷同綢帶卷千七百六十四卷 元法然寺町三十二番戸惣代 大谷枝子君
○梅干百五貫目 上京區堀川通花屋町下ル 有志惣代勤八等 非口巳之助君
○手拭一千筋 東洞院通松原北入愛宕郡上賀茂村四百七番戸婦人合惣代 豐岡合惣代 中町常七君
○卷軸綢帶五十卷 加佐郡池内村字今田常年代表者 北大路瀧子君

○梅干十二樽 綴喜郡八幡町字岸本惣代 河原崎文次君
○梅干二斗樽五本 乙訓郡久我村廿二番戸 鹿野市太郎君
○手拭五十反 下京區綾小路通東洞院東入神明町二四一番戸惣代 傳燈婦人會惣代 橋本コト君
○梅干卅五貫目 久世郡大久保村字大久保 田中健藏君
○脫脂綿紗二百反 天田郡福知山町字上紺屋三十三番戸 北岡金之助君
○手拭五千筋 蛸薬師通河原町東入備前島町一 中川淳一君
○金五十圓 東洞院三條上ル二番戸 中村武兵衛君
○金七十四圓八十五錢 竹野郡網野町字網野五十一番戸 有志惣代 坂田清藏君
○金十圓 下京區新町通五條下ル蛭子町 天野ミネ君
○金十圓 同上 竹村タカ君
○金十圓 同上 片山正中君
○金十圓 同上 齋藤チク君
○金十圓 同上 非上卯兵衛君
○金十圓 同上 前田平兵衛君
○金十圓 同上 井上八太郎君
○金十圓 同不明門通五條下ル上平野町 中川藤太郎君
○金二十圓 下京區五條通烏丸四入醒醐町 溝口新兵衛君
○金廿圓 同上 梅村宗七君
○金二十圓 同上 大橋彌一郎君
○金二十圓 同上 八木清八君
○金二十圓 同上 鎌田網吉君
○金廿圓 同上 林甚三郎君
○金十圓 同上 中小路喜兵衛君
○金廿一圓 同上 横田位三郎君
○金十圓 同鍵屋町通烏丸四入 村上薰一君
○金廿圓廿五錢 加佐郡池内村字今田常年代表者 森本治三郎君
○金廿圓八十錢 京都區裁判所檢事局惣代裁判書記 平川三郎八君
○金千五百圓 下京區醒醐町二百六十九番地 湯淺タケ君
○金十圓 久世郡寺田村字寺田百廿八番戶長光寺觀音寺惣代 竹村莊五郎君
○卷軸帶三百◎二卷 竹野郡島津村字島 婦人有志者惣代 曾根勝子君
○梅干二百五十貫目 綴喜郡尚島村字橋本十七番戶同上十五番戶 小林忠兵衛君 田村辰之助君
◎手拭二萬節 上京區堀川通上長者町上ル椹町入番戶 川橋鐵之助君

○金廿九圓十七錢五厘　紀伊郡向島村字中之町十三拾戸尼講代表者　南庄太郎君　寺田彌三郎君

○金五十圓　南禪寺町永觀堂前　山內幸子君

○金廿一圓六十錢　綴喜郡宇治田原村字立川田原雛人會長　林幸太郎君

○金十九圓七十錢　久世郡宇治郷實泉宗認可證堂結良代表者　鷲嶺天秀君

○金卅五圓　綴喜郡有智郷村字內里二七番戸總代　北村治千代君

○郵便はがき二萬○四百卅枚　那珂郡峯山町長總代　寺田惣右衛門君

○金十五圓　京區柳馬場通四條下ル相之町一二　加藤半兵衛君

▲金二十圓　山城國葛野郡梅津村字東梅津　松本捨吉君

△金廿五圓　奉公義會代表者會長　柴田亮君

○金四十二圓三十九錢　與謝郡栗田村字中村

大坂府

○金十五圓　三島郡高槻町百廿三番屋敷　山下梅丸君

○金十四圓　同上百三十二番屋敷　谷村五郎君

○金十五圓　東區平野町二丁五十二番屋敷　木下武兵衛君

○金三圓　堺市堺寺常中學校總代　石川彌太郎君

○金百圓　北區堂島濱町一丁目　永井治助君

○金四百圓　北區曾根崎新地遊廓取締　日生元三郎君

△金五千圓　西區新町通四丁目三百廿番屋敷　西村和平君

○金十圓十二錢　南河內郡野田村南野田青年會總代　田中常藏君

○金二百七十六圓八○金二百四十五錢△金千圓　四區第二高等小學校生徒職員總代　土岐達君

○金二十八圓四十三錢五厘　南區高津町高津尋常小學校生徒總代　石田重太郎君

○金四十七圓廿五錢　泉南郡岸和田町貳宗御寺信徒總代　藤田藤次郎君

○金廿二圓　南區高津町尋常小學校生徒總代　石本喜久治君

○金十圓　泉南郡岸和田町新植木安次郎君　加藤半兵衛君

○金廿一圓四十錢　中河內郡八尾寺常高等小學校生徒總代　宗形文江君

○清酒十樽　南河內郡道明寺村大字澤田三十五番屋敷　高橋吉太郎君　野上藏君

○清酒百樽　三島郡吹田村八百六番屋敷大坂參酒株式會社々長　宅德平君

○麥酒二十石　東區南木町一丁目九十一番屋敷　烏井駒吉君

○金廿圓　同上一番屋敷　葛谷谷五郎君

○金百圓　北區曾根崎町廿四番屋敷　横谷甚吉君

○金五百圓　東區南久太郎町二丁目百十番屋敷　伊東九兵衛君

○金百圓　同區南久寶寺町二丁目廿四番屋敷　中川武之助君

○金十八圓四十錢　同區大江尋常小學校職員代表者　佐々木虎之助君

○金五十圓　同區博勞町二丁目百廿五番屋敷　佐野彌助君

○金十四圓廿五錢　同區第一高等手藝學校生徒總代　岡村增太郎君

○金貳百五十五圓五十五錢　同區第一高等小學校生徒總代　右同君

○金十圓　同區北渡邊町第五十四　飯田清二郎君

○金百圓　同區燈小路番外三番地大坂府民婦人慈善會總代　小川千代子君

○金十圓　南區雛波四乎町一〇二三番屋敷　松本政次郎君

○金十圓　中河內郡三木本町大字北木本廿番屋敷寄年會總代　森本善藏君

○金十圓　南區雛波芦原町十二番屋敷　玉島市松君

○金千圓　東區今橋四丁目七番屋敷日本生命保險社會有志總代　片岡直溫君

○金百圓　北區堂島濱通四丁目　深澤五三九君

○晒木綿三十反　四區伸ノ町二丁目廿三番屋敷　植木次郎兵衛君

○千金丹壹千袋　南區高津五番町三六七番屋敷　吉田岩吉君

○千金丹壹千袋　同區下寺町四丁目四五八六番屋敷　横拓直治君

○千金丹壹千袋　同上三丁目一、四八五番屋敷　松下覺誠君

○金千圓　南五花街甲組遊廓事務所取締　安部彌七郎君

○金五十圓　大坂府立四條畷中學校々長　服部一二君

○金四十圓　同上校員　牧田宗太郎君

○金三十圓　同上　池上幸次郎君

○金五十圓　北區堂島濱町一丁目　清水久助君

○金百圓　堺市甲組町甲十番屋敷英學校總代　尼崎伊三郎君

○金八十四圓十錢　四區靭中通三丁目大坂尼和仲買人總代　菅田竹二郎君

○金十圓　百五十七番屋敷大坂府立四條畷中學校　荻野瓦藏君　和田梓三君

○金十六圓　同區南久寶寺町二丁目廿四番屋敷　加仲永次郎君

○金十圓　南區木津敷津村五百十七番屋敷　前田千代吉君

○澤庵三十樽　泉北郡大津村大字多大澤六十八　溫谷寢次郎君　簑野宇野松君

○梅干參樽　泉北郡大津村大字多大澤六十八　岸本市松君

○金百　圓　北區相生町　植田彌三郎君
○金十　圓　同伏見町三丁目　伏見助七君
○金十　圓　同安土町四丁目　大崎代吉君
○金十　圓　同道修町三丁目　西喜兵衛君
○金十　圓　同伏見町四丁目　室田卯吉君
○金十　圓　同元伊勢町　林宗親君
○金十　圓　同常磐町一丁目　米田由松君
○金十　圓　四區四道頓堀三丁目洋銀組合總代　藤井卯兵衛君　津田勝五郎君
○金百　圓　同區土佐堀二丁目　鈴木馬左也君
○金四十　圓　同靱上通二丁　秦新藏君
○金四十　圓　同上　奥村松次郎君
○金十五圓八十錢　大坂紡絖株式會社織物部男女工總代　久野勝君
○金廿　圓　京町堀通一丁目　山西玄兵衛君
○金十五　圓　靱中通二丁目　片山田中君
○金十五　圓　江戸堀上通二丁目　田中治助君

○金十　圓　西區南堀江通一丁目　大森定次郎君
○金百　圓　東區高麗橋五丁目　眞島庄三郎君
●金貳萬　圓　北區網島町九番屋敷　藤田傳三郎君
●金貳萬　圓　東區今橋町二丁目五十五番屋敷　鴻池善右衛門君
●金一萬　圓　四區江戸堀上通二丁目　上野與吉君
▲金三千　圓　東區高麗橋五丁目九番屋敷　島德二郎君
▲金二千　圓　南區長堀橋筋一丁目　豐田宇右衛門君
○金五百　圓　東區道修町一丁目　林瀧太郎君
○金千五百　圓　同區平野町四丁目　竹原友三郎君
○金貳千　圓　同區平野町四丁目　泉岡惣助君
○金千　圓　北區安治川通二丁目　岡島伊八君
○金五百　圓　東區唐物町四番屋敷　飯島定助君
○金五百　圓　同區高麗橋詰町　五島德藏君
●金五千　圓　南區鰻谷東之町百廿六番屋敷　住友吉右衛門君
●金三萬　圓　同區綿屋町一丁目　伊庭貞剛君

○金十　圓　東區江堀北通三丁目　米永伊三郎君
○金十　圓　同靱南通三丁目　中島太助君
○金五千　圓　南區安堂寺町橋通三丁目　山中直七君
▲金千　圓　同區波新地三番町三二九番屋敷　戸田猶七君
△金千　圓　同區備後町二丁目　田中虎吉君
○金五百　圓　同上演劇乙部事務所　鹿沼文助君
○金五百　圓　同區木津北島町一丁目　安田源三郎君
○金五百　圓　同順慶町通四丁目　釜下嘉兵衛君
○金貳百　圓　同上　伊藤音松君
○金二百　圓　同安堂寺町二丁目　內田秀治君
○金二百　圓　同燈屋町　柴田げん君
○金百　圓　東區今橋五丁目　鎌田武兵衛君
○金五十　圓　同天王寺悲田院町　殿田伊太郎君
○金五百　圓　同北久太郎町四丁目　北出作二郎君
○金五百　圓　北區仲之島四丁目　高井說三君
○金五百　圓　西區江戸堀北通二丁目　武田貞之助君

○金十　圓　東區淡路町二丁目　野口茂平君
○金百　圓　同區北久寶寺町四丁目　澁谷央春君
○金百　圓　同區南久寶寺町四丁目　松山與兵衛君
○金百　圓　同備後町二丁目　戸田猶七君
○金百　圓　同唐物町二丁目　鹿沼文助君
○金五十　圓　同伏見町四丁目　安田源三郎君
○金六十　圓　同安土町三丁目　中島音二郎君　同ツル君
○金五十　圓　同上本町二丁目　爲村佐一郎君
○金五十　圓　同南久寶寺町二丁目　飯田繁君
○金三十　圓　同安土町四丁目　中原常太郎君
○金七十　圓　同和泉町一丁目　石田常右衛門君
○金廿　圓　同上難波南町　奥村源助君
○金二十　圓　同上　岡崎才二郎君
○金十　圓　同北久太郎町四丁目五十三番屋敷　福田六次郎君
○金十　圓　同高麗橋詰町　西川半兵衛君

○金四百七十圓　四區西長堀南通四丁目　辰馬圭助君
○金三百圓　東區馬喰町三丁目　柴崎彌三郎君
○金三百圓　西區立賣堀北通六丁目　大西爲助君
○金貳百圓　東區住吉町　西浦又兵衛君
○金貳百圓　西區立賣堀南通六丁目　梶田九藏君
○金貳百圓　同上一丁目　多田市次郎君
○金貳百圓　江戸堀北通二丁目　島定次郎君
○金百八十圓　東區安土町四丁目　中村市太郎君
○金百三十圓　西區阿波座下通一丁目　古川重助君
○金百五十圓　同江戸堀下通二丁目　前田時藏君
○金百圓　同新町通一丁目　木下卯之松君
▲金百圓　同薩摩堀北之丁　山田良之助君
△金一萬圓　呉服雜貨商　長岡卯兵衛君
○金百圓　同區南堀江上通三丁目　植木次郎兵衛君
○金百圓　同靱中通一丁目　安田爲一君
△金千圓　西區川口町清國人　孫陰君
○金百六十圓　東區北久寶寺町四丁目惣代　淺尾幸太郎君　外五人
○金百圓　北區曾根崎上四丁目　志水半三郎君
○金百圓　東區南久寶寺町一丁目　高橋重太郎君
○金百圓　北區源藏町　大谷幾太郎君
○金百圓　北區富田町　犬養嘉右門君
○金百圓　南區燈屋町　柴田つね君
○金百圓　同天王寺逢坂上町　山田俊郷君
○金百圓　東區南木町三丁目　改發彌兵衛君
○金百圓　同區石町三丁目　湯川福太郎君
○金三百圓　大坂市立高等商業學校　生徒一同君
○金四十圓　南區內安堂寺町二丁目　非上平兵衛君
○金三十圓　同區難波元町二丁目　三輪榮助君
○金百圓　西區梅元町　內貴元次郎君
○金十圓　呉南郡治野村　大木秀太郎君

○金百圓　四區阿波座上通三丁目　韮田久右衛門君
○金五十圓　同區北堀江下通二丁目　豊田はる君
○金十圓　第三盆進高等學校內　加藤もと君　外二人
○金十五圓　南區九郎右衛門町　てばや淀八君
○金十五圓　東區北久寶寺町三丁目　黒門智現君
○金十圓　南區燈屋町　丸山喜一郎君
○金百圓　東區淡路町二丁目　山添哲之助君
○金五百圓　同區大手通一丁目四番屋敷　波邊庄助君
○金三百圓　同區今橋二丁目一番屋敷　高谷恒太助君
○金五十圓　四區南堀江一番町　木村巳之助君
○金五十圓　同區立賣堀北通　淮田勝五郎君
○金廿圓　豊能郡止止呂美村　上田熊太郎君
○金廿圓　北區上福島町一丁目一九四一　辻本善二郎君
○金二十圓　南區除村大字鞍作　丸井榮助君
○手拭二千二百筋　同區安治川通南一丁目一三六惣代　小林宣利君
○金二十圓　三島郡味舌村大字味舌上惣代　辻定吉君
○金百圓　北區堂島通一丁目十六　夕田芳太郎君
○金十圓　三島郡豊川村大字道祖本ノ內西町代　川村巳之助君
○金廿五圓六十錢　中河內郡八尾當村　池田智君
○金十圓　北區中之島六丁目一一八　岡林秀胤君
○金五十圓　同區相生町四十三番屋敷　奥村安次郎君
○金五十圓　南區本橋筋二丁目　野口忠兵衛君
○金三十圓　三島郡茨木町消防組合頭取　山川勢吉君　外三十二人
○金十圓　南區釣鐘町一丁目　天滿うた君
○金百圓　堺市甲斐町東一丁　鐵谷利運君
○金五十圓　南區今橋五丁目　松園寛君
○金四十六圓廿五錢　四大尋常小學校幼稚園惣代　村上袈吉君
○金廿四圓十三錢五厘　四區江戸堀北通一丁目十一　門倉保君
○金十圓　北河內郡加美村大字鞍作　和田元次郎君
○金十五圓　皇南郡南福除村大字尼生三百五番屋數四十四人惣代　樋口福松君　外四名
○金十圓　豊能郡北豊島村大字北今在家　橋川伊三郎君　外一名　滝谷松太郎君
○金十八圓

○金廿八圓　西區立賣堀南通四丁目第一高等小學校惣代
○金五十錢
○金百廿九圓九十五錢　大坂市廳秘書常小學校長惣代

○金百　圓　西區江戸堀下通四丁目　三宅フジ君
○金廿　圓　堺市龍神橋通二丁目扇屋花樓　菱谷ハナ君
○金五十圓　同上　高田屋　高田フサ君
○金五十圓　東區高麗橋五丁目　島ハテ君　島イナ君
○金二十圓　同區木町二丁目　松尾藤助君
○金百　十圓　同區安土町二丁目　木原忠兵衛君
○金百　十圓　南區疊屋町　泉谷源七君
○金五十圓　西區土佐堀五丁目　中島幾三郎君
○金五十圓　同區御靈跡町　大谷シゲ君
○金百　圓　同區安堂寺橋通二丁目　岩崎利兵衛君
○金六十圓　同區南久寶寺町一丁目　岩崎ヨネ君
○金十　圓　東區粉川町　西田萬吉君
○金二十圓　同靱南通二丁目　渡邊九兵衛君

○金五　十圓　東區博勞町二丁目　小西湖之助君
○金五　十圓　南區心齋橋北詰東入播半　乾由之助君
○金廿　圓　堺市龍神町松平樓　八木天留君
○金廿　圓　西濱中通三丁目　尾野敬三君
▲金千
○金百　圓　東區本町二丁目　田附政二郎君
○金三　百圓　泉北郡東陶器村　兒山養守君
○金五　十圓　京町堀通二丁目　山田彦兵衛君
○金五　十圓　同上　藤田善兵衛君
○金五　十圓　江戸堀北通三丁目　河野清助君
○金三　十圓　東區大手町二丁目　宇野良造君
○金六　十圓　同靱下通二丁目　吉川藤兵衛君　吉川藤市君　坂上新次郎君
○金二千二百圓　大坂株式取引所理事長
○金千　百　圓　同堂島濱通二丁目　濱崎永三郎君
○金千　百　圓　南米町二丁目　芝田太吉君
○金百　圓　東區道修町二丁目　平地源四郎君

○金百　圓　東區平野町四丁目　竹原トク君
○金百　圓　同濱路町二丁目合名組　日野藥館君
○金二　十圓　大坂株式取引所　岡部鶴太郎君
○百廿八圓五十九錢五厘　同區四清水町御津幕常學校惣代・同區中之島四丁目四十三番邸　美濃幸太郎君
○金十　圓　同區心齋橋筋二丁目六十一　木村傳兵衛君
○金十　圓　同下寺町二丁目一四二二　前田隆徹君
○金五　十圓　同玉屋町二百八十二番屋敷　湯川正三郎君
○金十　圓　同下寺町二丁目一四二三　吉田セイ君
○金三　十圓　北河內郡門眞村大字門眞三八三番地・同郡路村惣代　大西爲三郎君
○金二　百圓　友禪染製造販賣業　岡島千代造君
○金六　十圓　末吉橋通二丁目　坂根武兵衛君
○金二　十圓　伏見町二丁目　不破福透君
○金二　十圓　北濱町二丁目　中村秀五郎君
○金廿　圓　平野町二丁目　橋本アキ君
○金百　圓　天王寺堂ケ芝町　山邊丈夫君

○金百　圓　西區江戸堀上通二丁目　田中金治郎君
○金百　圓　同區逢坂上之町　佐伯通義君
○金二　百圓　堂島濱通一丁目　松代常七君
○金五　十圓　東區唐物町一丁目　宮崎彌三郎君
○金五　十圓　同區高麗橋詰町　橋本竹三君
○金三　十圓　同上五丁目　森鼻宗次君
○金三　百圓　同安堂寺橋通三丁目　鹿尾治兵衛君
○金二　百圓　同木町四丁目　丸三組本店君
○金百　圓　同安土町二丁目　福田桑造君
○金百　圓　西區阿波堀江上通二丁目　川井萬次郎君　川井萬助君　川井忠二郎君
○金百　圓　同上　長谷富次郎君
○金百　圓　東區平野町三丁目　星立安丈君
○金二　百圓　同區靱町三丁目　桂善助君
○金百五十圓　同區土佐堀裏町　山內卯之助君

○金百圓　西區瀬渡町四丁目　中上九二郎君
○金五十圓　同區平野町二丁目　條半兵衛君
○金三百圓　同區安堂寺橋通二丁目　岩本榮藏君
○金百圓　同區北新町二丁目　市村新吉君
○金五十圓　同區江戸堀北通三丁目　岩本六兵衛君
○金五十圓　同上　山田德兵衛君
○金五十圓　同區京町堀通三丁目　三宅恒藏君
○金五十圓　同區江戸堀下通三丁目　辻川半三郎君
○金三十圓　東區本町一丁目　長谷川榮君
○金卅圓　同區島町二丁目　田邊恒子君
○金五百圓　同區平野町一丁目　上野理一君
○金二百圓　泉北郡深井村　升山忠三君
○金百圓　同上　升山フサ君
○金廿圓　北區老松町二丁目　鐵　龍助君
○金十五圓　曾根崎中二丁目　平林秀之進君

○金千五百圓　東區北久太郎町三丁目　黒川幸七君
○金二百圓　同上　黒川リウ君
○金三十圓　同上　黒川コウ君
○金三十圓　同上黒川店員　八尾幸三郎君
○金百五十圓　同區今橋五丁目　中川源藏君
○金三十圓　同上　中川利八郎君
○金五十圓　同區安堂寺橋通二丁目　岩本榮之助君
○金五十圓　同區淡路町五丁目　石田藤一君
○金廿圓　同區安土町四丁目　藤井由兵衛君
○金二十圓　西區北堀江下通四丁目　中尾源三郎君
○金十圓卅錢　泉南郡南近義村大字津田　西出丑太郎君
○金三十圓　北區安治川通上二丁目五番邸　長橋イソ君
○金五十圓　東區瓦町一丁目八十八番屋敷　六島復兵衛君
○ガーゼー六十反　東區備後町二丁目廿五番屋敷　八尾安太郎君
○清酒四合入三千四百本　○同上四合入百壜　堺市甲斐町西三丁目廿八　大塚和三郎君

○金二百圓　△金六百圓　東區北濱五丁目三十七番屋敷　八代祐太郎君
○金十圓　南區西新五屋町十八　關本龜三郎君
○金二十圓　東區久寶寺町一丁目六十一　宮本德二郎君
○金十圓　同區難波南元町四十九　佐藤イツ君
○金廿圓　同區高麗橋一丁目五十九番屋敷　山中德次郎君
○金十圓　同區北濱町三丁目　楠本ヨネ君
○金百圓　同區唐物町一丁目六十四　上田市松君
○金三十圓　同區久太郎町四丁目五十四　杉本ハル君
○金廿圓　同區内本町橋詰町八十九　木本留吉君
○金八十圓　同區安土町四丁目四十二　犬崎代吉君
○金五十圓　同北濱四丁目九十七番屋敷　吉井茂右衛門君
○金四十一圓五十九錢　東成郡鶴橋村大坂府立農學校惣代　鈴木圓吉君　向井官次君
○金三十圓　西區難波新地五番町一五三　藤本奈良菊君
○金二十圓　鹽町通一丁目卅四番邸　松尾政次郎君
△金三千圓　○金百圓　▲金千圓　●金三十圓　南區西濱中通二丁目六百九十五番屋敷　谷坂五兵衛君

○金五十圓　南區南綿屋町二五三　日進宗惣代　蘆田源次郎君
○金十圓　同區東關屋町一、一〇一　惣代　中岡奈良吉君
○金十圓　難波新地二番町一三五　高橋伊兵衛君
○金十圓　同區宗右衛門町卅六　和田ツナ君
○金五十圓　同區難波新地二番町一三二　畝田作二良君
○金三十圓　同區新川二丁目六三八　惣代　平野虎藏君
○金五十圓　同區京町堀通五丁目九十三　東屋菊造君
○金三十圓　同上九十一番屋敷　東屋イマ君
○金三百圓　同上五十一番屋敷　東屋品三君
○金卅圓　同區阿波座上通一丁目九番屋敷　杉義佐久君
○金二百二圓四十二錢　同區江戸堀南通三丁目西區第三等高等小學校惣代　谷口爾太郎君
○金百五十圓　同區新町北通一丁目四十五　杉野民之助君　同　斐フツヱ君
○金十圓　泉南郡岸和田村三六九　浦田榮吉君
○金十圓　西區新町北通一丁目八十六番屋敷　眞田彌兵衛君
○金百圓　同上代表者　眞田彌兵衛君　杉野民之助君

○金十圓　四區新町北通二丁目二百五十二番　岸　信次郎君
○金十二圓　同區江戸堀北通二丁目一四九私立東京商業學校惣代同上本田耶常小學校惣代　東畑民藏君
○金五十八圓二十錢　栗原潔景君
○金十圓　同四道頓堀通四丁目十一　淺井小七君
○金六十圓　同區北通五丁目十五番屋數惣代人　河津喜七君
○金百圓　東區南本町二丁目四番屋數　田中太七郎君
○金十圓　北區末吉町妙福寺惣代　早川日悌君
○金十圓　同平野町四丁目九十五番　大平米七君
○金廿三圓十六錢　東區北久寶寺町三小間物事務所内大坂小間物商組合店員中　義會
○金百圓　同區高麗橋二丁目　加賀正太郎君
○金十圓　同區安土町二丁目　藤田新平君
○千八百圓　四區新町遊廓代表者　加藤定次郎君
○金十圓　東區博勞町四丁目四十五　萬年九平君
○金百圓　北區堂島米穀取引所理事長　廣岡九右衛門君
○金六十圓　南區安堂寺町二丁目九十四番屋敷　山中加吉君

○金十圓　北區堂島中一丁目　小林茂夫君
○金十圓　四區土佐二丁目卅三番屋敷　藤本善助君
○金十一圓卅錢　南區川本橋三丁目十三番屋敷惣代　佐藤淺右衛門君
○金二十圓　四區阿波堀中通一丁目八十五番屋敷　高木コウ君
○金二十圓　同上　高木同店員ジウ君　同君
○金十八圓　東區博勞町四丁目外八人惣代　西田久彌君
○金百圓　北區中之嶋三丁目卅六番屋敷　川原儀六君
○金三十圓　同上　川原關松君
○金十圓　同上　川原覺太郎君
○金十圓　東區備後町二丁目　小杉佐七郎君
○金五十圓　東區大手通二丁目六十五　關根親光君
○金廿五圓　北區堂島中一丁目　松尾鶴男君
○金三十圓　東區道修町五丁目　淺井辰造君
○金百圓　南區天王寺南河堀町　藤木ネミ藤木ジウ南君
○金廿圓　北區堂島船大工町　進藤嘉一郎君

○金十圓　東區北久太郎町二丁目　尾野直七君
○金十圓　四區南堀江三番丁八十番屋敷　熊川六兵衛君
○金二十圓　北區曾根上四丁目　片岡馨君
○金五十圓　南區心齋橋筋二丁目　森平兵衛君
○金十五圓　四區新町通二丁目廿四　早川丈次郎君
○金十六圓　同區靱中通三丁目四十五　曾田竹次郎君
○金五十圓八十七錢　市立市岡尋常高等小學校惣代　小林秀政　二郎君
○金六十二圓五十錢　同學自出尋常高等小學校惣代　井上市太郎君　北川三郎君
○金十五圓　西區江戸堀南通四丁目廿二　柳九萬君
○金百圓　同區京町堀通上通五丁目六十九番　尾崎清七君
○金二十圓　北區東野田町四二　三好爲藏君
○金十圓　同區安治川通上二丁目八番屋敷　尾崎伊三郎君
○金五十圓　同區福屋町一丁目四十五番地葛粉商惣代　清水久助君
○金百圓　同區安治川通南二丁目二〇七　泉南郡木島村大字三松十七、惣代　新田九兵衛君
○防水布製風呂敷二千五百枚　東區北濱町三丁目二十番屋敷　河野仁三郎君外四人
○金十圓　四區北堀江町三丁目十九番屋敷　野村芳兵衛君
○金二十圓　同上二丁目十二番　酒井利三郎君
○金十五圓　登能郡池田町四十三、　天理教分廳池田支部惣代中越キミ君
○金十圓　泉北郡上神谷村大字登呂　中谷正次郎君
○金十一圓　中河内郡布施村大字永和　大西藤太郎君
○金十五圓　南區內安堂寺町二丁目二十六番屋敷　吉田金三郎君　非上平兵衛君
○金廿五圓　同區末吉橋通四丁目廿二番屋敷　城戸八十八君
○金二十圓　同區銀冶屋町二百廿六番屋敷惣代　尾田乘太君
○金廿八圓五十錢　同上二百〇五番屋惣代　山本儀三郎君
○金卅五圓　同區雜波新地一番丁七十一番屋敷　服部ウメ君
○金百圓　同區同上二十六番屋敷　松永常松君
○金十圓　同上三十二番屋敷　掃部常造君
○金十圓　同上百四十七番屋敷　增田千代君
○金十圓　同上六十三番屋敷　荒木平吉君

○金三十圓 同上三番丁百八十番屋敷 板橋ヨネ君
○金十一圓卅二錢 同上七十四番屋敷 貴田福助君
○金十圓 同 上 貴田政二郎君
○金十圓 同上五十九番屋敷 車治キク君
○金十圓 同上八十七番屋敷 桃井マル君
○金十圓 同上七十三番屋敷 岡村庄兵衛君
○金十圓 同上七十六番屋敷 平尾タツ君
○金十圓 同上百〇九番屋敷 吉田シゲ君
○金廿圓 同上坂町百十五番屋敷 横山次作君
○金十圓 同上三十六番屋敷 和泉鶴吉君
○金十圓 同上百三十六番屋敷 竹本駒藏君
○金十圓 同上四樽町三十一番屋敷 廣瀬かめ君
○金十五圓 同上東樽町三十一番屋敷 高田伊三郎君
○金廿圓 同上九郎右衛門町百四十一番屋敷 牛井セイ君
○金三十圓 同上百六十九番屋敷 加藤つぎ君
○金廿圓 同上八十三番屋敷 寺西やす君
○金十圓 同上一二九番屋敷 中西たき君
○金十圓 同上一一〇番屋敷 石河ふじ君
○金十圓 同上一三九番屋敷 墨馬豊二郎君
○金十圓 同上一四二、 松本長平君
○金十圓 同上一四三、 福木カツ君
○金十圓 同一九一、 東村寅吉君
○金十圓 同上二五六、 礎治三郎君
○金十圓 同上二五八、 杉本庄太郎君
○金十圓 同上宗右衛門町十五番屋敷 樋口トヨ君
○金十圓 同上十七、 森下幸太郎君
○金十圓 同上五番屋敷 加川エイ君
○金十圓 同上二三、 井上佐兵衛君
○金十圓 同上四十二、 吉井萬太郎君
○金十圓 同上四十三、 坂口ウジ君

○金十圓 同上五十六、 桂ジウ君
○金十圓 同上四十八、 山内タツ君
○金廿三圓五十錢 同上市場筋二丁目廿五番屋敷 大浦悦君
○金卅圓 同船町通三丁目百一番屋敷 木村庄三郎君
○金廿五圓 西成郡中津村大字光立寺一〇八、毛斯納紡績株式會社 瀧村竹男君
○金百圓 堺市新在家町四二丁十三、魚仲買惣代 梶本五郎平君
○金二十圓 東區淡路町二丁目一三七、 長岡彦七君
○金二十圓 同上南久寶寺町二丁目廿三番屋敷 太田增吉君
○金百七十四圓三十錢 東區第二高等小學次生徒二九八人惣代 上森端君
○金廿三圓廿二錢 豊能郡池田町三、二〇〇組師端惣代 善塔トミ君
○金十圓 泉南郡山直下村大字新在家惣代 藤浪茂一郎君
○金十圓 南河内郡南八下村大字小寺六十二、北隔天滿橋筋四丁目大坂電氣分社々員惣代 椙上かじ君
○金百圓 同上十一番屋敷 福田勝君
○金二百圓 同上十二番屋敷 河部平三君
○金五十圓 同上十三番屋敷 西原タカ君
○金廿圓 四區下通二丁目一四、 豊田ヤル君
○金二十圓 同上三丁目十八、 江島庄太郎君
○金計 同上百五十番屋敷 丹羽コマ君
○金四十圓 同區同町上通二丁目百十二、 竹谷ハナ君
○金三十圓 同下通三丁目百四十二、 志村ミツ君
○金三十圓 同上通二丁目一九一、 木村リト君
○金十五圓 同上三丁目一六九、 原ウタ君
○金十圓 同下通二丁目一八一、 大西ヨシ君
○金十圓 同上三丁目五十六 岸モト君
○金十圓 同上三丁目八十六 金澤ツタ君
○金十圓 同上通二丁目一七五、 高橋忠治郎君
○金十圓 同下通三丁目一五六、 江坂コマ君
○金十圓 同上二丁目一三九 野口ミネ君
○金十圓 同上三丁目九十二 堀口サヨ君
○金十圓 同上堀口サヨ方 大賀セイ君

○金二十圓　西區北堀江通三丁目十二ノ八號　大谷マス君
○金二十圓　同上二丁目一六〇　和田トク君
○金十圓　同上下通三丁目九十、　松倉トラ君
○白木綿二百三十反　手拭五十六反　南區雞波元町二丁目四三九一、泉北郡大津村大字下條大津三十八惣代　三義ツノ君
○金卅七圓五十錢　西區靱中通三丁目五十二、　河合ヒデ君
○金十圓　同區立賣堀裏町五丁目　永田治郎兵衛君
○金卅圓　車區清水谷東之町六八八、四六小學校惣代　内海鶴松君
○金四十六圓　西區江戸堀北通一丁目十一、　村上養吉君
○金十圓　同區西町通一丁目九番屋敷菅笠賣惣代　門倉保君
○金卅貳圓六十二錢　北河内郡星田村天理教會詰所　和田寅之助君　森岡豐次君
○金卅圓　北區中之島四丁目匹　東良三郎君
○金百圓　同區曾根崎新地二丁目一四一、堺市戒之町東二町目一番地、堺高等女學校　松本イト君
○金十圓　佛國人アルベールボン卜代理人　宮原大彥君
○金五十圓　泉北郡日根野村大字日根野三二惣代　佐藤セン君
○金二十圓　四成組申津村大字北立寺百〇八番屋敷　森本惣次郎君
○金十圓　東區內本町橋詰町一四二番屋敷　西田新右衛門君
○金卅五圓　泉北郡日根野村大字日根野三二惣代　片岡鹿三郎君
○金二十圓　北區上福島町二丁目四七五、堺市南旅籠町東二丁目四十三、堺高等小學校惣代　加藤吉藏君
○金百五十圓　南區久寶寺町西之町二一、鮎川アイ外二二八惣代　高見佐兵衛君

○日出紙卷莨二千八百個　北河內郡星田村百〇九番屋敷惣代　八田八重君
○金十圓　泉北郡日根野村大字日根野三二惣代　岡田長次郎君
○金卅五圓　泉北郡日根野村大字日根野三二惣代　山本秀次郎君
○金卅五圓　四成組申津村大字北立寺百〇八番屋敷　佛國人アルベールボン卜代理人　竹男君
○手拭五百筋　東區內本町橋詰町一四二番屋敷　桑原元太郎君
○金卅五圓　東區淡路町五丁目四十九番屋敷　瀨尾嘉兵衛君
○塵紙三萬四千枚　東區淡路町五丁目七十二番屋敷　八川卯之助君
○卷軸繪帶四百五十卷　三島郡茨木町大字茨木四八〇、　桂文七君
○梅干二樽　同上四百六十四番屋敷數　田川コウ君
○同一樽　同區博勞町二丁目百廿五番屋敷　佐野彌助君
○手拭千五百五十筋　西區北堀江上通二丁目三二、　三谷常助君
○金五十圓　東區博勞町三百八十二番屋敷數　土肥忠右衛門君
○金五百圓　同區本町西四丁目廿院婦人令惣代　河野安藤照君
○金二十圓　同區南農人町一丁目三八　南仁平次君
○金百圓　同區伏見町三丁目一〇　高橋祐二郎君
○金三十圓　同區厚勞町四丁目一〇九　中川勘助君
○金十圓　豐能郡豐泰野村大字木田第三、惣代　福井トメ君

○金八十圓　西區南堀江通一丁目七番屋敷有志　喜多三次部君　平川伊之助君
○金十圓　同上四丁目三十二　水野吉兵衛君
○金十圓　同上八番屋敷　山本乘吉君
○金十圓　同上三丁目五十九番屋敷　八木幸吉君
○金十圓　同區南堀江通二丁目十　鶴本定次郎君
○金十圓　同區北堀江二丁目五十八　小川常次郎君
○金十圓　同上三丁目廿一、　服部嘉兵衛君
○金十圓　同上二丁目一五三　新居和三郎君
○金十圓　同區四長堀南通二丁目六十四、　瀨尾新兵衛君
○金十圓　同區北堀江通二丁目六十四　小川彌三郎君
○金十圓　同區南堀江通四丁目十七、　山口政兵衛君
○金十圓　三島郡豐川村大字道祖本十五、惣代　森專太郎君
○金十圓　同郡玉櫛村大字水尾廿一、惣代　西田新右衛門君
○金二十圓　北區上福島町二丁目四七五、堺市南旅籠町東二丁目四十三、堺高等小學校惣代　片岡鹿三郎君
○金百五十圓　南區久寶寺町西之町二一、鮎川アイ外二二八惣代　加藤吉藏君

○金十圓　豐能郡小平和田堺六百番屋敷惣代　藤田藤二郎君
○金二十圓　同郡豐津村大字垂水上之町壹年番長　阪口作次君
○金十五圓　泉南郡上ノ郷村十九番屋敷壹年供樂部惣代　中谷藤吉君
○手拭五百筋　東區內本町橋詰町一四二番屋敷　桑原元太郎君
○金卅五圓　東區淡路町五丁目七十二番屋敷　瀨尾嘉兵衛君
▲金二千圓　東區淡路町五丁目七十二番屋敷　八川卯之助君
▲金千圓　同區南久寶寺町二丁目百番屋敷　桂文七君
○金二十圓　同區博勞町二丁目百廿五番屋敷　佐野彌助君
○金五十圓　同區安土町二丁目十七番屋敷　浮田福松君
○金二十圓　同區住吉町四十五番屋敷　山本ハツ君
○金十圓　同區南久太郎町二丁目百十番屋敷　伊藤九兵衛君
○金五百圓　同　上　關英之助君
○金十圓　同區木町一丁目四十番屋敷產婆看板　大澤ユキ君
○金五百圓　同區北濱一丁目五十四番屋敷　飯田タキ君
○金十圓　同區平野町二丁目九十二番屋敷　岡野松之助君
○金二十圓　豐能郡泰野村大字木田第三、惣代

○金十　圓　東區南久寶寺町二丁目二十　山本長兵衛君
○金二百五十四圓九十五錢五厘　同區第一高等小學校生徒惣代　岡村增太郎君
○金十　圓　北河內郡星田村三五四、四若中惣代　下坂安次郎君
○金十　圓　中河內郡八尾町大字中久太三十五番地　西川德三郎君
○金二萬五千九百四十三圓五十錢　中惣代大阪朝日新聞社長北區仲之島三丁目一四、　村山龍平君
○金一萬五千圓　北區仲之島三丁目一四、　右同　君
○金十　圓　同區瓢川町百十九番屋敷　久米リウ君
○金二百五十三圓四十六錢一厘　四區立賣堀裏町四一六、　吉川昇作君
○金七百　圓　同區南堀江一番町百六十番屋敷炭問屋組合惣代　黒川勝次郎君　野長瀨利兵衛君　岩成萬次郎君
○金三十　圓　同區下通二丁目百七十三番屋敷　岡村コマ君
○金廿五　圓　南區安堂寺町二丁目二六〇、　吉田金三郎君　上平兵衛君　非
○金二十　圓　同區堺堀町四三、　杉岡善八君
○金廿五　圓　同區銀冶屋町二三四、　淺利百松君
○金廿五　圓　同上二百〇八番屋敷惣代　龍田又六君
○金廿五　圓　同上二百廿九番屋敷惣代　林田孫太郎君
○金廿五　圓　南區久左衛門町七番屋敷惣代　橋本惣五郎君
○金十　圓　同區大寶寺町東之町一七七、堺市甲斐町西二丁目十番屋敷鳥井合名會社長西區立賣堀南通一丁目三〇、　鳥井駒吉君
○金三十　圓　同區九郎右衛門町一四〇、　吉野ユキ君
○金十　圓　同區二百四十番屋敷　田中ハナ君
○金十　圓　同上二〇六番屋敷　西條シゲ君
○金二十　圓　同區東掃町九番屋敷　川端重助君
○金十　圓　同上三十三番屋敷　佐野治三郎君
○金百　圓　同區笠屋町二百十番屋敷　山野スミ君
○金五十　圓　同區宗右衛門町五番屋敷　香川エイ君
○金廿二圓五十錢　同區大和町百十二番屋敷　藤井定七君　井川喜太郎君
○金三十　圓　同區御藏跡町十番屋敷　福田政吉君
○金廿五　圓　南區二百廿七番屋敷惣代　岡本菊松君
○金十　圓　同區九郎右衛門町一四〇、　同區第一高等小學校生徒惣代
○金二百五十四圓九十五錢五厘　北河內郡星田村三五四、四若中惣代　中河內郡八尾町大字中久太三十五番地
○金十　圓　中惣代大阪朝日新聞社長
○金二萬五千九百四十三圓五十錢　北區仲之島三丁目一四、
○金一萬五千圓　同區瓢川町百十九番屋敷
○金十　圓　四區立賣堀裏町四一六、
○金二百五十三圓四十六錢一厘　同區南堀江一番町百六十番屋敷炭問屋組合惣代
○金七百　圓　同區下通二丁目百七十三番屋敷
○金三十　圓　南區安堂寺町二丁目二六〇、
○金廿五　圓　同區堺堀町四三、
○金二十　圓　同區銀冶屋町二三四、
○金廿五　圓　同上二百〇八番屋敷惣代
○金廿五　圓　同上二百廿九番屋敷惣代
○金廿五　圓　南區二百廿七番屋敷惣代　岡本菊松君
○金三十　圓　同區九郎右衛門町一四〇、　吉野ユキ君
○金十　圓　同區二百四十番屋敷　田中ハナ君
○金十　圓　同上二〇六番屋敷　西條シゲ君
○金二十　圓　同區東掃町九番屋敷　川端重助君
○金十　圓　同上三十三番屋敷　佐野治三郎君
○金百　圓　同區笠屋町二百十番屋敷　山野スミ君
○金五十　圓　同區宗右衛門町五番屋敷　香川エイ君
○金廿二圓五十錢　同區大和町百十二番屋敷　藤井定七君　井川喜太郎君
○金三十　圓　同區御藏跡町十番屋敷　福田政吉君

○金二十　圓　同區雁波新地一番町一七一、　鎌田七兵衛君
○金二十　圓　同上二番町一五、　辻　クニ君
○金二十　圓　同上四六、　高木キク君
○金二十　圓　同上一九九、　辻與作君
○金二十　圓　同上四八、　牛窓平五郎君
○金二十　圓　同上二四、　高木勝君
○金二十　圓　同上一番町三七、　佐々木壽江君
○金二十　圓　同上六〇、　小川藤治郎君
○金二十　圓　同區四條町二五、　小川マサ君
○金十　圓　同區南炭屋町百十番屋敷　森川勘兵衛君
○金二十　圓　同　上　梅木清三郎君　ク君
○金十　圓　同區久左衛門町七番屋敷惣代　日根喜助君
○卷煙四千箱　同區大寶寺町東之町一七七、堺市甲斐町西二丁目十番屋敷鳥井合名會社長西區立賣堀南通一丁目三〇、　橋本惣五郎君
○清酒大瓶入四十八本　鳥井駒吉君
○白木綿百反　多田ウタ君
▲金五百　圓　北區大工町八十四番屋敷　山中吉郎兵衛君
▲金千　圓　東區南久寶寺町四丁目八六、三郡島嗣村大字島嗣四六九、敬男會惣代　山本保治郎君
○金十　圓　東成郡住吉村三一五番屋敷　角谷福松君
○金十　圓　堺市九間町東一丁四五、香勝社惣代　島津松二郎君
○金十六圓五十六錢　泉南郡岸和田村五二上町青年會惣代　泉幸三郎君
○金十一圓七十五錢　同郡能取村大字小垣和泉新聞社　藪久吉君
○金二十　圓　北河內郡水木村大字打上五四、惣代　川崎利三郎君
○金十　圓　同郡三島村大字神島七〇、　大矢彌四郎君
○金二十　圓　西成郡中津村大字光立寺毛斯倫紡績株式會社內男女工七七六人惣代　長谷川ヤス君
○金百七十一圓十五錢　南區木津大黒町二丁目一、二八四、　總川勝太郎君　タカ君
○金六十四圓五十五錢　同區雁波新地五番町四五三日拜講惣代　第二高等學校長代襲者　尾上角治郎君
○金四十八圓五十三錢　大阪市窯業組合惣代　河合義喜君
○金百〇二圓　堺市中之町堺貿屋組合惣代　清水清太郎君
○金廿七圓五十錢　北村彌七君

○金五十圓　南區千年町九一、尼講惣代　鈴木トミ君
○金十五圓　泉南郡岸和田町大字岸和田堺物仲買人惣代　二木淺吉君　芳谷德松君
○金十四圓卅二錢　南區内安堂寺町三一、四部有志惣代　山口興三松君　井上平兵衛君
○金十圓　北河内郡牧方町一一八、　阪本平治郎君
○金百圓　南區天王寺南河堀町大阪師範學校惣代　森本清藏君　村田宗一郎君
○金廿五圓　中河内郡意岐部村大字菱木西弐惣代　西尾駒吉君
○金十五圓　三島郡新田村大字上新田一一五、上新田夜學校惣代　奥井市太郎君
○金百五十七圓　東區内平野町一丁目九、建具商惣代　竹山伊助君
○金六十二圓六十五錢　西成郡歌島村大字野里小津細糸所惣代　光吉元治郎君
○金五十一圓卅五錢　西區第四高等小學校惣代　正林房治郎君
○金百五十一圓十二錢　同區北堀江下通一丁目九一、惣代　相馬テイ子君
○金百廿八圓五十錢　北區眞砂町五、金光教會眞砂會長　押木良七君
○金二十四圓　同上　福島茂助君　押木良七君
○金廿七圓　三島郡溝口村大字下穗積三八、青年會惣代　殿村良吉君
○金百五十四圓五十錢　東區第三高等小學校惣代　長谷川卯三郎君

○金十圓　東區内本町一丁目二一、惣代　飯田松之助君
○金三百二十圓　同區北久寶寺町四丁目六二、惣代　西田卯兵衛君
○金十圓　同區南久太郎町四丁目十番屋敷惣代　竹内源助君
○銘酒二樽　同區農人橋一丁目一五三、　喜多猶藏君
○アルミニユーム製携帶濾過器二百個　同區博勞町二丁目　外卅九人代表者　和井田嘉一君
○金百六十九圓八十五錢　西成郡中津村大字光立寺毛斯綸紡織株式會社男女工手代表者　有川貞輝君　河本サク君
○金十五圓　東區北新町一丁目三一、堀江同窓會　岡部乙二郎君　吉田厚君
○金百五十二圓　同上代表者　岡部乙二郎君
○百十三圓五十錢　西區江戸堀下通三丁目三九、大阪鐵友會惣代會長　山本新梧君
○白木綿四百二十九反　手拭三千百八十本　南區安堂寺橋通一丁目一〇一、惣代　植村タキ君
○金三十圓　北河内郡水本村寺延寺信友會代表者　井村安太郎君
○金十圓　同郡友呂岐村大字石津三弋有志惣代　出口仙太郎君　吉見淺二郎君
○金十五圓　北區松ヶ枝町一七四、　藤島良士君
○金三百圓　東區安土町一丁目卅二、　山田留吉君

○金二百圓　○晒五百反　○白木綿五百反　東區本町二丁目八十八番屋敷　牧野定助君
○金百圓　同區備後町二丁目百〇一番屋敷　谷口房藏君
○金百圓　同區南久寶寺町一番屋敷松山合名會社業務擔當社員　松山與兵衛君
○金卅五圓　同區北久太郎町三丁目一三九、　濱田熊三郎君
○金廿五圓　同區本町二丁目一八、　小杉佐兵衛君
○金廿五圓　同上三十九番屋敷　武田彌三郎君
○金廿五圓　同區南本町一丁目四四、　藤田末治郎君
○金廿五圓　同區南久太郎町二丁目四一、　高砂長兵衛君
○金廿五圓　同上三丁目八十六番屋敷　三露久兵衛君
○金十圓　北河内郡水室村大字穗谷青年組長　谷口政二郎君
○金百六十九圓五十錢　南區鍛冶屋町四十九番屋敷　人力車營業南組合惣代　木曾河與治郎君
○金二十圓　同區鰻谷東之町二四、本願寺別院代表者　大村勝兵衛君　鶴田平右衛門君
○金廿四圓廿七錢　大阪市立桃山病院看護婦惣代　大野ヌイ君
○金五十圓　南區鍛冶屋町二四四、　中西又兵衛君
○金十圓　同區西櫓町九七、　山口虎太郎君

○白木綿四百三十反　○手拭四千三百五十本　○ガーゼー四十二反　南區安堂寺橋通一丁目十三番屋敷惣代　平井タツ君
○金四十圓　東區安土町二丁目百五十二番屋敷　布谷直三郎君
○金四十圓　同區本町二丁目十七番屋敷　稻本唯七君
○金四十圓　同上七十三番屋敷　岡本鐵治郎君
○金三十圓　同區北久太郎町二丁目三九、　西岡金十郎君
○金廿圓　同區南本町一丁目十八番屋敷　牧村和七君
○金廿圓　同區安土町一丁目七十二番屋敷　山本熊藏君
○金二百圓　手拭二千筋　南區鰻町通四丁目六番屋敷　瀨尾喜治郎君
○金二百圓　同上三丁目廿九番屋敷　瀨尾末吉君
○金百圓　同區長堀橋筋二丁目八二番屋敷　布谷平兵衛君
○金百圓　同區安堂寺橋通三丁目八五、　津田太郎兵衛君
○金五十圓　同區鰻町三丁目十八番屋敷　瀨尾彌助君
○金十圓　同上同居員惣代　瀨尾喜三郎君
○金四十圓　東區南本町三丁目一一六、　尾崎岩吉君
○金二十圓　南區安堂寺町二丁目百廿七番屋敷　淺野伊之助君

○金十五圓　東區南本町四丁目二一　高宮虎之助君
○金十圓　同區唐物町四丁目三一　多羅尾德二郎君
○金廿八圓　南河內郡磯長村大字春日　奥野爲二郎君　熊二郎君

神奈川縣

○金二百圓　橫濱市北仲通二ノ三〇　堀やを君
○金十四圓二十四錢　津久井郡谷ヶ原青年倶樂部代表者　宮崎勝三郎君　小池佐平君
○金五十圓　中郡大磯町町惣代　尾崎金次郎君　茅ノ間政吉君
▲金百二十圓　橫濱市永樂町二ノ二三　矢島幸三郎君
▲金百二十圓　同上　一ノ一六　山口とめ君
▲金百二十圓　同上　一ノ一八　堀井金太郎君
▲金百二十圓　同上　二ノ一七　原田久吉君
▲金八十圓　同上　二ノ二六　和田來作君
▲金八十圓　同上　二ノ二〇　山口網吉君
▲金八十圓　同上　一ノ一六　神山九萬太郎君
▲金八十圓　同上　一ノ一七　井上賢次郎君
▲金八十圓　同上　二ノ二二　金子さき君
▲金五十圓　同上　二ノ二六　和井田龍吉君
▲金五十圓　同上　一ノ七　岡田吉兵衛君
▲金五十圓　同上　二ノ二二　阿部こう君
△金五十圓　同上　一ノ一四　葛谷又十郎君
△金五百圓　同上　二ノ二〇　島田政秀君
▲金四十圓　同上　二ノ二一　林まつ君
▲金四十圓　同上　一ノ一六　加藤龜太郎君
▲金四十圓　同上　二ノ二三　福原なか君
▲金四十圓　同上　一ノ一四　網島とみ君
▲金三十圓　同上　二ノ二五　關野由松君
▲金三十圓　同上　二ノ二一　多田太平君
▲金二十圓　同上　二ノ二二　平井政吉君
▲金八十圓　橫濱市永樂町二ノ一七　岩本才次郎君
▲金十五圓　同上　二ノ二三　安藤みき君
▲金十圓　同上　一ノ一八　大久保覺太郎君
▲金十圓　同上　二ノ一七　田村かね君
▲金十圓　同上　二ノ一七　反町竹三郎君
▲金十圓　同上　二ノ二三　田中てつ君
▲金十圓　同上　二ノ二一　岩本かめ君
▲金十圓　同上　一ノ一五　柳澤庄之助君
▲金十圓　同上　二ノ一七　鈴木ふく君
▲金八十圓　橫濱市眞金町二ノ二〇　神藏かく君
▲金六十五圓　同上　一ノ一〇　岡本鶴之助君
▲金五十圓　同上　二ノ一九　本間金藏君
▲金四十圓　同上　一ノ六　深澤久七君
▲金二十五圓　同上　二ノ二〇　高橋七作君
▲金三十圓　同上　一ノ一五　平井佐吉君
▲金三十圓　橫濱市眞金町二ノ二二　内田みつ君
▲金三十圓　同上　二ノ二三　市川けい君
▲金二十五圓　同上　一ノ一三　石野正吉君
▲金二十五圓　同上　二ノ二〇　橋本みつ君
▲金二十圓　同上　二ノ一四　碓井わか君
▲金二十圓　同上　二ノ二二　木村常吉君
▲金二十圓　同上　二ノ二〇　森田とよ君
▲金十圓　同上　一ノ一一　松下龍一郎君
▲金十圓　同上　二ノ一五　和井田貞吉君
▲金十圓　同上　二ノ二二　林しま君
△金十圓　同上　二ノ二二　石川鶴太郎君
▲金十圓　同上　二ノ一四　田中與吉君
▲金十圓　同上　一ノ六　反町儀忠太君
▲金十圓　同上　二ノ二三　奥芳松君
▲金十圓　同上　二ノ二二　柳澤しやう君

▲金十　圓　横濱市吉金町二ノ一五　中山ゐい君
○金千　圓　中郡南秦野町尾尻九八　梅原修平君
△金八百　圓　中郡大磯町大磯一丁目北濱流民總代　梅原邊太郎君
○金五十　圓　中郡小中村大字根坂間寺會總代　二挺木勝五郎君
○金十　圓　中郡城島村小鍋島二三七一　山口富三郎君
○金二十　圓　中郡太田村代表者　大谷三千三君
○金十　圓　中郡小中村大字根坂間寺會總代　足立留次郎君
○金十　圓　中郡小中村總堅二九七　臼井萬次郎君
○金十二　圓　中郡南秦野町田原學校總代　武　進太郎君
○卷煙草武萬本　中郡秦野町二八五秦野婦人會總代　梅原八重子君
○梅干五樽　中郡平塚町平塚二〇〇五　尾崎作次郎君
○金十五　圓　中郡土澤村土屋四組　安池周藏君
○金七十五圓七十八錢　中郡成瀨村高座二五九五會屋學校　征矢藤萬之助君　伊勢德藏君
○赤梅漬十二樽　中郡大野村一四九一　石川常次郎君
○金十　圓　中郡中組大會金傳講中世話人總代　吉澤佐右衛門君
○金一萬　圓　横濱市南仲通一ノ四　小野光景君

○鷄肉味噌四百八十個　横濱市野毛町二ノ七八　小林吉五郎君
○金四十七圓五十錢　横濱市南仲通四ノ七七　藪　覺次郎君
△金千　圓　橘樹郡大師河原村一間寺住職　佐伯隆運君
○金二百五十圓　同上　前住職大僧正　佐伯隆範君
○金二百五十圓　同々住職中僧正　深瀨隆健君
○金廿　圓　横濱市太田町二ノ三〇　市田清七君
○金五十　圓　横濱市尾上町二ノ一八　吉田菊五郎君
○金四十　圓　横濱市山下町一三英國領事館内總代　絹笠竹松君　八木橋三吉君
○金百　圓　横濱市蓬萊町三ノ一三　原木仙之助君
○金二十二圓　同上原木仙之助店員總代　濱野牛兒君
○金百　圓　横濱市山下町二一六　曾　星舫君
○金四十　圓　横濱市北方町六〇六　園田秀吉君
○金二十　圓　横濱市中村町二四〇四　徳田佐一郎君
○金三十　圓　横濱市中村町二　鈴木卯兵衛君
○金二十　圓　横濱市中村町四　鈴木濱吉君

○金五十　圓　横濱市中村町一四〇七　飯田惣七君
○金百　圓　横濱市居留地支那人　東同差君
○金五百　圓　同上同　鄭曉初君
○金五百　圓　同上同　曾卓軒君
○金百　圓　横濱市日本郵船會社固轄丸員　木下長治君
○金六十八圓二十二錢八厘　横濱市北仲通元濱町總代　大塚信太郎君　佐生吉五郎君　外二人
○金五十　圓　横濱市日本郵船會社倉庫係　野崎萬之助君
○金廿　圓　横濱市便局電信部集配人　石塚梅次郎君
○金百　圓　横濱市硝子製造株式會社有志總代　瀧谷長次君
○金十　圓　横濱市吉田町二ノ六一　荒川政風君
○金五　圓　堺濱市月岡町八奥兵衛會員　市原又七君
○金二十　圓　足柄下郡小田原町萬年町三丁目漁業水口總代　高橋久五郎君
○金十　圓　横濱市三谷町二ノ七　志村傳七君
○金十八圓八十四九三　准久井郡長竹村二總代　宮城覺太郎君
○金五錢　愛甲郡愛川村半原　鯛原倉之助君
△金千　圓　愛甲郡愛川村半原　關野光之助君
○金十二圓五錢　愛甲郡愛川村半原四四九二　總代

○金十　圓　足柄上郡南足柄小學校同窓會總代　關野光之助君
○金二十二圓四十七錢　愛甲郡田代村田代青年會長　大矢仁三郎君
○金十六圓九十錢　高座郡大澤村上大澤三一〇大澤小學校同窓會總代　八木武藏君
○金十　圓　横濱市花咲町八ノ八五　大石幸吉君
○金十　圓　足柄下郡早川村青年會長　寺木清吉君
○金廿九圓五十一錢　津久井郡寺山村一一三六　平本齊一郎君
▲金二　拾　圓　足柄上郡南足柄村矢野青年會總代　鈴木暉政君
○金五　十　圓　三浦郡南下浦村松輪二八二　出口彦三郎君
○金十　圓　横濱市南太田町二一九〇　出口松尾君
○金十五　圓　横濱市青木町五九八　島崎久次郎君
○金十　圓　同　上　六七六　佐藤龜吉君
○金十　圓　同　上　六一五　宮田無二藏君
○金七十　圓　横濱市中村町二　鈴木宇平君
○金五　十　圓　同　上　一四〇七　飯田想七君
○金十　圓　同　上　一四六九　木村爲三郎君

○金十五圓 横濱市中村町一九 山口元五郎君
○金十五圓 横濱市根岸町一五二七 飯島秋三郎君
○金十五圓 横濱市中村町一三六九 須田定次郎君
○金十一圓 鎌倉郡戸塚村戸塚人力車業總代 山下八十八君
○金五十四圓
△金三百圓 横濱市戸部町四ノ一三三立生小學校總代 大平相次君
○金五十九圓八十錢 津久井郡中野村愛國婦人會總代 國松汐子君
○金十圓 足柄上郡酒田村牛島六六青年總代 露木佐二郎君 田代兼吉君
○金十圓 橘樹郡中原村上丸子一四二三青年總代 山本菊藏君
○金五十圓 横濱市中村町一五四八 小林忍君
○金二十圓 横濱市霞町一ノ五山澤要之助店員總代 足立喜助君 前田金二郎君
○金五十二圓十三錢 三浦郡横須賀町汐留二一總代 永島カン君
○金八十圓 三浦郡横須賀町大瀧四二總代 若命傳吉君
○金八十圓 同郡同町 石渡勘藏君
○梅千百五十二樽 足柄下郡小田原町十字三ノ六八總代 關きみ君
○梅千三樽 橘樹郡日吉村一、二四一 菱沼爲良君

○手拭千筋 三浦郡久里濱村内川新田両三總代 根本竹三郎君
○卷軸繃帶二百五十卷 横濱市境町一ノ二五 渡邊コウ君
○卷軸繃帶二百五十卷 横濱市境町一ノ二五 渡邊トメ君
○金十圓 足柄上郡二川村井細田豐七中隊 星野喜八君
○金百圓 神奈川青木町二八藝妓組合總代 矢部鐵藏君
○金廿五圓 足柄下郡小田原町十字一ノ一三〇 阪本守太郎君
○金廿一圓十錢 橘樹郡中原村小田中時習學校同窓會總代 安藤安君
○九唐晒木綿百反 横濱市常磐町三ノ二二 小林みね君
○金五十圓 同市南仲通一ノ六 田澤要之助君
○金二十圓 愛甲郡荻野村ノ内荻野七二八盛積社總代 石井忠造君
○金十圓 高座郡綾瀬村寺尾天六親友會總代 橋川千作君
○鰹節デンブ六千袋 横濱市元濱町二ノ一五婦人有志者代表者 奬兵義會々長勳四等 大谷嘉兵衛君
○金二十七圓五十錢 町内有志者總代 右同君
○手拭三千本 横濱市住吉町六ノ七九 澤田コツ君
●金二百圓 横濱市尾上町五ノ八一 高島嘉右衛門君

○金三十圓 横濱市青木町四三九理髪業總代 安齋竹次郎君
○金四十六圓卅二錢 同市辨天町四ノ七足袋商組合總代 糸井勇次郎君 鈴木作次郎君
○ハンカチーフ千二百枚 同市根岸町三、一一九 藤木傳吉君 山田千代君
○金四十圓 同市元濱町一ノ五 古屋政二郎君
○金三十圓 同市戸部町二ノ四九 内田テツ君
○金二十圓 同市神奈川町一〇九 井上市藏君
○金二百九十二圓 同市山本町中村町根岸町有志總代 吉川紋二郎君 今川幸太郎君 龜田三吉君
○金二十圓 鎌倉郡中和田村上飯田本興寺檀徒總代 中村日遙君
○金十圓 同市末吉町二丁目卅四番地 伊藤玄藏君
○皇國白葡萄酒十折五箱 同市戸部町一ノ三番地同市野毛町二丁目四十番地 中垣秀雄君 池田堅平君
○ハンカチーフ千二百枚
○靴足袋三百足 同市長者町八丁目七十八、山手町八十三 女學校生徒代表者 松田タカ君 山上カク君
○金廿圓五十錢 高座郡藤澤大坂町金光教信徒代表者 増田金太郎君
○手拭千五百筋 足柄上郡南足柄村大字關本大雄山最乘寺住職 石川素童君
○金廿五圓 横濱市中村町千四百九番地 芝崎留五郎君
○金貳十圓 同市南仲通三丁目三十八番地 大森峰次郎君

○金百四十一圓十二錢五厘 都筑郡新田村二、四四五番地新羽總代 中村貞三君
●金千圓 横濱市元濱町二丁目一番地 渡邊福三郎君

兵庫縣

○金百圓 神戸市下山手通七ノ八八番屋敷 安部良助君
○金三十七圓五十錢 三原郡堺村賀屋組合總代 北村彌七君
○金十一圓五十錢 城崎郡豐岡町豐岡銀行員總代 橋本豐之助君
○金十五圓 姫路市姫路商業銀行員總代 鈴木孫四郎君
○金二十二圓 神戸市立大開尋常小學校 早水流矢君 山口石翁君
○金十二圓六十錢 揖保郡神部村神部高等小學校 山本貞藏君
○金十圓 川邊郡小田村大字濱村總代 淺野茂吉君
○金十圓 揖保郡布施村青年會 竹内彌吉君 前田佐吉君
○金十五圓十三錢 加古郡平田村ノ内新在家村一三四番屋敷 永井房太郎君
○金十圓 姫路市北條口十八番屋敷 砂川雄健君
○金百圓 加古郡高砂町ノ内清水町三十四番屋敷 伊藤秀吉君

○金三十八圓三十錢　武庫郡四宮町字宿地一ノ二三　岡本小美津君
○金十圓　加古郡野村ノ内下村保村管年團體　佃梅三郎君
○金百圓　揖保郡龍野町ノ内惣代　脇坂安斐君
△金二百圓　揖保郡龍野町ノ内龍野町平十番屋敷　華族
○金十五圓　揖保郡龍野町ノ内龍野町四六番屋敷　松井梅吉君
○金七十三圓五十七錢　神戸市南逆瀬川淨業寺住職　太田楠町有志惣代　平熊宜明君
○金十六圓　神戸市江戸町藤之寺住職　望月有成君
○金五十圓　神戸市三宮町二目三十六番屋敷　神戸町東川崎町二目一〇五番屋敷　清水セイ君
○金百圓　伊勢崎工場　伊勢崎町三町目九番屋敷ノ土　伊勢市五郎君
○金十二圓八十五錢　神戸荒田町三町目四番屋敷ノ土　奥田宮太郎之助君　高木長之助君
○金四十五圓　加東郡福田村ノ内大門村十二番屋敷　蓬萊林太郎君
○金二十四圓　加東郡福田村ノ内大門村五番屋敷　蓬萊宗兵衛君
○金十圓　加東郡福田村ノ内大門村十二番屋敷　蓬萊節太郎君
○金十圓　加東郡福田村町内大門村十九番屋敷　石井近造君
○梅干三樽　城崎郡豊岡町ノ内久保町惣代　桝田ツル君
○紙巻莨三五四本　神戸下山平通八ノ七〇　牛塲道子君
○金二百圓七十錢　城崎郡豊岡町　眞宗婦人會中君
○金十圓　神崎郡福本村菅年惣代　竹西幸太郎君
○金三十圓六十四錢五厘　武庫郡西宮町ノ内鞍掛町四十番屋敷　森口鐵彌君
○金十圓　揖保郡香島村ノ内下筒村字三番屋敷　森本省吾君
○金五十圓　神戸市北長狹町通四丁目字二番屋敷　中澤政次郎君
○金十五圓　神戸市下山手通五丁目七十八番屋敷　布施ゲン君
○金百二十三圓　武庫郡住吉村四十三番屋敷惣代　植田友二郎君
○金十圓　武庫郡住吉村ノ内美方郡射添村ノ内山田村字二番屋敷　下田清五郎君
○金十圓　三原郡加良村ノ内八部村十八四　南佐平君
○金十圓　明石郡非崎村ノ内舟上村三十番屋敷　小川濟君
○金七十五圓　神戸市訓導補習科等小學校　職員生徒一同君
○金六十圓　神戸市海岸通二町目伊藤其處後見人　百目木元三郎君
○金二十五圓　神戸湊川小學校職員惣代　芥川梅次郎君
二分金廿四個二朱金二個二分銀二百八個一朱銀四百四十六個　朝來郡牧田村ノ内　内海敬太郎君
▲金一百圓　神戸市生絲會所　津川信三郎君
○金百圓　神戸町山木町四丁目　山口伊之助君
○金百圓　神戸市山木町五丁目　小松德次郎君
○金二十圓　神戸市北長狹通七丁目　石井ミツ君
○金五十圓　神戸市元町三丁目　三城萬太郎君
▲金五百圓　神戸市橋通二丁目　鯛フサ君
○金百圓　神戸市元町三丁目　松田茂吉君
▲金一萬圓　神戸町三宮町二丁目三一六番屋敷三宮神社内　清水セイ君
○金二千圓　神戸市桑町二丁目　金八十三圓五十錢　麥少彭君　歸化人
○金十圓　神戸市和田崎町　上田廣近君
○金一千圓　神戸支廳外四品取引所仲買人　桝谷熊吉君
○金一千圓　明石郡玉津村ノ内小山村四番屋敷竹内兼藏父　竹内佐右衛門君
▲金一百圓　神戸市元町一丁目　大島兵太郎君
○金一千圓　神戸市元町一丁目　井上方勝君
○金百圓　神戸市桑町　山手宗次郎君
○金五百圓　神戸取引所仲買人　神田久藏君
○金百圓　神戸取引所仲買人　藤井忠兵衛君
○金百圓　神戸取引所仲買人　福井寅三君
○金百圓　神戸取引所仲買人　柴田市兵衛君
○金百圓　神戸取引所仲買人　馬渡俊朗君
○金三百圓　神戸福原町　大橋重次郎君
○金百圓　神戸市元町　室井政八君
○金百圓　神戸市元町通三丁目太物商　本庄紋太郎君
○金六十圓　神戸市海岸通二丁目鐵系組合長　伊藤良藏君
○金五十圓　神戸市桑町通リ三丁目四二　近藤信三郎君
○金百圓　飾磨郡津田村ノ内今子家村區長　柴垣清三郎君
○金五十圓　神戸市元町五丁目　大橋キク君
○金十圓　有馬郡三田町ノ内三日町一九七　內田吉之助君
○金四百五十七圓　神戸市元町通四丁目中檢番　藝舞妓有志中君
○金十圓　神戸取引所仲買人　安藤タミ君
○金五百圓　神戸取引所仲買人　神田久藏君

○金十　圓　神戸市福原町　大久保又吉君
○金十五圓　神戸市加納町五丁目　黒澤シャウ君
○金十　圓　武庫郡西須磨　山田源之亟君
○金十　圓　神戸市下山手通一丁目　岡新吉君
○金百圓　神戸市北野町二丁目三十三番屋敷　村岡七兵衛君
△金五百圓　神戸市元町四丁目　小西定藏君
○金五十圓　神戸市下山手通七ノ三二　青池徳吉君
▲金千圓　神戸市榮町二丁目二十番屋敷　生島五三郎君
○金十　圓　明石郡明石町ノ内大明石村一九ノ一　藤井雅太君
○金三十圓　神戸市榮町五丁目　井上ッネ子君
○金二十圓　神戸市東川崎町　淺元辰橘君
○金五十圓　兵庫市三川口村一丁目一三八番屋敷　大西吉太郎君
○金二十五圓　神戸市熊野町内二ノ九六ノ一　石川三藏君
○金廿一圓三十錢　明石郡魚住村花郷軍人會長　野口爲之助君
○金十五圓　神戸市須佐野通二ノ三八　水上波江道排君
○金百四十圓七十錢　神戸市柳町四ノ二四惣代　福西卯之助君

○金五十圓　神戸市中山手通四ノ三　櫻井三治君
○金三十圓　神戸市北長狹町五ノ二　川島秀吉君
○金十六圓十五錢　武庫郡魚崎村四四二　卯田トセ君
○金十　圓　武庫郡魚崎村一五ノ一　八尾シヅ君
○金二十圓　武庫郡魚崎村二〇二　森下アサ君
○金五十圓　神戸市下山手通七ノ三二　青池徳吉君
○金二十圓　神戸市下山手通四ノ五〇　岡澤忠兵衛君
○金十　圓　神戸市脇ノ濱　山本藤松君
○金五十五圓　神戸市下山手通七丁目　五十風文松君
○金五十六圓五十錢　神戸市上橘上三丁目天理教會代表者　吉田作太郎君
○金百　圓　飾磨郡飾磨村夷堀　溝口小八郎君
○金五十圓　飾磨郡飾磨町須賀　厚友會君
○金五十圓　飾磨郡飾磨町須賀　早川宗八郎君
○金十五圓　神戸市下山手通八丁目　江間賤男君
○梅干四樽　神戸市多門通五丁目　水谷清太郎君

○金三百圓　神戸市曙淺町　河内寅次郎君
○金三十圓　神戸市榮町六丁目　河西善兵衛君
○金二十圓　神戸商業補習學校生徒總代　鈴木金四郎君
○梅干十六樽　多田郡笹山町來迎寺總代　岩間舜海君
○金十五圓　武庫郡鬼崎村ノ内魚崎村四五〇　山邑綱君
○金十五圓　武庫郡魚崎村四五〇ノ内　山邑久榮君
○金二十圓　有馬郡八田村ノ内附物村五五　小路徳太郎君
○金二十圓三十五錢　神戸市橘町一ノ一四代表者　梅谷晃輔君
○金百八十圓八十錢　神戸市湊町三丁目十八兵庫商業組合代表者　石井市松君
△金二百圓　神戸市入江通五ノ一　大島喜馬太君
○金十七圓　神戸市兵庫江川町二番屋敷佛跡講中支會總代　神宮奉齋會代表者　遠藤經敎君
○金四十圓五十錢　神戸市下山手通二丁目九番屋敷　吉井歸一君
○金十　圓　神崎郡大山村ノ内大山村ノ内　今村次郎君　猶居政君
○金十　圓　神戸市下山手通三丁目六十番屋敷ノ内二一　杉青年會君
○金二十圓　養父郡大屋村ノ内大和村一五　横山榮吉君
○金三十二圓五十錢　神戸市元町三丁目　柴田洋服店工場一同君

○金二百七十九圓○五錢　神戸市相生橋部内人力車營業有志者　三田文吉君
○金十　圓　神戸市加納町二丁目五番屋敷　茶谷長四郎君
○金十　圓　神戸市榮町二丁目二十五番屋敷　米井米次君
○金五十圓　神戸市湊町二丁目百卅四番屋敷　川崎正藏君
●金二萬圓　神戸市加納町一丁目十五番屋敷　高田安吉君
○金百　圓　神戸市山邑分校通一丁目一番屋敷　栗谷吉兵衛君
○金三十圓　神戸市北長狹通八一五九番ノ四　北島幾松君
○金十　圓　神戸市相生町四丁目一四五　勉強床君
○金十　圓　神戸市相生町四丁目二四六　福橋龜吉君
○金三十圓　神戸市兵庫荒田町三丁目一三番二二　吉井歸一君
○金二十圓　神戸市江戸町百番館内ホンクレ商會　今村次郎君　猶居政治君
○金二十圓　養父郡大屋村ノ内大和村一五　長濱ト久君
○金十　圓　有馬郡有馬町極樂寺觀音講　正垣定治君
○金三十圓　三原郡加集村内福井村九四六　原田作治君

○清酒二斗入二百樽　川汲郡伊丹町九五六　小西新右衛門君
▲金二百圓　神戸地方裁判所長正五位　田九稔君
○金二十圓　多紀郡北河内村ノ内上坂非村代表者　五條順周君
○金三十圓　朝來郡山口村ノ内新非村五二代表者　小林定太郎君　高橋大次郎君
○金十圓　氷上郡巻日部村ノ内多利村一二四　舟川菊藏君
○金十圓　氷上郡巻日部村ノ内小多利村三四一　細谷カジ外五名君
○金二十五圓　飾磨郡高岡村ノ内下平野村五六　大鹽龜太郎君
○金二十圓　武庫郡魚崎村四二七　山邑タミ君
○金三十圓　養父郡越家村ノ内長野村一三　西垣タヘ君
○金十圓　神崎郡川辺村ノ内東川辺村五三〇　高橋菊次郎君
○金十圓　神崎郡田原村惣代南田原村青年惣代　松岡龍太郎君　上阪三次君
○金十四圓　宍粟郡山崎町惣代　下村久太郎君
○金九十四圓六十三錢　加古郡加古川町ノ内寺家町七惣代　柏木ヌイ君
○金五十二圓八十錢　赤穂郡那波村ノ内池ノ内村四番屋敷惣代　梅田勘兵衛君
○金百三圓六十七錢　飾磨郡高岡村ノ内下平野村五六　桂善三郎君
○金七十六圓六十錢　武庫郡四宮町字倉開地二五三惣代　三浦藤次郎君
○金百圓　加古郡高砂町ノ内清水町二十二番屋敷　伊藤秀吉君
○金十圓　神戸市楠町二ノ二四四　小林覺三郎君
○金四十圓　下山手通八丁目一八三ノ三代表者　萱野三次郎君
○金十圓　橋通一ノ三一　津田清吉君
○金六十五圓二十錢　相生町三ノ一三一惣代　山中藤兵衛君　加藤長君
○金三十三圓二十五錢　入江通一ノ九惣代　糸瀬鶴吉君
○金千圓　神戸市川崎町十九番屋敷　川西清兵衛君
○金十三圓三十七錢　川辺郡尼ケ崎町七ノ二　石田常吉君
○金十七圓六十錢　八幡字校生徒惣代　田中一成君
○金十圓　三原郡加集村ノ内福非村九五一　土居恒吉君
○金十圓　三原郡加集村ノ内福非村九〇三　中川喜一君
○金二十圓九十錢　神戸市羽坂通一ノ三　石田盛安君　三木徳三郎君　吉君
○金二圓　神崎郡香呂村ノ内廣瀬村尚谷々長　金川米次郎君　吉君　藤尼九郎君
○金十圓　姫路市川崎町十九番屋敷　足立連逸君
○金三十圓十錢　赤穂郡那波村ノ内佐方村四十五番屋敷惣代　大道富藏君
○金十圓　神戸市花隈町三九三　海堀兵次郎君
○金五十圓　神戸市楽町二ノ四　麥黄一氏君　家族一同
○金三十圓二十九錢　神戸市下山手通四丁目五七　北地鶴松君
○金十圓　神戸市中山手通二ノ七五　堀江祖範君
○金十圓　御幸通三丁目一七〇　松村忠吉君
○金二百二十七圓三十五錢　橋通ノ三ノ三十六惣代　山田兼松君　外二人
○金二十五圓　下山手通七丁目四三　西川文藏君
○金十圓　下山手通七丁目四三　西川京君
○金十五圓　下山手通七丁目七二　前田由松君
○金二十圓　神戸市布引町四丁目八〇　山崎次貞君
○梅干四樽　城崎郡竹野町ノ内小田非町七五惣代　岡田安藏君
○金百圓　武庫郡御影町ノ内御影村八二九惣代　鍛治ツネ君
○金十圓　武庫郡御影町ノ内御影村七八六　嘉納タネ君
○金二百二十四圓八十錢　赤穂郡那波村ノ内隆村惣代　矢野幸作君

○金十圓　姫路市三宅村　三宅青年會
○金十圓　神崎郡田原村ノ内四田原村一一〇六　三木レイ君
○金三十圓六十錢　武庫郡西宮町ノ内歳掛町字五番屋敷　森口鐵也君
○金百九十八圓二十錢　武庫郡住吉村六十二番屋敷住吉村惣代　横田幸太郎君
○金十二圓　飾磨郡手柄村内栗山村三〇　神塚梅一君
○金百九圓九十錢　飾磨郡手柄村ノ内惣代　吉田健藏君
○金十五圓　同郡手柄村ノ内栗山村三六　伊藤原平君
○金十二圓　飾磨郡手柄村ノ内栗山村二八　八木宇吉君
○金十圓　同郡手柄村ノ内栗山村一四　伊藤七平君
○金百三十八圓七十五錢　神戸市楠町一ノ九一丁目代表者　勘藏君　谷口新太郎君
○金五十圓三十錢　揖保郡龍野町龍野高等小學校長惣代　橋本三之助君
○金十一圓八十錢　揖保郡龍野町ノ内上川原町　高島久次君
○金十圓　川辺郡立花村ノ内大四村青年會惣代　今井安太郎君
○金二十五圓　神戸市大開通二丁目四一ノ一　藤田清助君
○金十圓九十三錢　加古郡神野村四之山村青年團惣代　坂田藤藏君

○金十　圓　飾磨郡英賀保村ノ内山崎村　後藤萬次君
○金三十四圓六十錢　加西郡北條町内北條町五　杉本治兵衛君　清瀧平兵衛君　二君
○晒木綿六百反
○金十　圓　明石郡林崎村ノ内船上村二七惣代　石井玄之助君
○金十五圓　神戸市須佐野通三丁目三八ノ二惣代　水野道雄君
○金十　圓　三原郡廣田村ノ内山添村　代表者　三宅惣四郎君
○金十五圓　神戸市下山手通八丁目一八三　岡村初之助君
○晒木綿百五十反　揖保郡龍野町ノ内龍野町七九八　長谷川勇助君
○金十　圓　加西郡北條町ノ内北條町一〇一六ノ三　柏木伍一君　内藤豊君
○金十一圓　飾磨郡城北村ノ内山野井村　戸祭純應君
○金二十圓　津名郡潮村七八　邑知イク君
○金二十四圓五十八錢　明石郡明石町明石高等小學校惣代　稻見國松君
○金十五圓　養父郡口大屋村ノ内根見村　藤原五一郎君　公徳會長
○金三十圓　川邊郡稻野村ノ内山田村字西屋敷　黒石米藏君
○金三十圓　神戸市和田崎町二丁五ノ三　紀野コウ君　直木撚糸製造所代表者
○金三十圓　神戸市兵庫町三丁目一〇〇ノ二　小谷乃吉君　坂野吉君　二君
○金百圓　飾磨郡城北村ノ内山野井村　後藤萬次君
○金二十五圓　加古郡阿閇村ノ内古田村二九　萬年佛海君
○晒木綿六百反　神戸市中山手通六丁目三〇ノ六番地　根本セイ君　海員家族代表者
○金二十七圓　武庫郡西宮町字三號地一九一四惣代　足立長藏君
○金十一圓四十九錢　兵庫縣戸原村ノ内川戸村四一九代表者　前田ツエ君　壯年會惣代
○金二十圓　三原郡廣田村ノ内納村一五八　仁平君　泉
○金二十圓　明石郡垂水村ノ内四垂水村八　松浦伊五郎君　三浦菊松君
○金百圓　姫路市袋町三三　松浦イシ君
○金百四十九圓　神戸市島上町六十三番ノ二惣代　木元喜八君
○金十四圓八十錢　神戸市楠通二丁目五一　藤尾ノブエ君
○金十　圓　神戸市中町通四ノ四　岡田重堅君
○金十五圓　神戸市東出町二丁目一一九　守安善三郎君
○金六十圓　神戸市兵田町三丁目七三代表者　滑川貞次君　西川種介君
△金三百圓　神崎郡寺前村小學校構内　本間龜太郎君　青年會惣代
○金四十五圓　右同　人君
△金二十五圓　同上結人合々長

○金七十四圓六十錢　養父郡八鹿村ノ内九鹿村一六八　金光講惣代小講元　兒島菊太郎君　代表者
○金十　圓　養父郡大屋村ノ内大杉村七一　中庭熊治君
○金十五圓　出石郡出石町ノ内町三一　楠寂角　護君　打功　道君　端源吉君
○金十　圓　神戸市兵庫小物屋町四九端商店惣代
○金五十圓　神崎郡船津村上野組消防組惣代　小林市太郎君　吉岩
○金二十六圓九十錢　多紀郡岡野村ノ内四圓屋村二五惣代　梶原平三郎君
○金十九圓五十錢　安佐郡三川村大字東野五〇　宮前無涯君　華敦寺
○金十一圓十一錢　加東郡福田村ノ内東實村二　小林豐次郎君　從八位
○金十五圓　多紀郡岡野村ノ内東圓屋村　小山好太郎君
○金十　圓　多紀郡岡野村ノ内東岡屋村四六七　小山惣吉君
○金十　圓　多紀郡岡野村ノ内東圓屋村二三　小山平太郎君
○金十　圓　多紀郡岡野村ノ内東圓屋村二四　小山百太郎君
○金十　圓　多紀郡岡野村ノ内東圓屋村四〇　小山覺右衛門君
○金十　圓　多紀郡岡野村ノ内東圓屋村四六　谷田常助君
○金十四圓二十錢　美囊郡口吉川村ノ内笹原村三　杉本太吉君　惣代
○金十　圓　出石郡出石町字柳町四三　河合要造君
○金二十七圓三十七錢　三原郡廣田村ノ内中條村七四四　壯年代表者　山岡豐太君
○金十四圓五十錢　揖保郡林田村ノ内大久谷村一〇惣代　常城清次君
○金十　圓　揖保郡香島村下筋村五九番ノ一惣代　森本伊之助君
○金十　七　圓　揖保郡龍野町内龍野町九四二　森崎安太郎君
○金十　圓　揖保郡糸井村二一　富岡チエ君
○金十四圓二十三錢　加西郡西在田村ノ内　上坂賢治君
○金十一圓五十錢　明石郡玉津村ノ内下津橋村二惣代　池内龜藏君
○綿帶八〇〇卷　神戸市下山手通七ノ二九六ノ一惣代　友國晴子君
○梅干三樽　姫路市盛立町四一　山崎嘉吉君
○天狗巻煙草六百個　姫路市福中村二九　古川タツ君
○梅干一樽　津名郡多賀村ノ内多賀村四三惣代　木村三木藏君
○梅干八十五貫　川邊郡小濱村ノ内米谷村一五五惣代　池内吉三郎君
目
○金十　圓　武庫郡魚崎村二八六　山路タイ君　正六位勲六等
○金十　五　圓　神戸市下山手通八丁目一八二　岡村初之助君